



IBM Systems - iSeries

i5/OS コマンド

VFYCMN (通信検査) での開始～

バージョン 5 リリース 4





IBM Systems - iSeries

i5/OS コマンド

VFYCMN (通信検査) での開始～

バージョン 5 リリース 4

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、337 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、i5/OS (プロダクト番号 5722-SS1) のバージョン 5、リリース 4、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りが無い限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Systems - iSeries
i5/OS Commands
Starting with VFYCMN (Verify Communications)
Version 5 Release 4

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2006.2

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2006. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2006

目次

通信検査 (VFYCMN)	1	光ディスクの検査 (VFYOPT)	19
パラメーター	1	パラメーター	19
検査タイプ (VFYTYPE)	1	装置 (DEV)	19
リモート制御点 (RCPNAME)	2	例	19
ネットワークID (NETID)	2	エラー・メッセージ	19
ユーザー識別コード (USERID)	2	印刷装置検査 (VFYPRN)	21
パスワード (PASSWORD)	2	パラメーター	21
例	3	ワークステーション印刷装置 (DEV)	22
エラー・メッセージ	4	印刷回数 (TIMES)	22
イメージ・カタログの検査 (VFYIMGCLG) 5		例	22
パラメーター	5	エラー・メッセージ	22
イメージ・カタログ (IMGCLG)	5	サービス・エージェントの検査	
検査タイプ (TYPE)	6	(VFYSRVAGT)	23
イメージ・カタログのソート (SORT)	6	パラメーター	23
例	7	タイプ (TYPE)	23
エラー・メッセージ	7	エラー・ログ識別コード (ERRLOGID)	23
LPDA-2をサポートするリンク検査		例	24
(VFYLNKLPDA)	9	エラー・メッセージ	24
パラメーター	9	サービス構成の検証 (VFYSRVCFG)	25
行 (LINE)	9	パラメーター	25
テスト (TEST)	9	サービス (SERVICE)	25
ローカルDCEアドレス (LCLDCEADR)	10	例	25
リモートDCEアドレス (RMTDCEADR)	10	エラー・メッセージ	26
出力 (OUTPUT)	11	テープの検査 (VFYTAP)	27
順序の数 (SEQCOUNT)	11	パラメーター	27
リモートDTEポート (DTEPORT)	11	装置 (DEV)	27
DTE再試行 (DTERTY)	11	資源名 (RSRCNAME)	27
DCE再試行 (DCERTY)	12	例	27
テスト後のリンク状況 (VRYLNKSTS)	12	エラー・メッセージ	28
例	12	TCP/IP接続の検査 (VFYTCPCNN)	29
エラー・メッセージ	13	パラメーター	29
NETWARE認証項目の検査		リモート・システム (RMTSYS)	30
(VFYNTWAUTE)	15	リモート・インターネット・アドレス	
パラメーター	15	(INTNETADR)	30
サーバー・タイプ (SVRTYPE)	15	アドレス・バージョン形式 (ADRVERFMT)	30
NDSツリー (NDSTREE)	15	メッセージ・モード (MSGMODE)	31
サーバー (SERVER)	15	パケットの長さ (バイト数) (PKTLEN)	31
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	16	パケット数 (NBRPKT)	31
例	16	待ち時間 (秒数) (WAITTIME)	31
エラー・メッセージ	16	ローカル・インターネット・アドレス	
OPTICONNECT接続の検査		(LCLINTNETA)	32
(VFYOPCCNN)	17	TYPE OF SERVICE (TOS)	32
パラメーター	17	IP有効時間 (ホップ限界) (IPTTL)	32
例	17	例	33
エラー・メッセージ	17	エラー・メッセージ	34

構成変更 (VRYCFG)	35
パラメーター	37
構成オブジェクト (CFGOBJ)	38
タイプ (CFGTYPE)	38
状況 (STATUS)	39
範囲 (RANGE)	39
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	40
非同期のオフに構成変更 (ASCVRYOFF)	40
リセット (RESET)	40
資源名 (RSRCNAME)	40
強制的にオフに構成変更 (FRCVRYOFF)	41
複数ジョブの投入 (SBMMLTJOB)	41
ジョブ記述 (JOB)	41
パス証明書の生成 (GENPHTCERT)	42
システムのリセット (RESETSYS)	42
例	42
エラー・メッセージ	44
待機 (WAIT)	45
パラメーター	45
応答する装置のCL変数 (DEV)	45
オープン・ファイル識別コード (OPNID)	46
例	46
エラー・メッセージ	47
WHEN (WHEN)	49
パラメーター	49
条件 (COND)	49
コマンド (THEN)	50
例	50
エラー・メッセージ	51
活動ジョブ処理 (WRKACTJOB)	53
パラメーター	53
出力 (OUTPUT)	53
状況統計リセット (RESET)	54
サブシステム (SBS)	54
CPUパーセント限界 (CPUPCTLMT)	54
応答時間限界 (RSPLMT)	54
順序 (SEQ)	55
ジョブ名 (JOB)	56
自動再表示間隔 (INTERVAL)	56
例	56
エラー・メッセージ	57
警報処理 (WRKALR)	59
パラメーター	59
表示オプション (DSPOPT)	59
期間 (PERIOD)	60
警報タイプ (ALRSTYPE)	61
資源名 (ALRRSC)	62
警報資源タイプ (ALRRCTYPE)	62
ユーザー割り当て (ASNUSER)	63
グループ (GROUP)	63
出力 (OUTPUT)	63
詳細 (DETAIL)	64

例	64
エラー・メッセージ	64
警報記述の処理 (WRKALRD)	65
パラメーター	65
メッセージ識別コード (MSGID)	65
警報テーブル (ALRTBL)	65
例	66
エラー・メッセージ	66
警報テーブルの処理 (WRKALRTBL)	69
パラメーター	69
警報テーブル (ALRTBL)	69
例	70
エラー・メッセージ	71
APPN状況の処理 (WRKAPPNSTS)	73
パラメーター	73
オプション (OPTION)	73
接続される制御装置 (CTL)	74
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	74
リモート制御点 (RMTLOCNAME)	74
リモート制御点 (RMTCPNAME)	75
モード (MODE)	75
トランスポート接続ID (TCID)	75
例	76
エラー・メッセージ	76
ASPジョブの処理 (WRKASPJOB)	77
パラメーター	77
ASP装置 (ASPDEV)	77
例	78
エラー・メッセージ	78
権限の処理 (WRKAUT)	79
パラメーター	79
オブジェクト (OBJ)	79
シンボリック・リンク (SYMLNK)	80
例	80
エラー・メッセージ	80
権限リスト処理 (WRKAUTL)	83
パラメーター	83
権限リスト (AUTL)	83
例	83
エラー・メッセージ	84
バインド・ディレクトリーの処理 (WRKBNDDIR)	85
パラメーター	85
ディレクトリーのバインド (BNDDIR)	85
例	86
エラー・メッセージ	87
バインド・ディレクトリー項目の処理 (WRKBND DIRE)	89

パラメーター	89	状況 (STATUS)	116
ディレクトリーのバインド (BNDDIR)	89	ASPグループ (ASPグループ)	117
例	90	論理的な作業単位ID (LUWID)	117
エラー・メッセージ	90	出力 (OUTPUT)	118
BOOTPテーブルの処理 (WRKBPTBL) 91		重複ジョブ・オプション (DUPIJOB OPT)	118
パラメーター	91	例	118
例	91	エラー・メッセージ	119
エラー・メッセージ	91	接続リストの処理 (WRKCNL) 121	
構成リスト処理 (WRKCFGL) 93		パラメーター	121
パラメーター	93	接続リスト (CNL)	121
構成リスト (CFGL)	93	例	121
例	94	エラー・メッセージ	121
エラー・メッセージ	94	接続情報処理 (WRKCNTINF) 123	
構成状況処理 (WRKCFGSTS) 95		パラメーター	123
パラメーター	95	例	123
タイプ (CFGTYPE)	95	エラー・メッセージ	123
構成記述 (CFGD)	96	COS記述処理 (WRKCOSD) 125	
出力 (OUTPUT)	98	パラメーター	125
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	98	サービス・クラス記述 (COSD)	125
範囲 (RANGE)	98	例	125
状況 (STATUS)	99	エラー・メッセージ	126
援助レベル (ASTLVL)	99	通信サイド情報の処理 (WRKCSI) 127	
例	100	パラメーター	127
エラー・メッセージ	100	サイド情報 (CSI)	127
図表様式の処理 (WRKCHTFMT) 101		例	128
パラメーター	101	エラー・メッセージ	129
図表様式 (CHTFMT)	101	制御装置記述の処理 (WRKCTLD) 131	
例	102	パラメーター	131
エラー・メッセージ	103	制御装置記述 (CTLD)	131
クラスの処理 (WRKCLS) 105		例	132
パラメーター	105	エラー・メッセージ	132
クラス (CLS)	105	IDDUを使用したDBファイル処理 (WRKDBFIDD) 133	
例	106	パラメーター	133
エラー・メッセージ	107	ライブラリー (LIB)	133
クラスターの処理 (WRKCLU) 109		例	133
パラメーター	109	エラー・メッセージ	134
オプション (OPTION)	109	DDMファイル処理 (WRKDDMF) 135	
例	110	パラメーター	135
エラー・メッセージ	110	ファイル (FILE)	135
コマンドの処理 (WRKCMD) 111		出力 (OUTPUT)	137
パラメーター	111	例	137
コマンド (CMD)	111	エラー・メッセージ	137
例	112	装置記述の処理 (WRKDEVD) 139	
エラー・メッセージ	113	パラメーター	139
コミットメント定義の処理 (WRKCMTDFN) 115		装置記述 (DEVD)	139
パラメーター	115	リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	140
ジョブ名 (JOB)	116	例	141

エラー・メッセージ	141	パラメーター	161
装置テーブル処理 (WRKDEVTBL)	143	出力 (OUTPUT)	161
パラメーター	143	状況統計リセット (RESET)	161
装置テーブル (DEVTBL)	143	例	161
テキスト'記述' (TEXT)	144	エラー・メッセージ	162
例	144	配布リスト処理 (WRKDSTL)	163
エラー・メッセージ	144	パラメーター	163
ディレクトリー項目の処理 (WRKDIRE) 145		リスト識別コード (LSTID)	163
パラメーター	145	コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	164
ユーザー識別コード (USRID)	145	例	165
ユーザー・プロファイル (USER)	146	エラー・メッセージ	165
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	146	配布待ち行列処理 (WRKDSTQ)	167
例	147	パラメーター	167
エラー・メッセージ	147	配布 (QUEUE)	167
ディレクトリー位置の処理		出力 (OUTPUT)	168
(WRKDIRLOC)	149	例	168
パラメーター	149	エラー・メッセージ	168
例	149	データ域の処理 (WRKDTAARA)	171
エラー・メッセージ	149	パラメーター	171
ディレクトリー・シャドー・システムの		データ域 (DTAARA)	171
処理 (WRKDIRSHD)	151	例	172
パラメーター	151	エラー・メッセージ	173
シャドー・システムのタイプ (TYPE)	151	データ・ディクショナリー処理	
例	151	(WRKDTADCT)	175
エラー・メッセージ	152	パラメーター	175
文書処理 (WRKDOC)	153	例	175
パラメーター	153	エラー・メッセージ	175
文書 (DOC)	153	データ定義の処理 (WRKDTADFN)	177
フォルダー (FLR)	153	パラメーター	177
例	154	データ・ディクショナリー (DTADCT)	177
エラー・メッセージ	154	定義タイプ (DFNTYPE)	177
文書ライブラリー処理 (WRKDOCLIB) 155		例	178
パラメーター	155	エラー・メッセージ	178
例	155	データ待ち行列の処理 (WRKDTAQ) 179	
エラー・メッセージ	155	パラメーター	179
文書印刷待ち行列処理		データ待ち行列名 (DTAQ)	179
(WRKDOCPRQT)	157	例	180
パラメーター	157	エラー・メッセージ	181
例	157	編集記述の処理 (WRKEDTD)	183
エラー・メッセージ	157	パラメーター	183
DSNX/PC待ち行列の処理 (WRKDPCQ) 159		編集記述 (EDTD)	183
パラメーター	159	例	183
配布待ち行列 (PCNODE)	159	エラー・メッセージ	184
出力 (OUTPUT)	159	環境変数の処理 (WRKENVVAR)	185
例	160	パラメーター	185
エラー・メッセージ	160	環境変数のレベル(LEVEL)	185
ディスク状況の処理 (WRKDSKSTS) 161		例	185
		エラー・メッセージ	186

ファイル処理 (WRKF)	187
パラメーター	187
ファイル (FILE)	187
ファイル属性 (FILEATR)	188
例	189
エラー・メッセージ	190
機能使用法の処理 (WRKFCNUSG)	191
パラメーター	191
機能ID (FCNID)	191
例	191
エラー・メッセージ	191
フォルダー処理 (WRKFLR)	193
パラメーター	193
フォルダー (FLR)	193
例	193
エラー・メッセージ	193
フォント資源の処理 (WRKFNTRSC)	195
パラメーター	195
フォント資源 (FNTRSC)	195
オブジェクトの属性 (OBJATR)	196
例	197
エラー・メッセージ	197
用紙定義の処理 (WRKFORMDF)	199
パラメーター	199
用紙定義 (FORMDF)	199
例	200
エラー・メッセージ	200
フィルターの処理 (WRKFTR)	203
パラメーター	203
フィルター (FILTER)	203
例	204
エラー・メッセージ	205
フィルター処置項目の処理 (WRKFTRACNE)	207
パラメーター	207
フィルター (FILTER)	207
例	207
エラー・メッセージ	208
フィルター選択項目の処理 (WRKFTRSLTE)	209
パラメーター	209
フィルター (FILTER)	209
例	209
エラー・メッセージ	210
図形記号セットの処理 (WRKGSS)	211
パラメーター	211
図形記号セット (GSS)	211

例	212
エラー・メッセージ	213
ハードウェア・プロダクト処理 (WRKHDWPRD)	215
エラー・メッセージ: WRKHDWPRD	215
パラメーター	215
例	215
エラー・メッセージ	216
ハードウェア資源の処理 (WRKHDWRSC)	217
パラメーター	217
タイプ (TYPE)	218
回線タイプ (LINETYPE)	218
例	218
エラー・メッセージ	218
保留光ディスク・ファイル処理 (WRKHLDOPTF)	221
パラメーター	221
ボリューム識別コード (VOL)	221
例	222
エラー・メッセージ	222
イメージ・カタログの処理 (WRKIMGCLG)	223
パラメーター	223
イメージ・カタログ (IMGCLG)	224
イメージ・カタログ・タイプ (TYPE)	224
例	224
エラー・メッセージ	224
カタログ項目の処理 (WRKIMGCLGE)	227
パラメーター	228
イメージ・カタログ (IMGCLG)	228
例	228
エラー・メッセージ	228
IPX記述処理 (WRKIPXD)	229
パラメーター	229
IPX記述 (IPXD)	229
例	229
エラー・メッセージ	230
ジョブ処理 (WRKJOB)	231
パラメーター	232
ジョブ名 (JOB)	232
出力 (OUTPUT)	233
オプション (OPTION)	233
重複ジョブ・オプション (DUJOB OPT)	234
例	234
エラー・メッセージ	235
ジョブ記述処理 (WRKJOB D)	237

パラメーター	237
ジョブ記述 (JOBDD)	237
例	238
エラー・メッセージ	239

ジョブ・ログの処理 (WRKJOBLOG) 241

パラメーター	241
ジョブ・ログの状態 (JOBLOGSTT)	241
時間枠 (PERIOD)	242
ジョブ名 (JOB)	244
例	244
エラー・メッセージ	245

ジョブ待ち行列処理 (WRKJOBQ) 247

パラメーター	247
ジョブ待ち行列 (JOBQ)	247
出力 (OUTPUT)	248
例	248
エラー・メッセージ	248

ジョブ・スケジュール項目処理 (WRKJOBSCDE) 251

パラメーター	251
ジョブ名 (JOB)	251
出力 (OUTPUT)	252
印刷形式 (PRTFMT)	252
順序 (SEQ)	252
スケジュール・ユーザー (SCDBY)	253
投入日 (SBMDATE)	253
ジョブ待ち行列 (JOBQ)	253
例	253
エラー・メッセージ	254

ジャーナル処理 (WRKJRN) 255

パラメーター	255
ジャーナル (JRN)	255
例	256
エラー・メッセージ	256

ジャーナル属性処理 (WRKJRNA) 259

パラメーター	259
ジャーナル (JRN)	260
出力 (OUTPUT)	261
詳細 (DETAIL)	261
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	262
出力を受け取るメンバー (OUTMBR)	263
ジャーナル識別番号 (JRNID)	263
例	264
エラー・メッセージ	265

ジャーナル・レシーバーの処理 (WRKJRNRCV) 267

パラメーター	267
ジャーナル・レシーバー (JRNRCV)	267
例	268
エラー・メッセージ	269

LANアダプターの処理 (WRKLANADPT) 271

パラメーター	271
回線記述 (LINE)	271
出力 (OUTPUT)	271
例	272
エラー・メッセージ	272

ライブラリー処理 (WRKLIB) 273

パラメーター	273
ライブラリー (LIB)	273
ASP番号 (ASP)	274
ASP装置 (ASPDEV)	275
例	275
エラー・メッセージ	275

ライセンス情報の処理 (WRKLICINF) 277

パラメーター	277
プロダクト識別コード (PRDID)	277
出力 (OUTPUT)	278
例	278
エラー・メッセージ	278

回線記述の処理 (WRKLIND) 279

パラメーター	279
回線記述 (LIND)	279
例	280
エラー・メッセージ	280

オブジェクト・リンクの処理 (WRKLNK) 281

パラメーター	281
オブジェクト (OBJ)	282
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	282
詳細 (DETAIL)	282
表示オプション (DSPOPT)	283
例	283
エラー・メッセージ	283

MLB資源待ち行列の処理 (WRKMLBRSCQ) 285

パラメーター	285
ライブラリー装置 (MLB)	285
例	285
エラー・メッセージ	286

媒体ライブラリー処理状況 (WRKMLBSTS) 287

パラメーター	287
ライブラリー (MLB)	287
資源名 (RSRCNAME)	288
例	288
エラー・メッセージ	288

メニュー処理 (WRKMNU) 289

パラメーター	289
--------	-----

メニュー (MENU)	289	エラー・メッセージ	318
例	290	ネットワーク・ファイルの処理	
エラー・メッセージ	291	(WRKNETF)	319
モジュールの処理 (WRKMOD)	293	パラメーター	319
パラメーター	293	ユーザー (USER)	320
モジュール (MODULE)	293	出力 (OUTPUT)	320
モジュール属性 (MODATR)	294	出力を受け取るファイル (OUTFILE)	320
例	295	出力を受け取るメンバー (OUTMBR)	321
エラー・メッセージ	295	例	321
モード記述処理 (WRKMODD)	297	エラー・メッセージ	322
パラメーター	297	ネットワーク・ジョブ項目処理	
モード記述 (MODD)	297	(WRKNETJOBE)	323
例	297	パラメーター	323
エラー・メッセージ	298	出力 (OUTPUT)	323
メッセージの処理 (WRKMSG)	299	例	323
パラメーター	299	エラー・メッセージ	324
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	299	ネットワーク・テーブル項目の処理	
出力 (OUTPUT)	300	(WRKNETTBLE)	325
メッセージ・タイプ (MSGTYPE)	300	パラメーター	325
重大度コード・フィルター (SEV)	301	ネットワーク (NETWORK)	325
援助レベル (ASTLVL)	301	出力 (OUTPUT)	325
例	301	例	326
エラー・メッセージ	302	エラー・メッセージ	326
メッセージ記述処理 (WRKMSGD)	305	ノード・リストの処理 (WRKNODL)	327
パラメーター	305	パラメーター	327
メッセージ識別コード (MSGID)	305	ノード・リスト (NODL)	327
メッセージ・ファイル (MSGF)	306	例	328
例	306	エラー・メッセージ	329
エラー・メッセージ	306	ノード・リスト項目の処理	
メッセージ・ファイルの処理		(WRKNODLE)	331
(WRKMSGF)	309	パラメーター	331
パラメーター	309	ノード・リスト (NODL)	331
メッセージ・ファイル (MSGF)	309	アドレス・タイプ(ADRTYPE)	332
例	310	例	332
エラー・メッセージ	311	エラー・メッセージ	332
メッセージ待ち行列処理 (WRKMSGQ)	313	NETBIOS記述の処理 (WRKNTBD)	335
パラメーター	313	パラメーター	335
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	313	NETBIOS記述 (NTBD)	335
例	314	例	335
エラー・メッセージ	315	エラー・メッセージ	336
通称の処理 (WRKNCK)	317	付録. 特記事項	337
パラメーター	317	商標	338
アクセス (ACCESS)	317	使用条件	339
例	318		

通信検査 (VFYCMN)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

通信検査(VFYCMN)コマンドはテストする回線の選択画面を表示するので、それを使用して、通信装置が適切に作動していることを確認することができます。

ユーザーのシステム構成によって異なりますが、次のテストを実行することができます。

- リンク
- ローカル・モデム
- リモート・モデム
- ケーブル
- 通信入出力アダプター
- リンク問題判別援助機能2 (LPDA-2)

制約事項: このコマンドは、*EXCLUDEの共通認可で出荷され、QPGMR, QSYSOPR, QSRV,および QSRVBASユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用する専用認可があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
VFYTYPE	検査タイプ	*REMOTE, *LOCAL	オプションル, 定位置 1
RCPNAME	リモート制御点	名前	オプションル
NETID	ネットワークID	名前, *NETATR	オプションル
USERID	ユーザー識別コード	名前	オプションル
PASSWORD	パスワード	文字値, X*, *NONE	オプションル

トップ

検査タイプ (VFYTYPE)

妥当性検査のタイプを指定します。ローカルまたはリモート通信ハードウェアが正しく作動しているかどうかを確認することができます。

注: IBM SYSTEM MANAGER FOR I5/OSプログラムが導入されていない場合には、リモート分析を実行することはできません。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

***LOCAL**

通信ハードウェアがこのISERIESで正しく作動していることを確認する検査が行われます。

***REMOTE**

通信ハードウェアがサービス要求元として登録された別のISERIESシステムで正しく作動していることを確認する検査が行われます。

[トップ](#)

リモート制御点 (RCPNAME)

リモート検査が行なわれるサービス要求元システムのリモート制御点名を指定します。リモート制御点名を指定してください。

注: このパラメーターは、**検査タイププロンプト**(VFYTYPEパラメーター) に*REMOTEを指定した場合にだけ有効です。

[トップ](#)

ネットワークID (NETID)

リモート検査が実行されるサービス要求元システムのネットワークID (ID)を指定します。

注: このパラメーターは、**検査タイププロンプト**(VFYTYPEパラメーター) に*REMOTEを指定した場合にだけ有効です。

考えられる値は、次の通りです。

***NETATR**

サービス提供元のネットワークIDが使用されます。

ネットワークID

ネットワークIDを指定してください。

[トップ](#)

ユーザー識別コード (USERID)

リモート・システムのアクセスに使用されるユーザーID (ID)を指定します。

注: このパラメーターは、**検査タイププロンプト**(VFYTYPEパラメーター) に*REMOTEを指定した場合にだけ有効です。

[トップ](#)

パスワード (PASSWORD)

リモート・システムのアクセスに使用されるパスワードを指定します。

注: このパラメーターは、**検査タイプ**プロンプト(VFYTYPEパラメーター) に*REMOTEを指定した場合にだけ有効です。

考えられる値は、次の通りです。

***NONE**

リモート・システムには10の機密保護レベルがあるので、リモート・システムのアクセスにパスワードは不要です。

パスワード

パスワードを指定してください。

トップ

例

例1:テストする回線の選択パネルを表示

```
VFYCMN
```

このコマンドは、「テストする回線の選択」パネルを表示します。

例2:リモート・システムを検査

```
VFYCMN VFYTYPE(*REMOTE)
```

このコマンドは、コマンドの残りの値をプロンプトするパネルを表示します。該当の値を入力すると、リモート分析が開始されます。

例3:パスワードを使用してリモート・システムをアクセス

```
VFYCMN VFYTYPE(*REMOTE) RCPNAME(RCH38377) USERID(JON)  
PASSWORD(ABC123)
```

このコマンドは、コマンドの残りの値をプロンプトする画面を表示します。コマンドの例に示された値に重ねて該当の値を入力すると、リモート分析が開始されます。

例4:パスワードなしでリモート・システムをアクセス

```
VFYCMN VFYTYPE(*REMOTE) RCPNAME(RCH38377) USERID(JON)
```

このコマンドは、PASSWORDパラメーターが指定されていないこと以外は前の例と同じです。同じプロンプト画面が表示されますが、システムは、リモート・システムが機密保護レベル10を持つ（すなわちパスワードを使用しない）ものと見なします。このコマンドを指定した後で、別のプロンプト画面が表示されます。その画面にユーザーが該当の値を指定すると、リモート分析が開始されます。

例5:ローカル・システムを検査

```
VFYCMN VFYTYPE(*LOCAL)
```

このコマンドは、ローカル装置上で分析を開始します。残りのパラメーターは画面上に表示されません。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2B3C

ライセンス・プログラム&1が導入されていません。

[トップ](#)

イメージ・カタログの検査 (VFYIMGCLG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

イメージ・カタログ検査(VFYIMGCLG)コマンドは、TYPEパラメーターに指定された値に基づいてイメージ・カタログ中のイメージを検査するために使用します。ユーザーは、同様にTYPEパラメーターに基づいてオプションでイメージを導入順序で分類することができます。

コマンドが正常に完了すると、状況メッセージが出されます。VFYIMGCLGコマンドが失敗した場合には、イメージ・カタログ項目処理(WRKIMGCLGE)コマンドを使用して、そのイメージとそれぞれの状況を調べることができます。VFYIMGCLGコマンドは、ソフトウェア・アップグレード、PTFの導入、その他のタイプの導入が完全であったことを確認するためにイメージを検査することを目的としたものです。

制約事項:

- このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
- イメージ・カタログを検査するには、次の権限が必要です。
 1. ライブラリーQUSRSYSに対する実行(*EXECUTE)権限。
 2. イメージ・カタログに対する*USE権限。
 3. 仮想装置記述に対する*USE権限。
 4. イメージ・カタログ・パス名の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限。
- このコマンドがサポートされるのは、光ディスク・タイプのイメージ・カタログの場合だけです。
- このコマンドは、従属イメージ・カタログではサポートされません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
IMGCLG	イメージ・カタログ	名前	必須, 定位置 1
TYPE	検査タイプ	*UPGRADE, *PTF, *OTHER	オプション
SORT	イメージ・カタログのソート	*NO, *YES	オプション

[トップ](#)

イメージ・カタログ (IMGCLG)

検査するイメージ・カタログを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 イメージ・カタログの名前を指定します。

検査タイプ (TYPE)

検査するイメージ・カタログのタイプを指定します。

***UPGRADE**

検査される光ディスク・イメージ・カタログは完全なソフトウェア・アップグレードに関してです。システムは、ソフトウェア・アップグレードのイメージが存在し、仮想光ディスク装置にロードできることを検査します。次のリストはI5/OSに必要なイメージを示します。

1. ライセンス内部コード (必要)
2. オペレーティング・システム (必要)
3. ライブラリーQGPL (必要)
4. ライブラリーQUSRSYS (必要)
5. 無料オプション
6. 無料 (ボーナス) ライセンス・プログラムおよびオプション
7. キー・セット製品
8. 単一製品
9. 2次言語
10. プログラム一時修正

***PTF** 検査される光ディスク・イメージ・カタログはPTF導入に関してです。システムは、PTFボリューム・セットがすべて完全で、仮想装置にロードできることを検査します。PTFボリューム以外はどれもアンロードされます。

***OTHER**

検査されるイメージ・カタログは特定のタイプの導入に関してではありません。このオプションは、イメージをその存在する順序でイメージ・カタログからロードします。イメージの検査またはソートは行なわれません。

トップ

イメージ・カタログのソート (SORT)

このタイプのイメージを、ソフトウェア・アップグレードまたは PTF 導入に必要な順序にソートする必要があるかどうかを指定します。TYPE(*OTHER)を指定した場合には、イメージ・カタログのイメージはソートされません。

***NO** イメージ・カタログのイメージは、TYPEパラメーターに指定された値に基づいてソートされません。

***YES** イメージ・カタログのイメージは、TYPEパラメーターに指定された値に基づいてソートされます。

トップ

例

例1:イメージ・カタログでのソフトウェア・アップグレードの検査

```
VFYIMGCLG  IMGCLG(MYCLG)  TYPE(*UPGRADE)  SORT(*YES)
```

このコマンドは、ソフトウェアのアップグレードに必要なファイルがイメージ・カタログ**MYCLG**に入っているかどうかを検査します。必要なイメージ・ファイルが存在する場合は、イメージはソフトウェアのアップグレードに必要な順序でソートされます。

例2:イメージ・カタログでの適用PTFの検査

```
VFYIMGCLG  IMGCLG(MYCLG)  TYPE(*PTF)
```

このコマンドは、イメージ・カタログ**MYCLG**中ですべての必要な累積PTFボリュームが使用可能であることを検査します。イメージのソートは行われません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFBC20

イメージ・カタログ&1の検査が失敗した。

CPFBC45

イメージ・カタログ&1が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

[トップ](#)

LPDA-2をサポートするリンク検査 (VFYLNKLPDA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

LPDA-2をサポートしているリンク検査(VFYLNKLPDA)コマンドによって、LPDA-2テストのいずれかを実行し、指定した形式で結果を受け取ることができます。

制約事項: このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷され、ユーザー・プロファイルQPGMR, QSYSOPR, QSRV,およびQSRVBASは、このコマンドを使用する私用認可をもっています。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LINE	行	名前	必須, 定位置 1
TEST	テスト	*DCELINSTS, *DCELINTST, *ANZLIN, *SNDRCV	オプション
LCLDCEADR	ローカルDCEアドレス	01-FB, *LCL	オプション
RMTDCEADR	リモートDCEアドレス	01-FB, *ANY	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション
SEQCOUNT	順序の数	1-3, <u>1</u>	オプション
DTEPORT	リモートDTEポート	<u>A</u> , B, C, D	オプション
DTERTY	DTE再試行	*NO, *YES	オプション
DCERTY	DCE再試行	*NO, *YES	オプション
VRYLNKSTS	テスト後のリンク状況	*SAME, *ON, *OFF	オプション

[トップ](#)

行 (LINE)

テストされるリンク上の回線（非交換*SDLC）の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

テスト (TEST)

4つのテストのどれが実行されるかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***DCEINSTS**

データ回線終端装置(DCE)の回線状況が戻されます。

***DCELINTST**

データ回線終端装置(DCE)の回線テストが行なわれます。

***ANZLIN**

回線分析テストが行なわれます。このテストはアナログ回線専用です。

***SNDRCV**

送受信テストが行なわれます。

[トップ](#)

ローカルDCEアドレス (LCLDCEADR)

ローカル・データ回線終端装置(DCE)アドレスを指定します。規則によって、このバイトのビット4-7は、ローカルおよびリモートのDCEのリンク・セグメント・レベル(LSL)を示します。ビット0-3は、同じLSLでの複数のローカルDCEからローカルDCEを固有に識別するために使用されます。このアドレスは構成時にローカルDCE でセットされ、この規則に従います。

注: X'00'はローカルDCEに有効なアドレスではありません。

考えられる値は、次の通りです。

***LCL** LSL 1のローカルDCEのアドレスであるX'01'が使用されます。

ローカルDCEアドレス

ローカルDCEアドレスを指定してください。有効な値の範囲はX'01'からX'FB' です。

[トップ](#)

リモートDCEアドレス (RMTDCEADR)

リモート・データ回線終端装置(DCE)アドレスを指定します。

マルチポイント・リンクをテストする場合には、このパラメーターを指定しなければなりません。

考えられる値は、次の通りです。

***ANY** グローバル・リモートDCEアドレスのX'FD'が使用されます。リモートDCEがアイドル状態でない場合には、前に構成されているアドレスに関係なくリモートDCEが応答します。

注: マルチポイント従属端末DCEは*ANYのアドレスには応答しません。

リモートDCEアドレス

リモートDCEアドレスを指定してください。有効な値の範囲はX'01'からX'FB' です。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

* 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのプール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

トップ

順序の数 (SEQCOUNT)

送受信テスト用に送信する文字列の数を指定します。文字列は、16ブロックのグループであり、ブロック長はDCEの構成によります。

考えられる値は、次の通りです。

1 テスト中に1文字列が送られます。

文字列の数

送信する文字列の数を指定してください。有効な値の範囲は1-3です。

トップ

リモートDTEポート (DTEPORT)

リモートDCEのデータ端末装置(DTE)ポートを指定します。これについての状況が戻されます。このパラメーターが有効なのは、DCEの回線状況および回線テストを処理している時だけです。このパラメーターは、複数ポートDCEだけに意味があります。

考えられる値は、次の通りです。

A Aポートの状況が戻されます。

B Bポートの状況が戻されます。

C Cポートの状況が戻されます。

D Dポートの状況が戻されます。

トップ

DTE再試行 (DTERTY)

ローカルDCEからの応答が間違っているか、あるいは応答が受け取られなかったために、このコマンドでシステムDTEからローカルDCEへのリンク操作がやり直されることを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** このコマンドで再試行は行なわれません。

***YES** このコマンドで再試行されます。

トップ

DCE再試行 (DCERTY)

リモートDCEから間違った応答が受け取られた場合、あるいは応答が受け取られなかった場合に、ローカルDCEがリモートDCEに対するコマンドをやり直すかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** ローカルDCEはこのコマンドをやり直しません。

***YES** ローカルDCEはこのコマンドをやり直します。

トップ

テスト後のリンク状況 (VRYLNKSTS)

テスト完了後のリンクの所要の状況（オンへの構成変更またはオフへの構成変更）を指定します。

注: 手動交換リンクでのテストの実行後に、ほとんどの場合、同じ接続でさらに情報を受け取ることができるように、リンクはオンに構成変更されたままになります。交換リンクがオフに構成変更された場合には、障害のある接続は失われ、それ以上の分析は行なうことができません。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

指定されたリンクは、テストの直前の状況に戻ります。

***ON** リンクはオンに構成変更されたままです。

***OFF** リンクはオフに構成変更されます。

トップ

例

例1:回線状況を検査する

```
VFYLNKLPDA LINE(LINE1) DTEPORT(B)
```

このコマンドは、同期データ・リンク制御(SDLC)回線LINE1からDCE回線状況を検索して、状況を表示します。ユーザーがマルチポートDCEを検査している場合は、ポートBのリモートDCE DTE回線接続状況が戻されます。リモートDTEに単一ポート（たとえばポートA）だけがある場合は、エラー・メッセージが戻されます。省略時の値VRYLNKSTS(*SAME)により、回線LINE1はテスト前の状況に戻ることになります。

例2:回線を分析する

```
VFYLNKLPDA LINE(LINE2) TEST(*ANZLIN) OUTPUT(*PRINT)
           LCLDCEADR(02) VRYLNKSTS(*ON)
```


このコマンドは、SDLC回線LINE2を分析します。2番目のLSLが使用されます。下段の4ビットのローカルDCEアドレス(LCLDCEADR)は2です。結果はスプール・ファイルに送信されます。テスト後には、さらにテストできるようにLINE2はオンに変更されたままになっています。

例3:送受信機能をテストする

```
VFYLNKLPDA  LINE(LINE3) TEST(*SNDRCV) SEQCOUNT(3)
              RMTDCEADR(21) DCERTY(*YES)
```

このコマンドは、マルチポイント回線LINE3で送受信機能をテストします。16ブロックの3つのシーケンスが、ローカル（制御）DCEおよびアドレスX'21'のリモート（従属端末）DCE間で送信されます。ローカルDCEが最初の試みで応答の受信に失敗すると、ローカルDCEはこのコマンドをリモートDCEに対して再試行します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1BAF

VFYLNKLPDAコマンドの処理中に、エラーが起こった。

CPF1BA9

回線&1のオフへの構成変更が正常に実行されなかった。

CPF1BCC

この時点でテストを実行することができない。

CPF1BCD

DCE自己検査が正常に実行されなかった。

CPF1BCE

戻されたセンス・バイトが正しくない。

CPF1BC1

VFYLNKLPDAコマンドの処理中にエラーが検出された。

CPF1BC3

このテストは交換網バックアップ・モードで実行することはできない。

CPF1BC4

要求されたテストはサポートされていない。

CPF1BC5

必要な機能が導入されていない。

CPF1BC6

必要な機能が操作可能になっていない。

CPF1BC7

このテストはDCE構成と互換性がありません。

CPF1BC8

DTEPORTパラメーターを指定することができない。

CPF1BD1

回線記述&1は*SDLCでない。

CPF1BD2

システム保守ツールが活動状態になっている。

CPF1BD4

回線記述&1の使用は認可されていない。

CPF1BD7

VFYLNKLPDAコマンドは交換回線をサポートしていない。

CPF1B8A

テスト中に回線&1で障害が起こった。

CPF1B8B

テスト要求の応答が受け取られていない。

CPF1B8C

回線&1でテストを実行することができない。

CPF1B8D

VFYLNKLPDAコマンドの処理中に、エラーが起こった。

CPF1B8E

この時点でテストを実行することができない。

CPF1B8F

テスト要求が正常に実行されなかった。テストはすでに回線で活動状態になっています。

CPF1B80

回線記述&1が存在していない。

CPF1B81

構成情報の検索中にエラーが起こった。

CPF1B83

回線&1はテストに適切な状態でない。

CPF1B89

回線&1でテストを実行することができない。

CPF1B9F

この時点で回線&1をオフに構成変更することはできない。

CPF1B93

回線&1はオンに構成変更されなかった。

[トップ](#)

NETWARE認証項目の検査 (VFYNTWAUTE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NETWARE認証項目の検査(VFYNTWAUTE)コマンドは、サーバーに関する認証項目を検査します。ユーザー名、パスワード、およびその他のデータがサーバーに送られ、そのサーバーへのサインオンに使用されます。このコマンドは、たとえば、サーバーを使用するバッチ・ジョブの投入前に、パスワードが正しいことを検査するために使用されることがあります。ユーザー・プロファイル内のサーバー認証項目を表示するためには、NETWARE認証項目処理(WRKNTWAUTE)コマンドを使用してください。

注: このコマンドは、PASSWORD(*STRNTWCNN)を指定した項目に使用することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SVRTYPE	サーバー・タイプ	*NDS	必須, 定位置 1
NDSTREE	NDSツリー	文字値	オプション
SERVER	サーバー	文字値, * <u>ANY</u>	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	名前, * <u>CURRENT</u>	オプション

[トップ](#)

サーバー・タイプ (SVRTYPE)

確認するサーバー認証項目のサーバー・タイプを指定します。

*NDS 項目はNETWAREディレクトリー・サービス・ツリーに関するものです。

[トップ](#)

NDSツリー (NDSTREE)

確認する認証項目のNDSツリーを指定します。

文字値 NDSツリーの名前を指定します。

[トップ](#)

サーバー (SERVER)

確認する認証項目のサーバーを指定します。

***ANY** NDSツリー内の任意のサーバーを使用します。

文字値 サーバーの名前を指定します。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

認証項目が入っているユーザー・プロファイルを指定します。

***CURRENT**

現行ユーザー・プロファイルを使用します。

名前 ユーザー・プロファイルの名前を指定します。このユーザー・プロファイルは現行のユーザー・プロファイルであるか、あるいはユーザーはこのユーザー・プロファイルに対する***USE**と***OBJMGT**権限および***SECADM**特殊権限をもっていなければなりません。

[トップ](#)

例

```
VFYNTWAUTE SVRTYPE(*NETWARE3) SERVER(SERVER03)
```

このコマンドは、現行ユーザー・プロファイルから、NETWARE 3.XサーバーSERVER03のサーバー認証項目を検査します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

FPE021A

認証項目の検査が失敗した。

[トップ](#)

OPTICONNECT接続の検査 (VFYOPCCNN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

OPTICONNECT接続検査(VFYOPCCNN)コマンドは、光ファイバー・ネットワーク内のすべてのシステムへの接続を検査します。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

VFYOPCCNN

このコマンドは、OPTICONNECTによって要求側システムに接続している他のすべてのシステムとの接続を検査します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

光ディスクの検査 (VFYOPT)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

光ディスク検査(VFYOPT)コマンドは、指定された光ディスク・ドライブ装置または指定された光媒体ライブラリー装置が操作中であるかどうかを検査します。

制約事項: このコマンドは、共通の*EXCLUDE権限で出荷され、QPGMR, QSYSOPR, QSRV,およびQSRVBASユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用する専用認可があります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

装置 (DEV)

操作が検査されている光ディスク・ドライブまたは光媒体ライブラリー装置の名前を指定します。

[トップ](#)

例

例1:光ディスク・ドライブを検査

```
VFYOPT DEV(OPT1)
```

このコマンドは、名前OPT1の光ディスク・ドライブ装置が操作中かどうかを検査します。

例2:光ディスク媒体ライブラリーを検査

```
VFYOPT DEV(OPTMLB1)
```

このコマンドは、名前OPTMLB1の光ディスク媒体ライブラリー装置が操作中かどうかを検査します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2C31

光ディスク装置記述&1が見つかりません。

CPF2C33

装置記述&1が光ディスク装置ではありません。

[トップ](#)

印刷装置検査 (VFYPRT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

印刷装置検査(VFYPRT)コマンドは、サポートされている印刷装置で指定の回数だけテスト・パターンを印刷します。次の印刷装置がサポートされています。

IPDSグラフィック可能: 3812 IPDSおよび4224

SCSグラフィック可能: 4214, 4234, 5224,および5225

SCSグラフィック不能:

- 3287
- 3812 SCS
- 4210
- 5219
- 5256
- 5262
- 5553 (DBCSのみ)
- 5583 (DBCSのみ)

制約事項:

- VFYPRTは、AFPパラメーターに指定された*YESで構成された印刷装置をサポートしません。3820, 3827,および3835など一部の印刷装置は、このようにしてしか構成することができません。これは、このコマンドが、装置記述にAFP(*NO)が指定された非高機能印刷装置と高機能印刷装置（3812および3816印刷装置など）の両方で働かせることができることを意味します。
- QPGMR, QSRV,およびQSRVBASユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用するための専用認があります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	ワークステーション印刷装置	名前	必須, 定位置 1
TIMES	印刷回数	1-99, <u>1</u>	オプション

[トップ](#)

ワークステーション印刷装置 (DEV)

テスト・パターンを実行する印刷装置を指定します。この装置名は、印刷装置の装置記述に指定されたものと同じでなければなりません。

これは必須パラメーターです。

名前 印刷装置記述の名前を指定します。

[トップ](#)

印刷回数 (TIMES)

指定した印刷装置がテスト・パターンを印刷する回数を指定します。

1 テスト・パターンを1回印刷します。

1から99

テスト・パターンを印刷する回数を指定します。

[トップ](#)

例

```
VFYPRT DEV(PRTR3) TIMES(15)
```

このコマンドにより、プリンターPRTR3がテスト・パターンを15回印刷できます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF3943

装置パラメーターに正しくない値を指定している。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9831

装置&1を割り当てることができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

サービス・エージェントの検査 (VFYSRVAGT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・エージェントの検査 (VFYSRVAGT)コマンドによって、ユーザーは、サービス・エージェントの操作を検査できます。検査される操作は、**タイプ(TYPE)**パラメーターで指定します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	タイプ	*SRVCNN, *TSTPRB	必須, 定位置 1
ERRLOGID	エラー・ログ識別コード	16 進値, <u>00000000</u>	オプション

[トップ](#)

タイプ (TYPE)

検査されるサービス・エージェントの外観を指定します。

これは必須パラメーターです。

*SRVCNN

システムまたは論理区画とIBMとの間の接続が検査されます。この接続は、サービス・エージェントが問題報告のために活動化されているかどうかに関係なく、サービス情報の収集および送信に使用することができます。

*TSTPRB

サービス・エージェントは、有効なエラー・ログIDまたはヌル(00000000)エラー・ログIDで問題ログ項目を作成します。これで、問題はサービス・エージェントの通常の問題報告処理を使用して報告されることとなります。これにより、サービス・エージェントの問題報告機能のテストが可能になります。サービス・エージェントのメッセージおよび問題管理レコード(PMR)について、数分後にQSRVおよびQSYSOPRメッセージを調べることができます。

[トップ](#)

エラー・ログ識別コード (ERRLOGID)

テスト問題を送るための問題ログ項目の作成に使用されるプロダクト活動ログ項目のエラー・ログIDを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*TSTPRB)を指定した場合だけです。

00000000

プロダクト活動ログ項目が使用されないように指定します。問題ログ項目およびテスト問題にはプロダクト活動ログIDはありません。

16進値 プロダクト活動ログからの有効な8文字のIDを指定してください。プロダクト活動ログIDは、TYPE(*EVENT)を指定したサービス・エージェントの処理(WRKSRVAGT)コマンドを使用するか、保守ツール開始(STRSST)コマンドを使用して見つけることができます。

[トップ](#)

例

```
VFYSRVAGT TYPE(*TSTPRB) ERRLOGID(00000000)
```

このコマンドは、エラー・ログIDのないテスト問題を送ってサービス・エージェントの操作を検査します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE メッセージ**

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

サービス構成の検証 (VFYSRVCFG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス構成の検証 (VFYSRVCFG)コマンドは、選択されたサービスおよびサポート・アプリケーション (エレクトロニック支援(ECS), ELECTRONIC SERVICE AGENT,またはINFORMATION CENTER UPDATE)を検証します。

この構成を使用して、選択されたサービスに対して、ローカル・システムまたは論理区画と「サービスおよびサポート」プロキシ間の通信が開始されます。セッションがアクティブになってサービス構成の検証が完了すると、通信セッションは終了します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SERVICE	サービス	*ECS, *SRVAGT, *DOC	必須, 定位置 1

[トップ](#)

サービス (SERVICE)

検証するサービスを指定します。

これは必須パラメーターです。

***ECS** エレクトロニック支援(ECS)と、ELECTRONIC SERVICE AGENT接続の問題報告機能が検証されます。

***SRVAGT**

ELECTRONIC SERVICE AGENTサービス情報伝送接続が検証されます。

***DOC** INFORMATION CENTER UPDATE接続が検証されます。

[トップ](#)

例

例1:エレクトロニック支援サービス構成の検証

```
VFYSRVCFG SERVICE(*ECS)
```

このコマンドは、エレクトロニック支援(ECS)およびELECTRONIC SERVICE AGENTの問題報告機能によって使用されるサービス構成がIBMに接続できることを検証します。

例2: ELECTRONIC SERVICE AGENTサービス構成の検証

```
VFYSRVCFG SERVICE(*SRVAGT)
```

このコマンドは、ELECTRONIC SERVICE AGENTのサービス情報伝送機能によって使用されるサービス構成がIBMに接続できることを検証します。

例3: INFORMATION CENTER UPDATEサービス構成の検証

```
VFYSRVCFG SERVICE(*DOC)
```

このコマンドは、INFORMATION CENTER UPDATEによって使用されるサービス構成がIBMに接続できることを検証します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF041

パラメーターSERVICEが必要です。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

TCP8205

必要なオブジェクト&2/&1タイプ*&3が見つからない。

TCP8211

POINT-TO-POINTプロファイル&1が見つかりません。

[トップ](#)

テープの検査 (VFYTAP)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープ検査(VFYTAP)コマンドによって、すべてのテープ装置に対してテープ装置操作の妥当性検査を行なうことができます。

制約事項: このコマンドは、*EXCLUDEの共通認可で出荷され、QPGMR, QSYSOPR, QSRV,およびQSRVBASユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用する専用認可があります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	名前, *RSRCNAME	必須, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

装置 (DEV)

操作を検査中のテープ装置の名前を指定します。

装置名 操作を検査中のテープ装置の名前を指定してください。

***RSRCNAME**

操作を検査中のテープ装置の資源名が使用されます。

[トップ](#)

資源名 (RSRCNAME)

操作を検査中のテープ装置の資源名を指定します。

[トップ](#)

例

VFYTAP DEV(TAP3)

このコマンドは、名前TAP3のテープ装置が作動中かどうかを検査します。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2B31

テープ装置記述&1が見つかりません。

CPF2B32

資源&1が見つからない。

CPF2B33

装置記述&1がテープ装置ではありません。

CPF2B34

資源&1はテープ装置ではありません。

CPF2B35

テープの検査は'&1'タイプのテープ装置には使用できません。

CPF2B36

資源&1の装置記述が見つかりません。

CPF2B37

テープの検査要求が正しくありません。

CPF2B39

エラーのために問題分析が完了しなかった。

TCP/IP接続の検査 (VFYTCPCNN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IP接続検査(VFYTCPCNN)コマンド(PINGとも呼ばれる)は、システムとリモート・システム・パラメーターに指定されているリモート・システムとの間の接続をテストします。

注:

- VFYTCPCNN (PING)コマンドはIP OVER SNAを検査することはできません。
- ローカル・ドメイン名は、PINGを含む多くのアプリケーションで使用されます。ドメインが指定されていない場合、あるいは指定されたホスト名の終わりにピリオド(.)が表示されない場合には、PINGはホスト名にローカル・ドメインを付加します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RMTSYS	リモート・システム	文字値, *INTNETADR	必須, 定位置 1
INTNETADR	リモート・インターネット・アドレス	文字値	オプション
ADRVERFMT	アドレス・バージョン形式	*CALC, *IP4, *IP6	オプション
MSGMODE	メッセージ・モード	要素リスト	オプション
	要素 1: 応答メッセージの詳細	*VERBOSE, *QUIET	
	要素 2: 要約, 応答エラーの場合	*COMP, *ESCAPE	
PKTLEN	パケットの長さ (バイト数)	8-512, <u>256</u>	オプション
NBRPKT	パケット数	1-999, <u>5</u>	オプション
WAITTIME	待ち時間 (秒数)	1-120, <u>1</u>	オプション
LCLINTNETA	ローカル・インターネット・アドレス	文字値, *ANY	オプション
TOS	TYPE OF SERVICE	*MINDELAY, *MAXTHRPUR, *MAXRLB, *MINCOST, *NORMAL	オプション
IPTTL	IP有効時間 (ホップ限界)	1-255, *DFT	オプション

トップ

リモート・システム (RMTSYS)

TCP/IP検査命令が実行されるホストのリモート・システム名を指定します。正常に実行するためには、名前が有効なものでなければならず、リモート・システムがローカル・システムと通信できなければなりません。次のいずれかを使用して、IPアドレスに名前を割り当てることができます。

- 「ホスト・テーブルの処理」メニュー。これは「TCP/IPの構成」メニューのオプションです。
- リモート・ネーム・サーバー。リモート・システム名をIPアドレスにマップする場合。

ホスト名の分析解決は、**アドレス・バージョン形式 (ADRVERFMT)**パラメーターに指定された値によります。

*INTNETADR

リモート・システムは、**リモート・インターネット・アドレス (INTNETADR)**パラメーターに指定された値によって識別されます。

文字値 検査するリモート・システムの名前を指定してください。

[トップ](#)

リモート・インターネット・アドレス (INTNETADR)

リモートIPアドレスを指定します。有効なIPバージョン4またはIPバージョン6アドレスのいずれかが受け入れられます。IPバージョン4のIPアドレスは、そのアドレスのネットワークID (ID)部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0の場合には、正しくありません。

文字値 リモート・システムのインターネット・アドレスを指定してください。コマンド行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

[トップ](#)

アドレス・バージョン形式 (ADRVERFMT)

リモート・システム (RMTSYS)パラメーターに指定したホスト名の解決方法を指定します。

*CALC

ホスト名の分析解決方法は、RMTSYSパラメーターに入力されたホスト名に基づいて「計算」(決定)されます。少なくとも1つのIPバージョン6アドレスがシステムに構成されている場合は、IPバージョン6ホスト名の分析解決が実行されます。IPバージョン6アドレスが検出されないで、少なくとも1つのIPバージョン4アドレスがシステムに構成されている場合は、IPバージョン4ホスト名の分析解決が実行されます。ループバック・アドレスは、この場合の構成済みアドレスとしては考慮されません。

***IP4** IPバージョン4ホスト名解決方法を使用します。

***IP6** IPバージョン6ホスト名解決方法を使用します。

[トップ](#)

メッセージ・モード (MSGMODE)

表示される情報の量を指定します。

要素1: 応答メッセージの詳細

*VERBOSE

各PING応答が届くたびにメッセージを表示します。

*QUIET

最初のPING (VFYTCPCNN)メッセージおよび要約メッセージだけを表示します。

要素2: 要約, 応答エラーの場合

*COMP

PING (CFYTCPCNN)要求が成功した場合には, 戻される要約メッセージは完了メッセージです。

*ESCAPE

モニター可能エスケープ・メッセージが戻されます。これは, PING要求を出すプログラムを書いていて, エラーがないかどうかPING要求をモニターしたい場合に有用です。可能なエスケープ・メッセージのリストが必要な場合には, PING (VFYTCPCNN) コマンドのエラー・メッセージの説明を参照してください。

[トップ](#)

パケットの長さ (バイト数) (PKTLEN)

リモート・システムに送られるパケットの長さ (バイト数) を指定します。

256 パケットの長さは256バイトです。

8から512

各パケットのバイト数を指定してください。

[トップ](#)

パケット数 (NBRPKT)

リモート・システムに送られるパケットの数を指定します。

5 5つのパケットが送られます。

1から999

リモート・システムに送られるパケットの数を指定してください。

[トップ](#)

待ち時間 (秒数) (WAITTIME)

このパケット転送を障害と通知する前に戻り (エコー) パケットを待機する秒数を指定します。

1 システムは1秒間待機します。

1から120

待機する秒数を指定してください。

ローカル・インターネット・アドレス (LCLINTNETA)

アウトバウンド・パケットが使用するインターフェースのローカルIPアドレスを指定します。いずれかの有効なIPバージョン4またはIPバージョン6アドレスのいずれかが受け入れられます。IPバージョン4のIPアドレスは、そのアドレスのネットワークID (ID)部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0の場合には、正しくありません。コマンド行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

***ANY** 任意のインターフェースのローカルIPアドレスを使用してください。

文字値 ローカルIPアドレスを指定してください。

トップ

TYPE OF SERVICE (TOS)

使用するTYPE OF SERVICEを指定します。TYPE OF SERVICEは、インターネット・ホストおよびルーターがスループット、遅延、信頼性、およびコストの間で行うトレードオフを定義します。

注: リモート・システムとの接続の検査にIPバージョン6のアドレス解決が使用される場合には、このパラメーターは使用されません。

***NORMAL**

データの転送に通常のサービスが使用されます。

***MINDELAY**

遅延の最小化は、この接続ではプロンプト配信が重要であることを意味します。

***MAXTHRPUT**

スループット最大化は、この接続でデータに対する高いデータ速度が重要であることを意味します。

***MAXRLB**

信頼性最大化は、この接続でデータに対する配布を確実にするための高水準の努力が重要であることを意味します。

***MINCOST**

金銭上のコストの最小化は、この接続ではデータのコストの低下が重要であることを意味します。

トップ

IP有効時間 (ホップ限界) (IPTTL)

IPデータグラム (パケット) 存続時間値を指定します。データグラムは、このパラメーターによって指定されたルーター・ホップ数に対してのみ有効です。存続時間値は、「ホップ・カウンター」として機能します。ルーターまたはゲートウェイを介してデータグラムが渡されるたびにカウンターが減少します。ホップ数によってデータグラムの妥当性を制限することは、インターネットのルーティング・ループを避ける上で役立ちます。

注: IPバージョン6は、このパラメーターを**ホップ限界**として参照します。

***DFT** 省略時の存続時間値を使用してください。

マルチキャスト・アドレスの省略時の存続時間値は1です。他のすべてのアドレスの省略時の存続時間値は、TCP/IP属性変更(CHGTCPA)コマンドのIPTTLパラメーターによって指定されます。

1から255

IPデータグラム（パケット）の存続時間値を指定してください。

[トップ](#)

例

例1:指定したホスト名によるTCP/IP接続を検査

```
VFYTCPCNN  RMTSYS(IPHOST) PKTLEN(100) NBRPKT(10)
            WAITTIME(15)
```

このコマンドは、TCP/IPリンクを介してそれぞれ100バイトの10パケットをリモート・システム(TCP/IP構成にはIPHOSTとして認識されています)に送信します。各パケットの転送は15秒以内に実行する必要がありますが、実行できないと失敗します。

例2: IPアドレスによるTCP/IP接続を検査

```
VFYTCPCNN  RMTSYS(*INTNETADR) INTNETADR('128.1.1.10')
            PKTLEN(100) NBRPKT(10) WAITTIME(15)
```

このコマンドは、TCP/IPインターフェースを介してそれぞれ100バイトの10パケットをリモート・システムに送信しようとします。ユーザーは、割り当てられたシステム名ではなく、IPアドレス128.1.1.10でRMTSYSを表現しています。15秒を超えて行われる各パケット転送は失敗します。

例3:ホスト名および特定のローカル・インターフェース・アドレスを使用したTCP/IP接続を検査

```
VFYTCPCNN  RMTSYS(IPHOST) MSGMODE(*QUIET)
            LCLINTNETA('9.2.2.3')
```

このコマンドは、それぞれ256バイト（省略時の値）の5パケット（省略時の値）を、ローカル・アドレス9.2.2.3をもつ特定のTCP/IPインターフェースを介してリモート・システムに送信しようとします。

MSGMODE(*QUIET)が指定されているので、基本出力メッセージだけが表示されます。マルチホーム・ホストでは、特定の物理インターフェースを介したネットワーク接続を検査するのに、インターフェース・パラメーターが役立ちます。

例4: IPバージョン6によるTCP/IP接続を検査

```
VFYTCPCNN  RMTSYS(*INTNETADR)
            INTNETADR('1:2:3:4:5:6:7:8')
```

このコマンドは、ローカル・アドレス1:2:3:4:5:6:7:8をもつリモート・システムのTCP/IP接続を検査しようとします。

例5:指定したIPバージョン6定義ホスト名によるTCP/IP接続を検査

```
VFYTCPCNN  RMTSYS(IPV6HOST)
```

このコマンドは、TCP/IPリンクを介してそれぞれ256バイト（省略時の値）の5パケット（省略時の値）をリモート・システム(IPバージョン6 TCP/IP構成にIPV6HOSTとして認識されています)に送信しようとします。

省略時の「アドレス・バージョン形式」は*CALCです。ホスト名の解決で、指定されたホスト名に対して複数のIPアドレスが戻されることがあります。ただし、この場合(*CALC)に、TCP/IPリンクを介してその接続を検査した時には、(IPバージョン4またはIPバージョン6で) 解決された最初のIPアドレスが使用されることとなります。

例6: TCP/IP接続およびIPバージョン6ホスト名解決の明示的使用を検査

```
VFYTCPCNN RMTSYS(IPV6HOST) ADRVERFMT(*IP6)
```

このコマンドは、TCP/IPリンクを介してそれぞれ256バイト（省略時の値）の5パケット（省略時の値）をリモート・システム(IPバージョン6 TCP/IP構成にIPV6HOSTとして認識されています) に送信しようとしています。

この例は、TCP/IPリンクを介した接続の検査時に、有効なIPバージョン6解決アドレスIPV6HOSTだけが使用されるという点が例5とは異なっています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

*ESCAPE メッセージ

TCP3210

接続検査の統計：&2の&1は正常に実行された(&3 %)

TCP3219

アドレス&1がアドレス・バージョン形式&2と一致していません。

[トップ](#)

構成変更 (VRYCFG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構成変更(VRYCFG)コマンドは、1つまたは複数の構成オブジェクトをオンまたはオフに構成変更するとともに、下位構成に接続された構成オブジェクトをオンに構成変更することができます。また任意選択でVRYCFGは、指定されたオブジェクトに関連した入出力プロセッサ(IOP)をリセットすることもできます。

オンまたはオフに構成変更できる構成オブジェクトは、ネットワーク・サーバー、ネットワーク・インターフェース、回線、制御装置、および入出力装置です。このコマンドは、システム上のすべてのネットワーク・インターフェース、回線、制御装置、および入出力装置に適用されます。

媒体ライブラリー資源の構成オブジェクト・タイプの場合は、このコマンドを使用して、テープ媒体ライブラリー装置内のドライブをリセットするか、あるいはテープ媒体ライブラリー装置内または光ディスク媒体ライブラリー装置内のドライブの割り振りを変更することができます。ドライブ資源の現行割り振りを判別するには、媒体ライブラリー状況処理(WRKMLBSTS)コマンドを使用してください。

タイプ*WINDOWSNTのネットワーク・サーバー・オブジェクトに接続された外部LAN TCP/IPインターフェースは省略時の値によって自動的に開始され、TCP/IPインターフェースの開始 (STRTCPIFC)パラメーターで任意に制御できます。

下位構成接続されたオブジェクトは、**範囲 (RANGE)**パラメーターに値*NETを指定することにより、ここで指定したオブジェクトと一緒にオンまたはオフに構成変更することができます。ネットワーク・インターフェース記述の下位構成接続オブジェクトは、ネットワーク・インターフェースに接続されたすべての回線、回線に接続されたすべての制御装置、および制御装置に接続されたすべての入出力装置です。回線の下位構成接続オブジェクトは、接続されたすべての制御装置および制御装置に接続されたすべての入出力装置です。制御装置の下位構成接続オブジェクトは、接続されたすべての入出力装置です。入出力装置には、下位構成されているものはありません。入出力装置の構成変更を行う時には、RANGEパラメーターは影響しません。

ネットワーク・インターフェースおよび回線をオンに構成変更するのに同期的に行うかあるいは非同期的に行うかを、**オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)**パラメーターによって制御することができます。これは、トークンリング、イーサネット、X.25、または交換SDLC、IDLC、BSC、および非同期回線記述にのみ適用されます。オンに構成変更コマンドの完了前にオブジェクトがオンに構成変更された状態になるか、あるいはタイマーが満了するまでのシステムの待機時間は、VRYWAITパラメーターに指定された値によって決定されます。

VRYCFGコマンドは、入出力プロセッサをリセットするためにも使用することができます。IOPは、通信制御装置、ローカル・ワークステーション制御装置、または磁気媒体制御装置とすることができます。IOPのリセットは、次のものをオンに構成変更する時にだけ有効です。

- ネットワーク・インターフェース記述
- 回線 (平衡型データ・リンク制御(TDLC)回線を除く)
- ローカル・ワークステーション制御装置

- テープ

次のようなときは、タイプが*ISCSIのネットワーク・サーバー・オブジェクトをオンに構成変更することはできません。

- ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター装置記述がオンに構成変更されるまで。

次のようなときは、回線をオンに構成変更することはできません。

- IDLC回線の場合に、ネットワーク・インターフェース記述がオンに構成変更されるまで。
- ネットワーク・サーバー記述がオンに構成変更されるまで。
- 交換回線の場合に、ダイヤル接続が完了するまで。

次のようなときは、制御装置をオンに構成変更することはできません。

- 非交換回線の場合に、接続する回線がオフに構成変更される場合。
- 交換回線の場合に、ダイヤル接続が完了するまで。

次のようなときは、装置をオンに構成変更することができません。

- 接続する制御装置がオフラインに構成変更された場合。一部のテープ装置の場合には、制御装置に接続されないので、この制約事項は適用されません。

次の時点まであるいは次のような場合には、ネットワーク・サーバーは、オフに構成変更することはできません。

- 接続されたすべての装置および制御装置がオフに構成変更されるまで。サーバーをオフに構成変更すると、接続された回線記述もオフに構成変更されます。
- システム・クライアントがサーバー上でオープンされているファイルをもっている場合。

注: ネットワーク・サービス状況処理(WRKNWSSTS)コマンド（「構成状況の処理」画面から使用可能）を使用して、他のクライアントとのネットワーク・サーバー・セッションの状況を判別してください。

ネットワーク・インターフェース記述は、次の時点までオフに構成変更できません。

- 接続されたすべての回線、制御装置、および入出力装置がオフに構成変更されるまで。

次のようなときは、回線をオフに構成変更することはできません。

- すべての接続制御装置および装置がオフに構成変更されていない場合。

次のようなときは、制御装置をオフに構成変更することはできません。

- その制御装置が使用中の場合、あるいは使用のために割り振られている場合。
- すべての接続装置がオフに構成変更されていない場合。

次のようなときは、装置をオフに構成変更することはできません。

- その制御装置が使用中の場合、あるいは使用のために割り振られている場合。

次の時点まであるいは次のような場合には、ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター装置は、オフに構成変更することはできません。

- それを使用中のネットワーク・サーバー記述がオンに構成変更されている場合。

RANGEパラメーターが使用されている時には、次のとおりです。

- 装置の場合、下位構成接続オブジェクトをオンまたはオフに構成変更する値*NET は影響しません。装置には下位構成接続オブジェクトはありません。

- 交換回線の場合、値*NETは、オンに構成変更する場合に限り、効力がありません。オフに構成変更する場合には、値*NETは、回線およびその下位構成接続オブジェクトをオフに構成変更します。
- ネットワーク・インターフェース記述の場合、オンに構成変更する時には、値*NETはすべての非交換接続機構をオンに構成変更し、オフに構成変更する時には、値*NETはすべての非交換接続機構をオフに構成変更します。

VRYWAITパラメーターが使用されている時には、次のとおりです。

- 回線またはネットワーク・インターフェースをオンに構成変更する時間とは、回線を管理するタスクの適切な実行に要する時間、IOPプログラムのダウンロードを含め、通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する時間、回線終端装置(DCE)との通信を確立する時間などです。
- 回線またはネットワーク・インターフェースをオンに構成変更する時間には、電話ダイヤル呼び出し時間は含まれません。ただし、モデムの電源がオフになると、オンへの構成変更の完了が妨げられ、そのために待機時間が満了する場合があります。タイマーが満了した場合には、通知メッセージがQSYSOPRメッセージ待ち行列に送られます。これに続いて、オンへの構成変更完了メッセージが出されます。
- トークンリング、ETHERNET、X.25、あるいは交換SDLC、BSC、または非同期以外の回線記述に対するVRYCFGコマンドでVRYWAITパラメーターを指定した場合には、このパラメーターは受け入れられますが、無視されます。

システムのリセット (RESETSYS)パラメーターが使用されている時には、次のとおりです。

- ネットワーク・サーバー記述の場合:値*YESを指定すると、XSERIESとIBM DIRECTORのインターフェースをオンに構成変更する処理の間に、XSERIESが活動できることも検証します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CFGOBJ	構成オブジェクト	単一値: *ANYNW, *APPN, *PRVCFGTYPE その他の値 (最大 256 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 1
CFGTYPE	タイプ	*NWS, *NWI, *LIN, *CTL, *DEV, *MLBRSC	必須, 定位置 2
STATUS	状況	*ON, *OFF, *RESET, *ALLOCATE, *UNPROTECTED, *DEALLOCATE	必須, 定位置 3
RANGE	範囲	*NET, *OBJ	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *CFGOBJ, *NOWAIT	オプション
ASCVRVYOFF	非同期のオフに構成変更	*NO, *YES	オプション
RESET	リセット	*NO, *YES	オプション
RSRCNAME	資源名	単一値: *ALL その他の値 (最大 16 回の繰り返し): 名前	オプション
FRFCVRVYOFF	強制的にオフに構成変更	*NO, *YES, *LOCK	オプション
SBMMLTJOB	複数ジョブの投入	*NO, *YES	オプション
JOB	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, QBATCH	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL	
GENPTHCERT	パス証明書の生成	*NO, *YES	オプション
RESETSYS	システムのリセット	*NO, *YES	オプション

トップ

構成オブジェクト (CFGOBJ)

オンに構成変更する構成オブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

単一値

*ANYNW

*ANYNWのリンク・タイプを指定するすべての制御装置記述がオンまたはオフに構成変更されます。この値が有効であるのはCFGTYPEが*CTLの場合だけです。

*APPN

拡張対等通信ネットワーク機能(APPN)を使用するすべてのオブジェクトがオンまたはオフに構成変更されます。この値は、CFGTYPEが*CTLまたは*DEVの場合にだけ有効です。

*PRVCFGTYPE

指定された構成オブジェクト・タイプについて、このコマンドをこのジョブで最後に実行した時に処理されたすべてのオブジェクトを処理します。

その他の値 (最大256個指定可能)

総称名 オンに構成変更する構成オブジェクトの総称名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前をついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 オンに構成変更する構成オブジェクトの名前を指定します。

[トップ](#)

タイプ (CFGTYPE)

構成変更されるオブジェクトのタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

*NWS ネットワーク・サーバーがオンまたはオフに構成変更されます。

*NWI ネットワーク・インターフェース記述がオンまたはオフに構成変更されます。

*LIN 回線記述がオンまたはオフに構成変更されます。

*CTL 制御装置記述がオンまたはオフに構成変更されます。

*DEV 装置記述がオンまたはオフに構成変更されます。

*MLBRSC

媒体ライブラリー中のドライブの状況が変更されます。

[トップ](#)

状況 (STATUS)

オブジェクトをオンまたはオフに構成変更するかどうかを指定します。

これは必須パラメーターです。

***ON** オブジェクトはオンに構成変更されます。

***OFF** オブジェクトはオフに構成変更されます。

*RESET

テープ媒体ライブラリー装置のドライブ資源がリセットされます。

注: ドライブ資源は**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターで指定しなければなりません。

媒体ライブラリー装置をオンに構成変更してからでなければ、この値を指定することはできません。

*ALLOCATE

テープの場合は、テープ媒体ライブラリー装置のドライブ資源がこのシステムによる使用専用割り振られます。ライブラリー装置が複数のシステムで共用されるときには、この装置記述がオンに構成変更されている間は、他のシステムがこれらのドライブを使用できません。光ディスクの場合は、光ディスク媒体ライブラリー装置のドライブ資源が使用のために割り振られます。ドライブ資源は、この媒体ライブラリー装置だけに使用できます。

注: ドライブ資源は**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターで指定しなければなりません。

*UNPROTECTED

テープ媒体ライブラリー装置のドライブ資源は、このライブラリー装置を共用するすべてのシステムで使用することができます。

注: この値はお奨めしません。ドライブ資源が非保護モードの時には、各システムは同時に資源にアクセスできます。予測できない結果が起こる可能性があります。

*DEALLOCATE

テープの場合は、テープ媒体ライブラリー装置のドライブ資源がこのシステムに対して割り振り解除されます。テープ媒体ライブラリーが複数のシステムで共用される場合には、このシステムはこのドライブを使用できませんが、他のシステムはこのドライブを使用できます。光ディスクの場合は、光ディスク媒体ライブラリー資源のドライブ資源がこの媒体ライブラリー資源に対して割り振り解除されます。ドライブは、別の光ディスク媒体ライブラリー装置に使用できません。

注: ドライブ資源は**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターで指定しなければなりません。

[トップ](#)

範囲 (RANGE)

構成変更される構成要素を指定します。

***NET** すべての下位接続構成要素が構成変更されます。

***OBJ** 指定されたオブジェクトだけが構成変更されます。

[トップ](#)

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

オブジェクトが非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

***CFGOBJ**

システムは、ネットワーク・インターフェース記述または回線記述中の**オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)**パラメーターに指定された値を使用します。

***NOWAIT**

オンへの構成変更の完了を待つ必要はありません。ネットワーク・インターフェースまたは回線は非同期的にオンに構成変更されます。

15から180

待機する秒数を指定してください。システムは、VRYCFG コマンドの完了前に、タイマーが満了するかあるいは回線またはネットワーク・インターフェースがオンに構成変更されるまで、待機します。

[トップ](#)

非同期のオフに構成変更 (ASCVRYOFF)

オブジェクトを同期または非同期のどちらでオフに構成変更するかを指定します。

***NO** オブジェクトは同期でオフに構成変更されます。

***YES** オブジェクトは非同期でオフに構成変更されます。

[トップ](#)

リセット (RESET)

オブジェクトに関連する入出力プロセッサ(IOP)に対してリセットを行うかどうかを指定します。

***NO** 関連するIOPはリセットされません。

***YES** 関連するIOPはリセットされます。

[トップ](#)

資源名 (RSRCNAME)

リセットまたは割り振り解除する媒体ライブラリー装置の中のドライブを指定します。

単一値

***ALL** 媒体ライブラリー装置の中のすべてのドライブがリセットまたは割り振り解除されます。

その他の値 (最大16個指定可能)

名前 リセットまたは割り振り解除する媒体ライブラリー装置の中のドライブの名前を指定します。

[トップ](#)

強制的にオフに構成変更 (FRCVRYOFF)

活動ジョブの照会メッセージを出すかどうかを指定します。STATUS(*ON)が指定されている時には、このパラメーターは使用できません。

注:

1. このパラメーターがSTATUS(*DEALLOCATE)で有効なのは、**構成オブジェクト (CFGOBJ)**パラメーターにテープ媒体ライブラリー・オブジェクトが指定されている場合だけです。
2. *NO以外の値の場合、ユーザー出口プログラムを介して構成変更要求を拒否する機能は取り消されません。構成変更出口点処理については、ISERIES INFORMATION CENTERのQIBM_QDC_VRYEXIT出口点の文書を参照してください。

***NO** 活動ジョブの照会メッセージを出します。

***YES** 活動ジョブの照会メッセージを出さず、ジョブを終了します。

*LOCK

APPC,システム内通信, NWSH,およびMLB以外の装置では、装置記述のロックが現在の状況に関係なく試みられます。ロックが正常に行われると、装置がオフに構成変更された状態の時に、割り当てられたシステム・ジョブに転送されて装置記述ロックを保留します。装置がオフに構成変更された状態以外の場合には、装置記述をオフに構成変更する試みも行われます。

トップ

複数ジョブの投入 (SBMMLTJOB)

指定されたネットワーク・サーバー記述オブジェクトまたは補助記憶域プール(ASP)装置記述オブジェクトを構成変更するために、複数のバッチ・ジョブを投入するかどうかを指定します。このパラメーターが有効なのは、*NWSまたは*DEVが**タイプ (CFGTYPE)**パラメーターに指定されている場合だけです。

***NO** 指定されたすべてのネットワーク・サーバー記述または補助記憶域プール(ASP)装置記述が、元のVRYCFGコマンドを出したジョブで同期的に構成変更されます。

***YES** 指定された各ネットワーク・サーバー記述または補助記憶域プール(ASP)記述ごとに、新しいVRYCFGコマンドがバッチで投入されます。

トップ

ジョブ記述 (JOBID)

複数のVRYCFGコマンドがバッチで投入されるジョブ記述を指定します。このパラメーターが有効であるのは、CFGTYPEが*NWSまたは*DEVであり、SBMMLTJOBが*YESであるときだけです。

修飾子1: ジョブ記述

QBATCH

投入されたジョブのジョブ記述としてジョブ記述QBATCHが使用されます。システムとともに出荷されるQBATCHジョブは、一度に最大1つのジョブを実行できるように構成されているジョブ待ち行列QBATCHを指定するので、注意してください。

名前 投入されたジョブで使用するジョブ記述の名前を指定してください。複数の構成変更を並行して実行するためには、活動ジョブの数に制限がないままで出荷されるジョブ待ち行列QSYS/QUSRNOMAXにジョブを渡すようにジョブ記述を作成することができます。

CRTJOBDB JOBD(QSYS/QUSRNOMAX) JOBQ(QSYS/QUSRNOMAX)

その他の考慮事項としては、ジョブ待ち行列を割り振るサブシステムが待ち行列を保留状態にしておかないこと、およびシステムが制限状態でないことがあります。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

名前 ジョブ記述が入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

パス証明書の生成 (GENPTHCERT)

リモート・ネットワーク・サーバー・システムで証明書の新規セットを生成するかどうかを指定します。このパラメーターが有効であるのは、CFGTYPEが*NWSでネットワーク・サーバー記述がタイプ*ISCSIであり、さらにSTATUSが*ONの時だけです。

***NO** 証明書のセットは生成されません。

***YES** 証明書のセットが生成されます。

注: このパラメーター値を使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

トップ

システムのリセット (RESETSYS)

リモート・ネットワーク・サーバー・システムの現在の電源状態にかかわらず、このリセットを強制するかどうかを指定します。これは拡張機能であり、このオプションを選択すると、警告が通知されます。このパラメーターが有効であるのは、CFGTYPEが*NWSでネットワーク・サーバー記述がタイプ*ISCSIであり、さらにSTATUSが*ONの時だけです。

***NO** システムはリセットされません。

***YES** システムがリセットされます。

注: このパラメーター値を使用するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限がなければなりません。

トップ

例

例1: ネットワーク・インターフェースおよび下位構成接続をオンに構成変更

```
VRYCFG CFGOBJ(NWI1) CFGTYPE(*NWI) STATUS(*ON)
```

このコマンドは、ネットワーク・インターフェースおよびすべての下位構成接続をオンに構成変更します。

例2: 回線および下位構成接続オブジェクトをオフに構成変更

```
VRYCFG CFGOBJ(LINE1) CFGTYPE(*LIN) STATUS(*OFF)
```

このコマンドは、回線およびすべての下位構成接続オブジェクトをオフに構成変更します。RANGEパラメーターには省略時値の*NETが取られています。

例3:制御装置をオンに構成変更

```
VRYCFG  CFGOBJ(CONTROLLER1) CFGTYPE(*CTL) STATUS(*ON)
        RANGE(*OBJ)
```

このコマンドは、制御装置だけをオンに構成変更します。

例4:装置をオンに構成変更

```
VRYCFG  CFGOBJ(DEVICE1) CFGTYPE(*DEV)
        STATUS(*ON) RANGE(*NET)
```

このコマンドは、装置だけをオンに構成変更します。RANGEパラメーターは装置では効力をもたないということに注意してください。

例5:回線をオンに構成変更して、IOPをリセット

```
VRYCFG  CFGOBJ(LINE1) CFGTYPE(*LIN) STATUS(*ON)
        RANGE(*OBJ) RESET(*YES)
```

このコマンドは、回線だけをオンに構成変更して、関連のIOPをリセットします。

例6:待ち時間に回線記述の値を使用

```
VRYCFG  CFGOBJ(LINE1) OBJTYPE(*LIN) STATUS(*ON)
        RANGE(*OBJ) VRYWAIT(*CFGOBJ)
```

このコマンドは、回線だけをオンに構成変更して、LINE1の回線記述に指定された「構成変更の待ち時間」値を使用します。

例7:「構成変更の待ち時間」に80秒を使用

```
VRYCFG  CFGOBJ(LINE1) CFGTYPE(*LIN) STATUS(*ON)
        RANGE(*OBJ) VRYWAIT(80)
```

このコマンドは、「構成変更の待ち時間」の値として80秒を使用して回線だけをオンに構成変更します。

例8:ネットワーク・サーバーをオンに構成変更

```
VRYCFG  CFGOBJ(SERVER1) CFGTYPE(*NWS) STATUS(*ON)
```

このコマンドは、SERVER1という名前のネットワーク・サーバー記述およびその接続回線記述をオンに構成変更します。ネットワーク・サーバー記述に指定された「オンに構成変更の待ち時間」値が使用されます。RANGEおよびRESETのパラメーターは、ネットワーク・サーバーの場合、指定されても無視されるということに注意してください。

例9:媒体ライブラリー内のドライブのリセット

```
VRYCFG  CFGOBJ(MYLIBRARY) CFGTYPE(*MLBRSC) STATUS(*RESET)
        RSRNAME(TAP01 TAP02)
```

このコマンドは、媒体ライブラリー装置MYLIBRARY内のドライブTAP01およびTAP02をリセットします。このアクションを実行するには、装置MYLIBRARYをオンに構成変更しなければなりません。

例10:媒体ライブラリー内のドライブの割り振り解除

```
VRYCFG  CFGOBJ(MYLIBRARY) CFGTYPE(*MLBRSC)
        STATUS(*DEALLOCATE) RSRNAME(OPT02)
```

このコマンドは、媒体ライブラリー装置MYLIBRARY内のドライブOPT02を割り振り解除します。このアクションを実行するには、装置MYLIBRARYをオンに構成変更しなければなりません。

例11:複数のネットワーク・サーバーを並行してオンに構成変更

```
VRYCFG  CFGOBJ(IPCS*) CFGTYPE(*NWS) STATUS(*ON)
        SBMLTJOB(*YES) JOB(*LIBL/QBATCH)
```

このコマンドは、IPCSで始まる名前をもつ各ネットワーク・サーバーをオンに構成変更するために、個別のバッチ・ジョブを投入します。並行して実行するジョブの数は、使用されるサブシステムの構成により異なります。

例12:ネットワーク・サーバーをオンに構成変更する時に証明書をリセット

```
VRYCFG  CFGOBJ(SERVER1) CFGTYPE(*NWS) STATUS(*ON)
        GENPTHCERT(*YES)
```

このコマンドは、ネットワーク・サーバーをオンに構成変更し、構成変更がオンの間に証明書の新規セットを生成するよう要求します。

例13:サーバーの構成変更がオンの時のリモート・ネットワークの再始動

```
VRYCFG  CFGOBJ(SERVER1) CFGTYPE(*NWS) STATUS(*ON)
        RESETSYS(*YES)
```

このコマンドは、ネットワーク・サーバーをオンに構成変更し、SERVER1の構成変更がオンの間にリモート・ネットワーク・サーバーのリセットを要求します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF26AF

装置記述&1中の駆動機構資源の状況が変更されなかった。

CPF26B6

ハードのエラーで初期設定プログラムが終了した。

CPF26B7

ソフトのエラーで初期設定プログラムが終了した。

CPF262E

IPL処理のオンへの構成変更中にエラーが起こった。

CPF262F

障害のためにQDCTRFが停止した。

CPF2640

構成変更コマンドは処理されなかった。

CPF2659

構成変更コマンドは完了していない場合がある。

[トップ](#)

待機 (WAIT)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例
エラー・メッセージ

待機(WAIT)コマンドは、前のファイル受け取り(RCVF)コマンド、ファイル送出し(SNDF)コマンド、またはファイル送信/受信(SNDRCVF)コマンドの1つまたは複数のものによって、ユーザー・データを要求した表示装置ファイルから、入力データを待機しない、入力を受け入れます。これらのコマンドでは、WAITパラメーターに*NOが指定されるか、あるいはSNDFの場合には、その画面に送信するレコード様式にINVITE DDSキーワード・オプションが指定されて、CLプロシージャとの間でデータの受け渡しを行うために特定の表示装置ファイルが指定されています。任意の時点で未処理とできる入力要求は、装置当たり1つだけです。複数の未処理入力要求がある場合には、指定された装置ファイルに応答するために、最初の装置のユーザー・データがCLプロシージャに送信されます。待機間隔内にデータを受信した場合には、待機操作が終了して、プログラムの次のコマンドが処理されます。そうでない場合には、CLプロシージャにエスケープ・メッセージが送られます。

プログラムは入力要求に対する応答を、その装置の表示装置ファイル作成(CRTDSPF)コマンド、表示装置ファイル変更(CHGDSPF)コマンド、または表示装置ファイル一時変更(OVRDSPF)コマンドのWAITRCDキーワードに指定された秒数だけ待機します。

制約事項:

- このコマンドは、CLプロシージャの中で表示装置ファイルに対してのみ有効です。データベース・ファイルでは、これを使用することはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	応答する装置のCL変数	CL 変数名, *NONE	オプション、位置 1
OPNID	オープン・ファイル識別コード	単純名, *NONE	オプション

トップ

応答する装置のCL変数 (DEV)

CLプロシージャへのユーザー・データを応答として送る表示装置の名前を受け入れるCL 変数の名前を指定します。

*NONE

CL変数名が指定されません。応答する装置の名前は必要ありません。

名前 応答側装置の名前を受け取るCL変数の名前を指定してください。装置名を指定することはできません。

トップ

オープン・ファイル識別コード (OPNID)

同じCLプロシージャ内の先行するファイル宣言(DCLF)コマンドで宣言したオープン・ファイルIDを指定します。このパラメーター値にCL変数を指定することはできません。

*NONE

オープン・ファイルIDは指定されていません。このコマンドは、OPNIDパラメーターに*NONEを指定したDCLFコマンドと関連したファイルを使用します。オープン・ファイルIDとして*NONEが指定されているCLプロシージャでは1つのファイルしか宣言できません。

単純名 同じCLプロシージャ内の先行するDCLFコマンドのOPNIDパラメーター値と一致する名前を指定してください。

トップ

例

例1:ユーザー・データの受け取り

```
DCLF  FILE(MSCREEN)
:
RCVF  DEV(DEV1)  WAIT(*NO)
:
RCVF  DEV(DEV2)  WAIT(*NO)
:
WAIT  DEV(&DEVNAM)
```

この例では、ユーザー・データを受け取るために装置ファイルMSCREENが使用されています。RCVFコマンドは、プロシージャがデータを待たないことを指定しています。WAITコマンドにより、プロシージャは、表示装置ファイルMSCREENがその装置の1つからプロシージャに入力データを渡すまで待機します。応答する表示装置の名前は、CL変数&DEVNAMに入れます。受け取ったデータは、宣言されたファイルのレコード様式と関連したCL変数に入れます。

例2:オープン・ファイルIDを使用したデータの受け取り

```
DCLF  FILE(DF1)  RCDfmt(FMT1)  OPNID(DSPF1)
:
RCVF  DEV(DEV1)  OPNID(DSPF1)  WAIT(*NO)
:
WAIT  DEV(*NONE)  OPNID(DSPF1)
```

この例では、RCVFコマンドが、オープン・ファイルID DSPF1と関連した表示装置ファイル、すなわちDF1を使用することを指定しています。プロシージャはユーザー・データを待ちません。WAITコマンドが同じオープン・ファイルIDと一緒に出されると、受け取ったデータは、装置ファイルDF1のレコード様式FMT1に対して宣言されたCL変数に入れます。応答する装置の名前は、CL変数には戻されません。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF0859

ファイル一時変更により入出力バッファー・サイズを超えた。

CPF0882

WAITコマンドに対応するRCVFまたはSNDRCVFコマンドがない。

CPF0886

レコードに正しくないデータ・フィールドが入っている。

CPF0888

ジョブが終了中のため、コマンドは実行されなかった。

CPF0889

指定時間内に入力要求に使用できるデータがなかった。

CPF4101

ライブラリー&3にファイル&2が見つからないか、インライン・データ・ファイルがない。

CPF5068

プログラム装置&4がライブラリー&3のファイル&2に見つからない。

CPF5070

ライブラリー&3のファイル&2には獲得済みプログラム装置がない。

トップ

WHEN (WHEN)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

WHENコマンドは、論理式を評価し、式の評価にしたがってCLプロシージャのコマンドを条件つきで処理します。論理式が真（論理1）の場合は、THENパラメーターに指定されたコマンド（またはDOグループ内のコマンドのグループ）が処理され、SELECTコマンド・グループ内の後続のWHENおよびOTHERWISEコマンドはすべて処理されません。論理式の結果が偽（論理0）の場合は、SELECTグループ内の次にあるWHENまたはOTHERWISEコマンドに制御が渡されます。

THENパラメーターにIF, DO, DOWHILE, DOUNTIL,またはDOFORコマンドが指定されていると、論理式の結果が偽の場合は、コマンドのグループ全体がバイパスされます。制御は次のWHEN, OTHERWISE,またはENDSELECTコマンドに渡されます。

THENパラメーターで指定されたコマンドまたはDOグループが完了すると、ENDSELECTコマンドの次のコマンドに制御が渡され、そのコマンドから処理が続行されます。

制約事項:

- このコマンドはCLプロシージャ内でのみ有効です。
- このコマンドは、SELECT-ENDSELECTコマンド・グループ内でのみ有効です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
COND	条件	論理値	必須, 定位置 1
THEN	コマンド	コマンド・ストリング	オプション, 定位置 2

トップ

条件 (COND)

プログラム中の条件および次に実行される処置を決定するために評価される論理式を示します。論理式については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「論理式」を参照してください。式の中では変数、固定情報、そして%SUBSTRING, %SWITCH,および%BINARY組み込み関数を使用できることに注意してください。

これは必須パラメーターです。

論理値 CL論理変数または論理式の名前を指定してください。

コマンド (THEN)

論理式の評価結果が真の場合に処理されるコマンドまたはコマンドのグループ(DOグループまたはIFコマンド内の)を指定します。コマンドまたはDOグループが処理されると、このWHENコマンドと関連したENDSELECTコマンドの後にある次のコマンドに制御が移ります。このパラメーターで指定したコマンドがDO, DOWHILE, DOUNTIL,またはDOFORコマンドである場合には、DOグループ内のすべてのコマンドがパラメーターによって指定したコマンドと見なされます。

THENパラメーターにコマンドが指定されないと(ヌルTHEN),このWHENコマンドと関連したENDSELECTコマンドより後の次のコマンドに制御が渡されます。

DOコマンドが指定された場合には、DOコマンドだけ(DOグループ中に指定されたコマンドではない)が括弧に入れられます。たとえば、次の通りです。

```
WHEN COND(&A *EQ &B) THEN(DO)
  CMD1
  CMD2
  ...
ENDDO
```

論理式が真に評価され、THENパラメーターにコマンドが指定されていないと(ヌルTHEN),このWHENコマンドと関連したENDSELECTコマンドより後の次のコマンドに制御が渡されます。

CLコマンドはTHENパラメーターに指定することができますが、次のコマンドは例外です。

- ELSE
- PGM, ENDPGM
- ENDDO
- MONMSG
- DCL, DCLF
- WHEN, OTHERWISE, ENDSELECT

例

```
DCL VAR(&NAME) TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL VAR(&INT) TYPE(*INT) LEN(4)
:
SELECT
  WHEN COND(&NAME *EQ *CMD) THEN(DO)
  : (CLコマンドのグループ)
  ENDDO
  WHEN COND(&INT *EQ 1 & &NAME *EQ *PGM) THEN(DO)
  : (CLコマンドのグループ)
  ENDDO
ENDSELECT
```

WHENは、その条件が真に評価された場合に実行するコマンドを指定します。SELECTグループ内のWHENコマンドは、検出された順に評価されます。WHEN条件が満たされない場合は、ENDSELECTコマンドの次にあるコマンドから処理が続行されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

活動ジョブ処理 (WRKACTJOB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

活動ジョブ処理 (WRKACTJOB)コマンドによって、システム中の活動ジョブのパフォーマンスおよび状況情報を処理することができます。できます。ジョブの順序は、**順序 (SEQ)**パラメーターを使用してか、あるいは画面上の操作を通じて変更することができます。その他のパラメーターでは、画面上にジョブの選択を表示することができます。選択パラメーターは、また、画面上の操作によって変更することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT	オプション、位置 1
RESET	状況統計リセット	* <u>NO</u> , *YES	オプション、位置 2
SBS	サブシステム	単一値: * <u>ALL</u> その他の値 (最大 25 回の繰り返し): 名前	オプション
CPUPCTLMT	CPUパーセント限界	0.1-99.9, * <u>NONE</u>	オプション
RSPLMT	応答時間限界	0.1-999.9, * <u>NONE</u>	オプション
SEQ	順序	* <u>SBS</u> , *AUXIO, *CPU, *CPUPCT, *CURUSR, *FUNCTION, *INT, *JOB, *NUMBER, *POOL, *PTY, *RSP, *STS, *THREADS, *TYPE, *USER	オプション
JOB	ジョブ名	修飾子リスト	オプション
	修飾子 1: ジョブ名	総称名, 名前, * <u>ALL</u> , *SYS, *SBS	
INTERVAL	自動再表示間隔	5-999, * <u>PRV</u>	オプション

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

* 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

状況統計リセット (RESET)

活動ジョブ統計をリセットするかどうかを指定します。

***NO** 活動ジョブ統計はリセットされません。前のWRKACTJOBコマンドが現行ジョブで実行された場合には、測定時間間隔が延長されます。すべての活動ジョブが表示されます。

***YES** 活動ジョブ統計がリセットされます。測定時間間隔にはゼロが使用されます。すべての活動ジョブが表示されます。

[トップ](#)

サブシステム (SBS)

活動ジョブが表示されるサブシステムの名前（またはすべてのサブシステム）を指定します。

単一値

***ALL** システム中のすべての活動ジョブが表示されます。どのサブシステムにも関連しないシステム・ジョブも表示されます。

その他の値（最大25個指定可能）

名前 表示されるサブシステムの名前を指定してください。このサブシステム中のすべての活動ジョブ（モニターも含む）が表示されます。

[トップ](#)

CPUパーセント限界 (CPUPCTLMT)

画面に含められる前にジョブ処理に必要な最小処理時間を表すパーセント値を指定します。

***NONE**

ジョブを表示するために必要な最小処理時間に制限を設けません。

0.1から99.9

画面上に組み込まれるためにジョブが必要とする最小処理時間パーセント限界を指定します。

[トップ](#)

応答時間限界 (RSPLMT)

ジョブを画面に含めるために必要な最小応答時間限界を指定します。

***NONE**

ジョブを表示するために必要な最小応答時間に制限を設けません。

0.1から999.9

画面上に組み込まれるためにジョブが必要とする最小応答時間限界を指定します。

[トップ](#)

順序 (SEQ)

表示される活動ジョブの順序を指定します。

***SBS** ジョブは、実行中のサブシステムに基づいて順序付けられます。サブシステムで実行されるジョブ（自動始動ジョブ、対話式ジョブ、バッチ・ジョブ、読み取りプログラム、および書き出しプログラム）は、ジョブ名のアルファベット順に配置され、関連するサブシステムの下に字下げして示されます。サブシステム・モニター・ジョブは、（各モニター・ジョブの下にグループ化されたサブシステム中のジョブとともに）アルファベット順に配置され、システム・ジョブの前に示されます。システム・ジョブは、ジョブ名でアルファベット順に配置され、サブシステム・モニターおよびサブシステム中のジョブの後に示されます。

*AUXIO

ジョブは、測定間隔中に実行された補助記憶域入出力(I/O)操作の回数によって順序付けられます。最大値が最初に表示されます。

***CPU** ジョブは、ジョブ開始以後に使用された処理時間の量によって順序付けられます。最大値が最初に表示されます。

*CPUPCT

ジョブは、測定間隔中に使用した処理装置資源のパーセントによって順序付けられます。最大値が最初に表示されます。

*CURUSR

ジョブは、初期スレッドを現在実行しているユーザー・プロファイルによるアルファベット順に配列されます。

*FUNCTION

ジョブは、機能フィールドの内容に従って、アルファベット順に配列されます。

***INT** ジョブは、測定間隔中に行われた操作員との対話の回数によって順序付けられます。最大値が最初に表示されます。非対話式ジョブは最後に示され、対話フィールドがブランクになります。

***JOB** ジョブは、ジョブ名でアルファベット順に配置されます。

*NUMBER

ジョブはジョブ番号の順序となります。最大値が最初に表示されます。

*POOL

ジョブは、実行中のシステム・プールで順序付けられます。最低の値を持つものが最初に示されます。

***PTY** ジョブは、実行優先順位によって順序付けられます。最高の優先順位値(0)が最初に表示されます。

***RSP** ジョブは、測定間隔中の平均応答時間によって順序付けられます。最大値が最初に表示されます。非対話式ジョブは最後に示され、対話フィールドがブランクになります。

***STS** ジョブは、状況フィールドの内容に従って、アルファベット順に配列されます。

*THREADS

活動スレッドの数によって、ジョブが配列されます。活動スレッド数が最大のジョブが最初に表示されます。

*TYPE

ジョブは、ジョブ・タイプでアルファベット順に配置されます。同じジョブ・タイプではジョブ名でアルファベット順に配置されます。

*USER

ジョブは、ユーザー名でアルファベット順に配置されます。

ジョブ名 (JOB)

表示される活動ジョブの名前を指定します。選択したサブシステム (SBSパラメーター) 内で活動状態のジョブだけが表示されます。*ALLまたは*SBSが指定された時には、サブシステム・モニター名が表示されません。システム・ジョブは、*ALLまたは*SYSが指定された時にだけ表示されます。

修飾子1: ジョブ名

***ALL** すべての活動ジョブが表示されます。

***SYS** すべての活動システム・ジョブが表示されます。この値を使用する時にSBSパラメーターに省略時の値以外の値が指定された場合には、エラー・メッセージが出されます。

***SBS** すべての活動サブシステム・モニターが表示されます。

総称名 基準を満たすすべての活動ジョブが表示されるように指定してください。このパラメーターを使用した場合には、システム・ジョブおよびサブシステム・モニターは表示されません。

名前 表示される活動ジョブを指定してください。このパラメーターを使用した場合には、システム・ジョブおよびサブシステム・モニターは表示されません。

トップ

自動再表示間隔 (INTERVAL)

自動最新表示オプション中に待機する間隔 (秒数) を指定します。省略時の時間は300秒(5分) です。有効な値の範囲は5から999秒です。ユーザーがこの値を変更すると、その値が省略時の値として保管され使用されます。自動最新表示が開始されると、指定された時間に基づいて画面は自動的に最新表示されます。

***PRV** 前の呼び出しで使用された時間間隔。この間隔が指定されるまで、300秒が使用されます。

5から999

自動最新表示の遅延時間 (秒数) を指定します。

トップ

例

例1:活動ジョブ統計のリセット

```
WRKACTJOB  RESET(*YES)  CPUPCTLMT(2)
```

このコマンドによって、ジョブが表示されていない画面を処理することができます。活動ジョブ統計はリセットされ、そのリセット点以降に処理装置時間を使用したジョブはありません。画面が表示された時に、F5キーを押すことができます。これによって、リセット点以降に処理装置使用率の2 %を超えたすべてのジョブが表示されます。

例2:サブシステム内のジョブの処理

```
WRKACTJOB  SBS(QINTER)  SEQ(*INT)
```

このコマンドによって、QINTERサブシステム内のすべてのジョブを処理することができます。ジョブの順序は操作員の対話の数によります。最も対話の多いジョブが最初に表示されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1093

ファイル装置タイプの一時的変更が正しくない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時的変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

トップ

警報処理 (WRKALR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

警報処理(WRKALR)コマンドは、システムによって作成されたか、あるいは警報フォーカル・ポイント・サービスの一部として別のシステムから受け取られた警報を表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DSPOPT	表示オプション	<u>*ALL</u> , *RCV, *LOCAL, *HELD	オプション、位置 1
PERIOD	期間	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 開始日付	日付, <u>*BEGIN</u> , *CURRENT	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
要素 2: 終了日付	日付, <u>*END</u>		
ALRTYPE	警報タイプ	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 文字値, *PERM, *TEMP, *PERF, *PAFF, *IMPEND, *UNKNOWN	オプション
ALRRSC	資源警報	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
ALRRSCTYPE	警報資源タイプ	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
ASNUSER	ユーザー割り当て	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値, *NONE	オプション
GROUP	グループ	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前, *NONE, *DEFAULT	オプション
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT	オプション
DETAIL	詳細	<u>*BASIC</u> , *EXTENDED, *FULL	オプション

[トップ](#)

表示オプション (DSPOPT)

他のシステムから受け取られた警報またはローカルで作成された警報を表示するかどうかを指定します。システム・フォーカル・ポイントに送ることができず、保留としてマークされている警報が表示されます。

*ALL 受け取られた警報およびローカルで作成された警報のすべてが表示されます。

*RCV 他のシステムから受け取られた警報だけが表示されます。

***LOCAL**

ローカルで作成された警報だけが表示されます。

***HELD**

システムのフォーカル・ポイントに送ることができず、保留としてマークされているすべての警報が表示されます。

注: このシステムが送信または転送する保留中の警報と別のシステムが受信する保留中の警報の間には区別があります。DSPOPT(*HELD)は、このシステムによって送信または転送できない保留中の警報だけを表示します。

トップ

期間 (PERIOD)

どの時間間隔で記録された警報が表示されるかを指定します。

要素1: 開始時刻および日付

要素1: 開始時刻

次の1つを使用して、その時またはそれ以後警報がログされていなければならない開始時刻を指定します。指定した時刻と日付より前の警報は表示されません。

***AVAIL**

指定した開始日で使用可能な記録済み警報が表示されます。

時刻 どの記録済み警報が表示されるかを示すためには、指定した開始日に開始時刻を指定してください。開始時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)として入力することができます。ここで、**HH**=時、**MM**=分、および**SS**=秒です。

時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定します。ここで、**HH** =時、**MM** =分、および**SS** =秒です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければならない。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素2: 開始日付

次の1つを使用して、その日またはそれ以後警報がログされていなければならない開始日付を指定します。指定した日付より前に記録された警報は表示されません。

***BEGIN**

ログの始めから記録済み警報が示されます。*BEGINを指定した場合には、開始時刻の*AVAIL以外の時刻値はすべて無視されます。

***CURRENT**

現在日で指定された開始時刻と終了時刻（指定した場合）の間に記録された警報が表示されます。

日付 ログインされた警報が示される開始日を指定してください。日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

要素2: 終了時刻および日付

要素1: 終了時刻

次の1つを使用して、それ以前に警報がログされていない終了時刻を指定します。

***AVAIL**

指定された終了日で使用可能な記録済み警報が表示されます。

時刻 どの記録済み警報が表示されるかを示すためには、指定した終了日に終了時刻を指定してください。終了時刻は4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)として入力します。

時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定します。ここで、HH =時、MM =分、およびSS =秒です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素2: 終了日付

次の1つを使用して、その日またはそれ以前に警報がログされていない終了日付を指定します。

***END** 警報が記録された最後の日付は、記録済み警報が表示される最後の日付です。*ENDを指定した場合には、*AVAIL以外の終了時刻値はすべて無視されます。

日付 ログインされた警報が示される最後の日付の終了日を指定してください。日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

[トップ](#)

警報タイプ (ALRTYPE)

どのタイプの警報が表示されるかを指定します。警報タイプは、警報の重大度を示します。

単一値

***ALL** すべてのタイプの警報が表示されます。

その他の値（最大5個指定可能）

***TEMP**

一時的な問題を報告するすべての警報が表示されます。

***PERM**

永続的な問題を報告するすべての警報が表示されます。

***PERF**

パフォーマンスの問題を報告するすべての警報が表示されます。

***IMPEND**

切迫した問題を報告するすべての警報が表示されます。

***UNKNOWN**

重大度が不明な問題を報告するすべての警報が表示されます。

***PAFF**

永続的に資源を損なう問題を報告するすべての警報が表示されます。

文字値 警報タイプのコード点を指定してください。コード点は2つの16進数字で指定されます。

[トップ](#)

資源名 (ALRRSC)

問題を報告している資源の名前を指定します。

単一値

***ALL** 障害のあるすべての資源に関連した警報が表示されます。

その他の値（最大50個指定可能）

名前 警報資源名を指定してください。この警報資源名に関連した問題を報告している警報が表示されません。

[トップ](#)

警報資源タイプ (ALRRSCTYPE)

問題を報告している資源のタイプを指定します。各警報資源名にはその資源と関連した警報資源タイプがあります。

単一値

***ALL** すべての警報資源タイプの警報が表示されます。

その他の値（最大50個指定可能）

文字値 警報資源タイプを指定してください。割り当てられた警報資源タイプに関連した問題を報告している警報が表示されます。

[トップ](#)

ユーザー割り当て (ASNUSER)

表示されている警報が割り当てられるユーザーを指定します。この値は、警報処置項目追加 (ADDALRACNE)コマンドのASNUSERパラメーターの値からとられます。

単一値

***ALL** すべての警報が表示されます。

その他の値 (最大50個指定可能)

*NONE

ユーザーに割り当てられていない警報が表示されます。

文字値 表示されている警報が割り当てられるユーザーの名前を指定してください。

[トップ](#)

グループ (GROUP)

表示されている警報が割り当てられるグループを指定します。この値は、警報選択項目追加 (ADDALRSLTE)コマンドのGROUPパラメーターの値からとられます。

単一値

***ALL** すべての警報が表示されます。

その他の値 (最大50個指定可能)

*DEFAULT

省略時のグループに割り当てられた警報が表示されます。

*NONE

グループに割り当てられていない警報が表示されます。

名前 表示されている警報が割り当てられるグループの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

***** 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

詳細 (DETAIL)

出力プロンプト(OUTPUTパラメーター) で*PRINTが指定された場合には、印刷されるリストの詳細のレベルを指定します。

*BASIC

基本警報情報のリストが印刷されます。この情報には警報資源およびタイプ、オカレンスの日付および時刻、問題識別、警報記述、および起こり得る原因が含まれています。

*EXTENDED

警報情報の拡張リストが印刷されます。この情報には、*BASIC値によって提供されるすべての情報に加えて、好ましいすべての処置、および警報の主要な詳細が含まれています。

*FULL

全警報情報が印刷されます。この情報には、*BASIC値によって提供されるすべての情報に加えて、好ましいすべての処置、およびすべての警報の詳細が含まれています。

[トップ](#)

例

```
WRKALR  DSOPT(*LOCAL)  ALRTYPE(*TEMP *PERM)  ALRRSCTYPE(DKT)
```

このコマンドによって、ユーザーは一時と永続の両方であるローカル側で警報データベース中に作成された警報を処理することができます。表示された警報が、ディスクットに関して問題を報告中です。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

警報記述の処理 (WRKALRD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

警報記述処理(WRKALRD)コマンドによって、警報記述を表示、追加、変更、および除去することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSGID	メッセージ識別コード	名前, <u>*FIRST</u>	オプション, 位置 1
ALRTBL	警報テーブル	修飾オブジェクト名	オプション, 位置 2
	修飾子 1: 警報テーブル	名前, <u>QCPFMSG</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

[トップ](#)

メッセージ識別コード (MSGID)

WRKALRD画面を使用して処理するメッセージIDを指定します。

*FIRST

指定の警報テーブルで見つかった最初の警報記述がWRKALRD画面に表示されます。

名前 処理するメッセージIDを指定してください。

[トップ](#)

警報テーブル (ALRTBL)

処理する警報テーブルを指定します。

修飾子1: 警報テーブル

QCPFMSG

QCPFMSGという名前の警報テーブルが使用されます。

名前 使用される警報テーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

警報テーブルを見つけるために、現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 警報テーブルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
WRKALRD MSGID(USR1234) ALRTBL(USER/USRMSG)
```

このコマンドは、ライブラリーUSER内の警報テーブルUSRMSGからのメッセージID USR1234で始まっている「警報記述の処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2499

メッセージ識別コード&1を使用することはできない。

CPF7D41

オーダー援助要求のロギング時にエラーが起こった。

CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9811

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9821

ライブラリー&2のプログラム&1は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9831

装置&1を割り当てることができない。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

警報テーブルの処理 (WRKALRTBL)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

警報テーブル処理(WRKALRTBL)コマンドは、警報テーブルのリストを表示し、これによって指定された警報テーブルを変更および削除し、指定された警報テーブルに入っている警報記述を処理し、新しい警報テーブルを作成することができます。警報の詳細は、AS/400 ALERT SUPPORT (SC41-5413)にあります。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 何らかの権限をもっている警報テーブルだけが、画面に表示されます。
- 警報テーブルに対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する*USE権限、およびその操作の実行対象である警報テーブルに対する適切な権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ALRTBL	警報テーブル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 警報テーブル	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

トップ

警報テーブル (ALRTBL)

処理する警報テーブルを指定します。特定の警報テーブル名または総称警報テーブル名を指定することができます。オプションで、名前のいずれかのタイプはライブラリー名で修飾することができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 警報テーブル

***ALL** ライブラリー修飾子で識別されるライブラリーのすべての警報テーブルが検索されます。警報テーブルに対してユーザーが特定の権限をもつ警報テーブルだけを表示することができます。

総称名 表示する警報テーブルの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称警報テーブル名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべての警報テーブルが表示されます。

名前 表示する警報テーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

***USRLIBL**

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB
#COBLIB #RPGLIB
#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX	QRCLXXXXX	QUSRIJS	QUSRVXRXXM
QGPL	QSRVAGT	QUSRINFSKR	
QGPL38	QSYS2	QUSRNOTES	
QMGTC	QSYS2XXXXX	QUSROND	
QMGTC2	QS36F	QUSRPOSGS	
QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSSA	
QMOMDATA	QUSRADSM	QUSRPYMSVR	
QMOMPROC	QUSRBRM	QUSRDRARS	
QPFRDATA	QUSRDIRCL	QUSRSYS	
QRCL	QUSRDIRDB	QUSRVI	

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

例

WRKALRTBL ALRTBL(ALRTBLLIB/AL*)

このコマンドは、'AL'で始まっているライブラリーALRTBLLIB内の警報テーブルのすべてのリストを表示します。表示されたリストから、表示された警報テーブルのどれかまたはすべての警報記述を変更、削除、または処理することができます。また、新規警報テーブルを作成することもできます。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

APPN状況の処理 (WRKAPPNSTS)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

APPN状況処理(WRKAPPNSTS)コマンドによって、APPNとHPRのネットワーク・セッションおよびローカル・システム上のRTP接続の状況に関する情報を表示して処理することができます。表示する情報の選択には、制御装置(CTL)パラメーターと、RMTLOCNAMEパラメーターかRMTCPNAMEパラメーターのいずれか一方（指定された場合）が使用されます。RMTLOCNAMEとRMTCPNAMEの両方は指定できないことに注意してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	オプション	<u>*SELECT</u> , *LOC, *RTP	オプション、位置 1
CTL	接続される制御装置	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, <u>*ALL</u> , *NETATR	オプション
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション
RMTCPNAME	リモート制御点	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション
MODE	モード	総称名, 名前, <u>*ALL</u> , *NETATR	オプション
TCID	トランスポート接続ID	文字値, <u>*ALL</u>	オプション

トップ

オプション (OPTION)

処理することができる情報のタイプを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*SELECT

ユーザーが処理する情報を選択することができるオプションのリストが表示されます。

***LOC** APPNロケーションの処理パネルが表示されます。

***RTP** RTP接続の処理パネルが表示されます。

トップ

接続される制御装置 (CTL)

状況を表示する制御装置名を指定します。指定された制御装置を使用しているセッションだけがAPPN状況の処理画面にリストされます。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** APPNセッションが活動中のすべての制御装置が示されます。

総称*制御装置名

制御装置の総称名を指定します。

制御装置名

制御装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

リモート制御点またはリモート・ロケーションが置かれているリモート・ネットワークの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** APPNセッションが活動中のすべてのリモート・ロケーションおよびリモート制御点が示されます。RMTNETIDに*ALLを指定した場合には、RMTCPNAMEおよびRMTLOCNAME は*ALLでなければなりません。

*NETATR

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

リモート・ネットワーク識別コード

リモート・ネットワーク識別コードを指定してください。

[トップ](#)

リモート制御点 (RMTLOCNAME)

状況が示される活動APPNセッションのリモート・ロケーション名を指定します。指定されたリモート・ロケーション名をもつセッションだけがAPPN状況の処理画面にリストされます。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** APPNセッションが活動中のすべてのリモート・ロケーションが示されます。

総称*リモート・ロケーション名

リモート・ロケーションの総称名を指定してください。

リモート・ロケーション名

リモート・ロケーションのフルネームを指定してください。

[トップ](#)

リモート制御点 (RMTCPCNAME)

状況が示される活動APPNセッションのリモート制御点名を指定します。指定されたりモート制御点名をもつセッションだけがAPPN状況の処理画面にリストされます。

OPTION(*RTP)ビューの場合には、RTP接続パートナーの制御点名の指定にRMTCPCNAME が使用されます。OPTION(*LOC)ビューの場合には、接続制御装置の制御点名の指定にRMTCPCNAMEが使用されます。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** APPNセッションが活動中のすべてのリモート制御点が表示されます。

総称*リモート制御点名

リモート制御点の総称名を指定してください。

リモート制御点名

リモート制御点のフルネームを指定してください。

[トップ](#)

モード (MODE)

すべてのリスト項目のサブセットを作成するために使用されるモードの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** すべての活動セッションが表示されます。

*NETATR

システム・ネットワーク属性に指定されたDFTMODE値が使用されます。

総称*モード点名

モードの総称名を指定してください。

モード名

モードの完全な名前を指定してください。

[トップ](#)

トランスポート接続ID (TCID)

RTP接続のトランスポート接続識別コード(TCID)を指定します。指定されたTCIDを持つRTP接続経由で実行されているセッションだけがRTP接続用のセッションの処理パネルにリストされます。このパラメーターは、OPTION(*RTP)を指定した場合にだけ有効です。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** セッションが活動中のすべてのTCIDが表示されます。

トランスポート接続識別コード

表示するTCIDを指定してください。TCIDパラメーターが*ALLと等しくない場合には、CTLパラメーターとRMTCPCNAMEパラメーターは両方とも*ALLでなければなりません。

[トップ](#)

例

例1: RTP接続の処理

```
WRKAPPNSTS OPTION(*RTP) TCID(*ALL)
```

このコマンドによって、ユーザーは活動状態のすべてのRTP接続を表示できるようになります。

例2: APPNロケーションの処理

```
WRKAPPNSTS OPTION(*LOC) RMTNETID(ROCV) RMTCPNAME(ROCAS*)
```

指定されたりモート制御点の場合、このコマンドによって、ユーザーは、活動状態のAPPNセッションがあるすべてのAPPNロケーションの対を表示できます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

ASPジョブの処理 (WRKASPJOB)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ASPジョブの処理 (WRKASPJOB)コマンドにより、特定の補助記憶域プール(ASP)を使用しているジョブのリストを処理することができます。

このコマンドを使用して、以下のタスクを実行することができます。

- 終了するジョブを選択するか、ASPを選択して、そのASPを使用しているすべてのジョブを終了する。
- 処理するジョブを選択するか、ASPを選択して、そのASPを使用しているすべてのジョブを処理する。
- メッセージの送信先のジョブを選択するか、ASPを選択して、そのASPを使用しているすべてのジョブにメッセージを送信する。

制約事項:

- ASP装置記述に対する使用(*USE)権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ASPDEV	ASP装置	名前, <u>*ALLAVL</u>	オプション、定位置 1

[トップ](#)

ASP装置 (ASPDEV)

ジョブを表示する補助記憶域プール(ASP)装置の名前を指定してください。ASPグループ全体を処理するときは、1次ASP装置の名前を指定してください。2次ASP装置の名前を指定すると、その2次ASP装置がすでにオンラインであるASPグループに加わるために構成変更されているときのみ、詳細な構成変更状況が提供されます。

*ALLAVL

現在「使用可能」状態になっているすべてのASP装置について、使用中ジョブ情報が表示されます。

名前 使用中ジョブを表示したいASPの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

例1:使用可能なASPを使用しているジョブを処理する

```
WRKASPJOB ASPDEV(*ALLAVL)
```

このコマンドは、使用可能なすべてのASP装置と、それらを使用しているジョブを表示します。

例2:特定のASPを使用しているジョブを処理する

```
WRKASPJOB ASPDEV(WAREHOUSE)
```

このコマンドは、WAREHOUSEという名前のASP装置を使用しているジョブを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

権限の処理 (WRKAUT)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

権限処理(WRKAUT)コマンドは、オブジェクトの認可ユーザーとそれに対応する権限のリストを表示します。このリストから、以下を実行するオプションを選択することができます。

- ユーザーの追加
- ユーザー権限の変更
- ユーザーの除去

指定したオブジェクトについて次が表示されます。

- オブジェクトのパス名
- オブジェクトの所有者の名前
- オブジェクトの1次グループの名前
- オブジェクトの使用が認可されているすべてのユーザーのリスト
- オブジェクトに対して各ユーザーがもっている権限

オブジェクトに対応した所有者名がない場合には、そのオブジェクトに対する権限は表示されません。

このコマンドを使用するのに必要な権限については、ISERIES機密保護解説書(SD88-5027)の付録Dを参照してください。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	パス名	必須, 定位置 1
SYMLNK	シンボリック・リンク	*NO, *YES	オプション

トップ

オブジェクト (OBJ)

認可ユーザーおよびその権限を表示するオブジェクトを指定します。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

これは必須パラメーターです。

パス名 特定権限が表示されるオブジェクトのパス名を指定します。

オブジェクト・パス名は、単純名かあるいはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

トップ

シンボリック・リンク (SYMLNK)

パス名の最後の構成要素がシンボリック・リンクの場合には、シンボリック・リンクまたはそのシンボリック・リンクで指示されるオブジェクトを処理するかどうかを指定します。

***NO** シンボリック・リンク・オブジェクトは処理されません。そのシンボリック・リンクによって指示されるオブジェクトは処理されます。

***YES** オブジェクトがシンボリック・リンクの場合には、シンボリック・リンクが処理されます。そのシンボリック・リンクによって指示されるオブジェクトは処理されません。

トップ

例

```
WRKAUT OBJ('/QSYS.LIB/ARLIB.LIB/PROG1.PGM')
```

このコマンドにより、PROG1という名前のオブジェクトに対する許可ユーザーおよびその権限のリストが表示されることとなります。PROG1はARLIBという名前のライブラリー内にあるプログラムです。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPDA080

ユーザー・プロファイル名が長すぎる。

CPE3101

回復可能でない入出力エラーが起こった。

CPE3408

引き数に使用されたアドレスが正しくない。

CPE3418

考えられるAPAR条件またはハードウェア障害。

CPE3474

不明なシステム状態。

CPFA0AA

スペースを獲得しようとしている時にエラーが起こった。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0AD

機能がファイル・システムによってサポートされていない。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A2

この操作に渡された情報が正しくない。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A4

処理するにはオープンされているファイルが多すぎる。

CPFA0A5

オープンされているファイルが多すぎる。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA0C0

バッファ・オーバーフローが起こった。

CPFA0C1

CCSID &1は正しくない。

CPFA08B

パス名を*で始めることはできない。

CPFA08C

パス名ディレクトリーにはパターンを使用できない。

CPFA08E

複数の名前がパターンと一致した。

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA086

パス名で対応する引用符が見つからなかった。

CPFA087

パス名にヌル文字が入っている。

CPFA088

パス名パターンが正しくない。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA09E

オブジェクトが使用中。オブジェクトは&1です。

CPFA09F

オブジェクトに損傷がある。オブジェクトは&1です。

CPFA091

ユーザー名ではパターンは使用できない。

CPFA092

パス名が変換されなかった。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA094

パス名が指定されていない。

CPF1F05

ディレクトリー処理が正しくない。

CPF1F41

パラメーター・リストのアドレス指定中に重大エラーが起こった。

CPF1F4A

ディレクトリー項目の数を示す値が正しくない。

CPF1F53

データ・バッファの長さを示す値が正しくない。

CPF2203

ユーザー・プロファイル&1が正しくない。

CPF2225

内部システム・オブジェクトを割り振ることができない。

CPF22F0

処理時に予期しないエラーが起こりました。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

[トップ](#)

権限リスト処理 (WRKAUTL)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

権限リスト処理(WRKAUTL)コマンドによって、権限リストを表示および変更できる権限リストのリストを表示することができます。

制約事項:

- 何らかの権限をもっている権限リストだけが、画面に表示されます。
- 権限リストに対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する使用(*USE)権限、およびその操作の実行対象である権限リストに対する適切な権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
AUTL	権限リスト	修飾子リスト	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 権限リスト	総称名, 名前, *ALL	

[トップ](#)

権限リスト (AUTL)

表示する権限リストを指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** 所有権または調査権をもっているすべての権限リストのリストが表示されます。

総称名 表示する権限リストの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべての権限リストが表示されます。

名前 表示する権限リストの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

WRKAUTL AUTL(FR*)

このコマンドによって、表示する権限がある'FR'で始まっている権限リストのすべてを処理することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

バインド・ディレクトリーの処理 (WRKBNDDIR)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

バインド・ディレクトリーの処理(WRKBNDDIR)コマンドによって、バインド・ディレクトリーのリストを表示して処理することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- ユーザーが特定の権限をもつバインド・ディレクトリーだけが表示装置に表示されます。
- バインド・ディレクトリーで操作を行うためには、そのコマンドに対して*USE権限と、操作を行いたいバインド・ディレクトリーに対して適切な権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
BNDDIR	ディレクトリーのバインド	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ディレクトリーのバインド	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

トップ

ディレクトリーのバインド (BNDDIR)

処理したいバインド・ディレクトリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ディレクトリーのバインド

***ALL** 指定した1つまたは複数のライブラリーですべてのバインド・ディレクトリーが検索されます。

総称名 バインド・ディレクトリーの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (たとえば, ABC*など) です。総称名が指定された場合には、その総称名で始まる名前のモジュールで、それに対してユーザーが権限をもっているすべてのバインド・ディレクトリーが表示されます。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

名前 処理するバインド・ディレクトリーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***USRLIBL**

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

***ALL** QSYSも含めて、ジョブのライブラリー・リストのシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPLIB       #RPLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXMX
QGPL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QGGL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMOMDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMOMPROC   QUSRBRM     QUSRDRDARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
WRKBNDDIR  BNDDIR(HOLDER)
```

このコマンドによって、HOLDERという名前のバインド・ディレクトリーを処理することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF5D0B

バインド・ディレクトリー&1が作成されなかった。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

[トップ](#)

バインド・ディレクトリー項目の処理 (WRKBNDDIRE)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

バインド・ディレクトリー項目の処理(WRKBNDDIRE)によって、バインド・ディレクトリーの項目を処理することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- バインド・ディレクトリーで操作を行うためには、そのコマンドに対して*USE権限と、操作を行いたいバインド・ディレクトリーに対して適切な権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
BNDDIR	ディレクトリーのバインド	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ディレクトリーのバインド	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL	

トップ

ディレクトリーのバインド (BNDDIR)

指定されたバインド・ディレクトリーの項目を処理します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ディレクトリーのバインド

名前 その項目を表示するバインド・ディレクトリーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

WRKBNDDIRE BNDDIR(COINS)

このコマンドによって、COINSという名前のバインド・ディレクトリー内の項目を処理することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF5D01

ライブラリー&2のバインド・ディレクトリー&1は使用不能である。

CPF980F

ライブラリー&2にバインド・ディレクトリー&1が見つからない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

BOOTPテーブルの処理 (WRKBPTBL)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BOOTPテーブル処理(WRKBPTBL)コマンドによって、BOOTPテーブル内の項目を処理することができます。各テーブル項目には、クライアント・ホスト名、MACアドレス、およびインターネット・プロトコル(IP)アドレスが入っています。

このテーブル内の項目を追加、変更、除去、または表示することができます。また、テーブルを印刷することもできます。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

WRKBPTBL

このコマンドは、「TCP/IP BOOTPテーブルの構成」メニューを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

構成リスト処理 (WRKCFGL)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構成リスト処理(WRKCFGL)コマンドによって、構成リスト処理画面を通して、構成リスト機能を処理することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CFGL	構成リスト	総称名, 名前, *ALL, *APPNDIR, *APPNLCL, *APPNRMT, *APPNSSN, *ASYNCADR, *ASYNCLC, *RTLPASTR, *SNAPASTHR	オプション, 位置 1

トップ

構成リスト (CFGL)

処理する構成リストを指定します。

***ALL** すべての構成リストを処理します。

***APPNDIR**

拡張対等通信ネットワーク機能(APPN)ディレクトリー構成リストを処理します。

総称構成リスト名

総称構成リスト名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

構成リスト名

特定の構成リストの名前を指定してください。

***APPNLCL**

APPNローカル・ロケーション構成リストを処理します。

***APPNRMT**

APPNリモート・ロケーション構成リストを処理します。

***APPNSSN**

APPNセッション構成リストを処理します。

***ASYNCADR**

非同期PADネットワーク・アドレス構成リストを処理します。

***ASYNCLC**

非同期リモート・ロケーション構成リストを処理します。

***RTLPASTR**

小売業パススルー構成リストを処理します。

***SNAPASTHR**

SNAパススルー構成リストを処理します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

例

WRKCFGL CFGL(PEG*)

このコマンドによって、「構成リスト処理」パネルを使用して、名前が'PEG'で始まるすべての構成リストの項目を処理できます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

構成状況処理 (WRKCFGSTS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

構成状況処理(WRKCFGSTS)コマンドは、構成状況機能の表示および処理を行うために使用します。このコマンドを実行すると、構成状況処理画面が表示されます。

ネットワーク・サーバー記述について表示される状況は、オブジェクトの構成状況です。ネットワーク・サーバー機能とクライアントのセッションの状況を表示するために、構成状況処理画面から使用可能なオプションがあります。ネットワーク・サーバーをオフに構成変更する前に活動クライアントを検査するためには、このオプションを使用してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CFGTYPE	タイプ	*NWS, *NWI, *LIN, *CTL, *DEV	必須, 定位置 1
CFGD	構成記述	総称名, 名前, <u>*ALL</u> , *CMN, *ASYN, *BSC, *DDI, *ELAN, *FAX, *FR, *IDLC, *NET, *PPP, *SDLC, *TDLC, *TRLAN, *WLS, *X25, *WS, *LWS, *RWS, *VWS, *CRP, *DKT, *MLB, *OPTMLB, *TAPMLB, *OPT, *ASP, *NWSH, *TAP, *DSP, *LCLDSP, *RMTDSP, *VRTDSP, *PRT, *LANPRT, *LCLPRT, *RMTprt, *VRTprt, *LOC, *SNPT, *APPC, *FNC, *HOST, *RTL, *INTRA, *ATM, *ISDN, *T1	オプション, 定位置 2
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション, 定位置 3
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	総称名, 名前, <u>*NONE</u>	オプション
RANGE	範囲	<u>*NET</u> , *OBJ	オプション
STATUS	状況	* <u>ALL</u> , *ACTIVE, *FAILED, *VARYOFF, *VARYON, *AVAILABLE	オプション
ASTLVL	援助レベル	* <u>PRV</u> , *USRPRF, *BASIC, *INTERMED, *ADVANCED	オプション

トップ

タイプ (CFGTYPE)

状況を表示する記述のタイプを指定します。

*NWS ネットワーク・サーバーの状況が表示されます。

*NWI ネットワーク・インターフェースの状況が表示されます。

*LIN 回線の状況が表示されます。

*CTL 制御装置の状況が表示されます。

*DEV 装置の状況が表示されます。

トップ

構成記述 (CFGD)

構成状況処理画面に表示する記述を指定します。

***ALL** **タイプ (CFGTYPE)**パラメーターの値にしたがって、すべてのネットワーク・インターフェース、すべての回線、すべての制御装置、またはすべての装置の状況が表示されます。また、接続されている制御装置および装置がある場合には、その状況も表示されます。

***CMN** CFGTYPEパラメーターの値によって、通信制御装置または通信装置の状況が表示されます。

***APPC**

拡張プログラム間通信機能(APPC)の制御装置または入出力装置の状況が表示されます。

***ASP** 補助記憶域プール(ASP)装置の状況が表示されます。

***ASYNC**

非同期回線、制御装置、または入出力装置の状況が表示されます。

***ATM** 非同期転送モード(ATM)ネットワーク・インターフェースの状況が表示されます。

***BSC** 2進データ同期回線、制御装置、または入出力装置の状況が表示されます。

***DDI** すべての分散データ・インターフェース回線の状況が表示されます。

***DKT** ディスケット装置の状況が表示されます。

***DSP** 表示装置の状況が表示されます。

***ELAN**

イーサネット回線の状況が表示されます。

***FAX** すべてのファクシミリ(FAX)回線の状況が表示されます。

***FNC** 金融機関用制御装置または入出力装置の状況が表示されます。

***FR** すべてのフレーム・リレー・ネットワーク・インターフェースまたは回線の状況が表示されます。

***HOST**

すべてのホスト制御装置または入出力装置の状況が表示されます。

***IDLC** IDLC回線の状況が表示されます。

***INTRA**

システム内通信装置の状況が表示されます。

***ISDN** 統合サービス・デジタル網(ISDN)ネットワーク・インターフェースの状況が表示されます。

***LANPRT**

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)印刷装置の状況記述が表示されます。

***LCLDSP**

ローカル表示装置の状況が表示されます。

***LCLPRT**

ローカル印刷装置の状況が表示されます。

***LOC** 特定のリモート・ロケーションにある装置の状況が表示されます。*LOCを指定するためには、CFGTYPEパラメーターに値*DEVを指定しなければなりません。

- ***LWS** ローカル・ワークステーション制御機構の状況が表示されます。
 - ***MLB** 光ディスクとテープ媒体ライブラリー装置の両方の状況が表示されます。
 - ***NET** ネットワーク回線, 制御装置, または入出力装置の状況が表示されます。
 - ***NWSH**
ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター装置の状況が表示されます。
 - ***OPT** 光ディスク装置の状況が表示されます。
 - ***CRP** 暗号装置の状況が表示されます。
 - ***OPTMLB**
光ディスク媒体ライブラリー装置の状況が表示されます。
 - ***PPP** POINT-TO-POINTプロトコル(PPP)回線の状況記述が表示されます。
 - ***PRT** すべての印刷装置の状況が表示されます。
 - ***RMTDSP**
リモート表示装置の状況が表示されます。
 - ***RMPRT**
リモート印刷装置の状況が表示されます。
 - ***RTL** 小売業制御装置または入出力装置の状況が表示されます。
 - ***RWS** リモート・ワークステーション制御機構の状況が表示されます。
 - ***SDLC**
SDLC回線の状況が表示されます。
 - ***SNPT**
SNAパススルー装置の状況記述が表示されます。
 - ***T1** T1ネットワーク・インターフェースの状況が表示されます。
 - ***TAP** CFGTYPEパラメーターの値によって, テープ制御装置または装置の状況が表示されます。
 - ***TAPMLB**
テープ媒体ライブラリー装置の状況が表示されます。
 - ***TDLC**
TDLC回線の状況が表示されます。
 - ***TRLAN**
トークンリング回線の状況が表示されます。
 - ***VRTDSP**
仮想 (パススルー) 表示装置の状況が表示されます。
 - ***VRTPRT**
仮想 (パススルー) 印刷装置の状況が表示されます。
 - ***VWS** 仮想 (パススルー) ワークステーション制御機構の状況が表示されます。
 - ***WS** すべてのワークステーション制御機構の状況が表示されます。
 - ***X25** X.25回線の状況が表示されます。すべての表示装置の状況が表示されます。
- 総称名** 表示する構成記述の総称名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 表示する構成記述の名前を指定します。特定の記述および接続機構の状況が表示されます。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのプール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

状況を表示したい装置のリモート・ロケーション名を指定します。指定されたりモート・ロケーション名を持つ装置記述だけが、構成状況処理画面にリストされます。

構成記述 (CFGD)パラメーターに値*LOCが指定されている場合には、このパラメーターは必須です。CFGDパラメーターに*LOC以外の値が指定されている場合には、有効なパラメーターではありません。

***NONE**

リモート・ロケーション名によっては、状況は表示されません。**タイプ (CFGTYPE)**パラメーターに*NWI, *LIN,または*CTL値を指定する場合には、*NONEを指定してください。CFGDパラメーターに*LOC以外の値が指定されている場合にも、*NONEを指定する必要があります。

総称名 総称リモート・ロケーション名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 状況を表示したい装置のリモート・ロケーション名を指定します。

[トップ](#)

範囲 (RANGE)

下位構成と上位構成のどちらの接続された構成記述が表示されるかを指定します。

***NET** **構成記述 (CFGD)**パラメーターに単一の記述の名前が指定されている場合には、下位構成と上位構成の両方の記述が表示されます。CFGDパラメーターに特殊値または総称名が指定されている場合には、下位構成記述が表示されます。

***OBJ** **タイプ (CFGTYPE)**パラメーターに指定されたタイプのオブジェクトだけが表示されます。

状況 (STATUS)

表示される記述のリストのサブセットを作成するために使用される状況の値を指定します。**構成記述 (CFGD)**パラメーターに単一の記述の名前が指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

***ALL** その状況にかかわらず、すべての記述がリストに組み込まれます。

***ACTIVE**

活動状況のすべての記述が表示されます。

***AVAILABLE**

可用性状況であるすべての記述が表示されます。

***FAILED**

障害、回復、損傷、シャットダウン、または不明状況のすべての記述が表示されます。

***VARYOFF**

オフに構成変更またはオフに構成変更の保留状況のすべての記述が表示されます。

***VARYON**

オフに構成変更またはオフに構成変更の保留状況でないすべての記述が表示されます。

トップ

援助レベル (ASTLVL)

使用するユーザー・インターフェースを指定します。

***PRV** 前に使用したユーザー・インターフェースが表示されます。

***USRPRF**

ユーザー・プロファイルの**援助レベル (ASTLVL)**パラメーターに指定されたユーザー・インターフェースが使用されます。

***BASIC**

操作援助機能ユーザー・インターフェースが使用されます。

注: ASTLVLパラメーターに***BASIC**値を指定できるのは、***DEV**値が**タイプ (CFGTYPE)**パラメーターに指定されたときだけです。

***INTERMED**

システム・ユーザー・インターフェースが使用されます。

***ADVANCED**

エキスパート・ユーザー・インターフェースが使用されます。

トップ

例

例1:すべてのリモート表示装置の表示

```
WRKCFGSTS  CFGTYPE(*DEV) CFGD(*RMTDSP)
```

このコマンドは、「構成状況処理」画面を使用して、すべてのリモート表示装置の状況を表示します。

例2:すべてのネットワーク・サーバーの状況の表示

```
WRKCFGSTS  CFGTYPE(*NWS) CFGD(*ALL)
```

このコマンドによって、ユーザーは構成状況処理コマンドを使用して、システム上のすべてのネットワーク・サーバーの状況を表示できます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

CPF2602

制御装置&1が見つかりません。

CPF2702

装置記述&1が見つかりません。

CPF2703

制御装置記述&1が見つかりません。

CPF2704

回線記述&1が見つからない。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

図表様式の処理 (WRKCHTFMT)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

図表様式処理(WRKCHTFMT)コマンドによって、1つまたは複数のライブラリーから図表様式のリストを表示することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 何らかの権限をもっている図表様式だけが、画面に表示されます。
- 図表様式に対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する*USE権限、およびその操作の実行対象である図表様式に対する適切な権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CHTFMT	図表様式	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 図表様式	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

トップ

図表様式 (CHTFMT)

表示する図表様式を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 図表様式

***ALL** ライブラリー修飾子で識別されるライブラリーのすべての図表様式が表示されます。

総称名 表示する図表様式の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべての図表様式が表示されます。

名前 表示する図表様式の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXMX
QGPL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX  QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM     QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

例

```
WRKCHTFMT  CHTFMT(LIB01/ABC*)
```

このコマンドによって、ライブラリーLIB01に保管されている名前が'ABC'で始まっている図表様式のリストのすべてを処理することができます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

[トップ](#)

クラスの処理 (WRKCLS)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラス処理(WRKCLS)コマンドによって、1つまたは複数のライブラリーから使用可能なクラスのリストを表示することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 何らかの権限をもっているクラスだけが、画面に表示されます。
- クラスに対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する*USE権限、およびその操作の実行対象であるクラスに対する適切な権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLS	クラス	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: クラス	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

トップ

クラス (CLS)

表示するクラス記述を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: クラス

***ALL** すべてのクラス記述が表示されます。

総称名 表示するクラス記述の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのクラス記述が表示されます。

名前 表示するクラス記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXMX
QGPL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX  QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM     QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

例

```
WRKCLS  CLS(LIB01/ABC*)
```

このコマンドによって、ライブラリーLIB01に入っている名前が'ABC'で始まっているクラス・オブジェクトで始まっているクラスのリストを処理することができます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

[トップ](#)

クラスターの処理 (WRKCLU)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラスター処理(WRKCLU)コマンドは、クラスター・ノードおよびオブジェクトを表示して、処理するために使用されます。このコマンドを実行すると、「クラスター処理」画面が表示されます。

「クラスター処理」画面からは、クラスター内のノード、現行のクラスター・パフォーマンス、および構成情報を表示するためのオプション、クラスター内のクラスター資源グループを表示するためのオプション、クラスター資源グループについての特定情報を表示するためのオプション、およびデバッグ情報を収集するためのオプションが使用可能です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	オプション	<u>*SELECT</u> , *NODE, *CFG, *CRG, *SERVICE	オプションナル, 定位置 1

トップ

オプション (OPTION)

処理したいクラスター状況情報を指定します。

*SELECT

「クラスター処理」メニューを表示します。

*NODE

「クラスター情報」パネルを表示します。これは、クラスター内のノードのリストです。

***CFG** クラスターの完全な構成パラメーターを表示します。

***CRG** クラスター内のクラスター資源グループのリストを表示します。また、クラスター資源グループについての詳しい情報を入手することもできます。

*SERVICE

クラスター内のすべてのクラスター資源サービス・ジョブの関連のトレースおよびデバッグ情報を収集します。この情報は、クラスター資源サービス・ジョブごとに1つのメンバーでファイルに書き込まれます。

このオプションは、サービス・プロバイダーによって指示された時にかぎり使用してください。クラスター・トレース・ダンプ(DMPCLUTRC)コマンドのプロンプト・パネルが表示されます。

トップ

例

例1: クラスター内のノードのリストの表示

```
WRKCLU OPTION(*NODE)
```

このコマンドは、クラスター内のすべてのノードのリストおよび各ノードについての情報を表示します。

例2: 現在クラスターに知られているクラスター資源グループのリストの取得

```
WRKCLU OPTION(*CRG)
```

このコマンドは、クラスター資源グループのリストを提供します。クラスター資源グループの特性についての詳細情報を得るためのオプションがあります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF1999

コマンドでエラーが起こった。

[トップ](#)

コマンドの処理 (WRKCMD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

コマンド処理(WRKCMD)コマンドによって、1つ以上のライブラリーからコマンドのリストを表示することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 何らかの権限をもっているコマンドだけが、画面に表示されます。
- コマンドに対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する*USE権限、およびその操作の実行対象であるコマンドに対する適切な権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMD	コマンド	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: コマンド	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

トップ

コマンド (CMD)

「コマンドの処理」画面に表示するコマンドを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: コマンド

***ALL** すべてのコマンドが「コマンドの処理」画面に表示されます。

総称名 表示するコマンドの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのコマンドが表示されます。

名前 表示するコマンドの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXMX
QGPL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
WRKCMD  CMD(QGPL/DSP*)
```

このコマンドによって、'DSP'で始まっているQGPLライブラリー内のコマンドのすべてのリストを処理することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

[トップ](#)

コミットメント定義の処理 (WRKCMTDFN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

コミットメント定義処理(WRKCMTDFN)コマンドは、システム上のコミットメント定義を処理するために使用されます。コミットメント定義は、コミットメント制御がコミットメント制御開始(STRCMTCTL)コマンドによって開始された時にコミットメント制御についての情報を記憶するために使用されます。こうしたコミットメント定義は、活動ジョブに関連していることも、関連していないこともあります。活動ジョブに関連していないものは終了していますが、1つまたは複数の作業論理単位はまだ完了していません。

STATUSパラメーターは、コミットメント定義のリストをその状況によってサブセットにするために使用することができます。たとえば、*RESYNCの状況値では、資源の再同期化に関連するすべてのコミットメント定義のリストが表示されます。コミットメント定義は、作業論理単位全体にわたる同期点を再確立するために、有効となっている資源の再同期に含まれることがあります。同期点は、作業論理単位内のすべての資源が一貫した状態になっているような点です。状況値の*UNDECIDEDでは、コミットまたはロールバックの決定の受け取りを待っているコミット操作に含まれているすべてのコミットメント定義のリストが表示されます。*XOPENの状況値では、X/OPENグローバル・トランザクションと関連したすべてのコミットメント定義のリストが表示されます。

ASPグループ・パラメーターは、コミットメント定義が入っている補助記憶域プール(ASP)別にコミットメント定義のリストのサブセットを作成するために使用できます。

作業論理単位識別コード(LUWID)パラメーターは、別のシステムのコミットメント定義を処理しているシステム上のコミットメント定義を検索しようとする時に使用することができます。こうしたコミットメント定義を含んでいるジョブは、APPC会話を使用して通信しています。LUWIDは、1つのシステムのコミットメント定義を表示して、それをWRKCMTDFNコマンドの入力として使用し、対応するコミットメント定義を見つけることによって判別することができます。

重複ジョブ・オプション(DUPJOB OPT)パラメーターは、このコマンドで重複ジョブが見つかった時に取られる処置を指定します。重複ジョブが見つかった場合には、そのジョブは、ユーザーが選択できるリストに表示されるか、あるいは見つかった各重複ジョブについてメッセージが出されることとなります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	単一値: *, *ALL その他の値: 修飾ジョブ名	オプション、位置 1
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
STATUS	状況	*ALL, *RESYNC, *UNDECIDED, *XOPEN	オプション、位置 2

キーワード	記述	選択項目	注
ASPGRP	ASPグループ	名前, *ALLAVL, *SYSBAS	オプション
LUWID	論理的な作業単位ID	文字値, *ALL	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション
DUPJOBPT	重複ジョブ・オプション	*SELECT, *MSG	オプション

トップ

ジョブ名 (JOB)

コミットメント定義が表示されるジョブ（ある場合）の名前を指定します。ジョブ名が修飾されていない場合には、その名前のすべてのジョブのコミットメント定義が表示されます。*ALLを指定しない場合には、ロック有効範囲*TNSSOBJのコミットメント定義が指定されたジョブのスレッドにつながっている場合でも、ロック有効範囲*JOBのコミットメント定義だけが表示されます。ロック有効範囲*TNSSOBJのコミットメント定義を表示するには、*ALLを指定しなければなりません。

ジョブ識別コードは、最大3つの要素からなる特殊値または修飾名です。たとえば、次の通りです。

*
*ALL
ジョブ名
ユーザー名/ジョブ名
ジョブ番号/ユーザー名/ジョブ名

* WRKCMDFNコマンドを出したジョブと関連したコミットメント定義が表示されます。

*ALL システム上のすべてのジョブのコミットメント定義が表示されます。

ジョブ名

表示されるコミットメント定義と関連したジョブの名前を指定してください。

ユーザー名

表示されるコミットメント定義と関連したユーザーの名前を指定してください。

ジョブ番号

表示されるコミットメント定義と関連したジョブの番号を指定します。

トップ

状況 (STATUS)

このパラメーターに指定された値と一致する状況を持つコミットメント定義だけがリストされることを指定します。

*ALL すべての状況のコミットメント定義が表示されます。

*RESYNC

資源の再同期に含まれるコミットメント定義だけが表示されます。コミットメント定義は、同期点を再確立できるように、資源の再同期に含まれることがあります。同期点は、すべての資源が一貫した状態になっているような点です。

*UNDECIDED

関連の作業論理単位が未決定の状態にあるコミットメント定義だけが表示されます。コミットメント定義は、そのコミットメント定義に対して不明の資源のコミットまたはロールバックを決定する時に未決定の状態にあります。

*XOPEN

X/OPENグローバル・トランザクションと関連したコミットメント定義だけが表示されます。

[トップ](#)

ASPグループ (ASPグループ)

表示されるコミットメント定義の補助記憶域プール(ASP)グループを指定します。

*ALLAVL

オンラインASP中のすべてのコミットメント定義が表示されます。

*SYSBAS

システムASP (ASP番号1)および基本ASP (ASP番号2-32)のコミットメント定義だけが表示されます。

補助記憶域プール・グループ名

指定されたASPグループ内のコミットメント定義だけが表示されます。

[トップ](#)

論理的な作業単位ID (LUWID)

表示されるコミットメント定義の作業論理単位識別コードを指定します。

作業論理単位識別名は3つの要素からなる文字ストリングです。

- ネットワーク修飾論理装置(LU)名
- 識別情報番号
- 順序番号

ネットワーク修飾LU名は、最大8文字の文字ネットワークIDとピリオド区切り文字に最大8文字のLU名が続いたものからなります。このインスタンス番号は、それぞれが1つの16進数を表す12文字の値として入力されます。値は16進数の形式で入力しなければなりません。たとえばX'123456789012'。順序番号は1-65535の範囲の10進値です。たとえば、次の通りです。

```
APPN.RCHASLGU.X'12578A3BDCFF'.23657
```

***ALL** すべての作業論理単位と関連したコミットメント定義が表示されます。

総称*作業論理単位識別名

作業論理単位識別名の総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。総称名を指定した場合には、その総称名で始まる作業論理単位識別名を持つすべてのコミットメント定義が表示されます。アスタリスクが総称 (接頭部) 名に含まれていない場合には、システムはそれを完全な作業論理単位識別名であると見なします。

作業論理単位識別名

コミットメント定義と関連した最大39文字の作業論理単位識別コードを指定してください。

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元表示装置に表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

- * 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

トップ

重複ジョブ・オプション (DUPJOB OPT)

このコマンドで重複ジョブが見つかった時に取られる処置を指定します。

*SELECT

対話式セッションで重複ジョブが見つかった時には、選択画面が表示されます。バッチ・ジョブの場合には、メッセージが表示されます。

- *MSG 重複しているジョブが見つかった時には、メッセージが出されます。

トップ

例

例1:ジョブだけに限定

次の例は、指定されたジョブに関連したコミットメント定義のリストを表示します。システム上のすべてのコミットメント定義の中から、指定されたジョブに関連したものがリストされます。

```
WRKCMTDFN JOB(012345/WULF/WULFS1)
```

例2:資源の再同期化と関係したコミットメント定義だけに限定

次の例は、その資源の再同期化と関係したシステム上のすべてのコミットメント定義のリストを表示します。

```
WRKCMTDFN JOB(*ALL) STATUS(*RESYNC)
```

例3:未決定のコミットメント定義だけに限定

次の例は、未決定の状態にあるシステム上のすべてのコミットメント定義のリストを表示します。作業論理単位の状態が準備か最終エージェント保留中のいずれかである場合には、コミットメント定義は未決定の状態にあります。

```
WRKCMTDFN JOB(*ALL) STATUS(*UNDECIDED)
```

例4: X/OPENグローバル・トランザクションに関連したコミットメント定義だけに限定

次の例は、X/OPENグローバル・トランザクションに関連したすべてのコミットメント定義のリストを表示します。

```
WRKCMDFN JOB(*ALL) STATUS(*XOPEN)
```

例5: LUWIDだけに限定

```
WRKCMDFN JOB(*ALL) LUWID(APPN.RCHASL7E.X'11223344BDF'.*)
```

このコマンドは、作業論理単位IDが指定された総称値で始まるすべてのコミットメント定義のリストを表示します。システム上のすべてのコミットメント定義の中から、その作業論理単位IDが総称値で始まるものだけがリストされます。

例6: システムASPだけに限定

```
WRKCMDFN JOB(*ALL) ASPGRP(*SYSBAS)
```

このコマンドは、システム補助記憶域プール(ASP番号1)に入っているすべてのコミットメント定義のリストを表示します。

例7: ASP装置記述名だけに限定

```
WRKCMDFN JOB(*ALL) ASPGRP(IASP0035)
```

このコマンドは、ASP装置記述IASP0035に関連した独立補助記憶域プール(ASP)に入っているすべてのコミットメント定義のリストを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF0941

ジョブ&3/&2/&1はもはやシステムにない。

CPF1069

重複名の終わり。

CPF1070

ジョブ&3/&2/&1が見つからない。

CPF1071

ジョブ&3/&2/&1に対する権限がない。

CPF83E5

ジョブが認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

接続リストの処理 (WRKCNL)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

接続リスト処理(WRKCNL)コマンドによって、接続リストを処理することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CNNL	接続リスト	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプションル, 定位置 1

[トップ](#)

接続リスト (CNNL)

これは必須パラメーターです。

処理する接続リストを指定します。

*ALL すべての接続リストが処理されます。

総称名 処理する接続リストの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称接続リスト名と同じ接頭部で始まる名前をもつすべての接続リストが表示されます。

名前 特定の接続リスト名を指定してください。

[トップ](#)

例

WRKCNL CNNL(CHI*)

このコマンドは、'CHI'で始まる名前をもち、ユーザーが権限をもっている接続リストを処理するために「接続リスト処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF266C

接続リスト&1が見つからない。

CPF266D

システム・ライブラリーにプログラム名&1が見つからない。

CPF266E

接続リスト&1に損傷がある。

[トップ](#)

接続情報処理 (WRKCNTINF)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

エレクトロニック支援処理(WRKCNTINF)コマンドは、各種のサポート・センターに連絡をとる場合、またはそれらから連絡を受ける場合に役立つ情報を処理するために使用します。連絡先情報は、IBMLINKセンターまたは保守サポート・センターから提供されます。このコマンドはサポート機能を選択できるメニューを表示します。

制約事項: このコマンドを使用するためには、ユーザーがQSRVまたはQSRVBASとしてサインオンするか、あるいは*ALLOBJ権限が必要です。

このコマンドにはパラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

WRKCNTINF

このコマンドは、「サポート連絡先情報の処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8C84

保守サポート連絡先データの処理中にエラーが検出された。

CPF8C96

記述は必須フィールドである。

CPF8C97

記述はすでにシステム・ディレクトリーに存在している。

[トップ](#)

COS記述処理 (WRKCOSD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・クラス記述処理(WRKCOSD)コマンドにより、サービス・クラス記述処理画面を通して、サービス・クラス記述機能への対話式インターフェースが提供されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
COSD	サービス・クラス記述	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプションナル, 位置 1

トップ

サービス・クラス記述 (COSD)

処理するサービス・クラス記述を指定します。

*ALL すべてのサービス・クラス記述を処理します。

総称COS記述名

総称サービス・クラス記述名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

COS記述名

特定のサービス・クラス記述を指定します。

トップ

例

WRKCOSD COSD(MPLS*)

このコマンドは、名前が'MPLS'で始まるすべてのサービス・クラス記述の項目を示す「サービス・クラス記述処理」パネルを表示します。

トップ

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

通信サイド情報の処理 (WRKCSI)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

通信サイド情報の処理(WRKCSI)コマンドにより、指定した1つまたは複数のライブラリー中のサイド情報を処理することができます。表示されたサイド情報オブジェクトのリストから、項目を作成、削除、変更、印刷、または表示することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CSI	サイド情報	修飾オブジェクト名	オプション、位置 1
	修飾子 1: サイド情報	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

トップ

サイド情報 (CSI)

処理したいサイド情報オブジェクト用のオブジェクト名を指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** サイド情報オブジェクトのすべてのリストが表示されます。

サイド情報名

表示したいサイド情報オブジェクトのリストの名前およびライブラリーを指定してください。

総称*サイド情報名

表示したいサイド情報オブジェクトの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称サイド情報オブジェクトと同じ接頭部をもつすべてのサイド情報オブジェクトが表示されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

サイド情報オブジェクトを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXMX
QGGL       QSRVAGT    QUSRINFSCR
QGGL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQRDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQRPROC   QUSRBRM    QUSRDRDARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

ライブラリー名

サイド情報オブジェクトが入っているライブラリー名を指定してください。このパラメーターに指定したライブラリーだけが検索されます。

トップ

例

例1:情報オブジェクトの表示

```
WRKCSI
```

このコマンドは、ライブラリー・リスト中のいずれかのライブラリーに存在するすべてのサイド情報オブジェクトを表示します。「通信サイド情報処理」パネルからは、サイド情報オブジェクトを処理できます。

例2: 'SIDE'で始まるオブジェクトの表示

```
WRKCSI  CSI(QGPL/SIDE*)
```

このコマンドは、ライブラリーQGPLにあり、文字'SIDE'で始まるすべてのサイド情報オブジェクトを表示します。「通信サイド情報処理」パネルからは、サイド情報オブジェクトを処理できます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

制御装置記述の処理 (WRKCTLD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

制御装置記述の処理(WRKCTLD)コマンドによって、制御装置記述の処理画面を通して、制御装置記述機能を処理することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLD	制御装置記述	総称名, 名前, <u>*ALL</u> , *CMN, *WS, *TAP, *LWS, *RWS, *VWS	オプションナル, 位置 1

[トップ](#)

制御装置記述 (CTLD)

制御装置記述の名前を指定します。

*ALL すべての制御装置記述を処理します。

総称制御装置記述名

総称制御装置記述名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

制御装置記述名

特定の制御装置記述を処理します。

*CMN 通信制御装置記述を処理します。

*WS ワークステーション制御機構記述を処理します。

*TAP テープ制御装置記述を処理します。

*LWS ローカル・ワークステーション制御機構記述を処理します。

*RWS リモート・ワークステーション制御機構記述を処理します。

*VWS 仮想 (パススルー) ワークステーション制御機構記述を処理します。

[トップ](#)

例

WRKCTLD CTLD(*LWS)

このコマンドは、権限のあるすべてのローカル・ワークステーション制御装置の項目を処理するために、「制御装置記述処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

IDDUを使用したDBファイル処理 (WRKDBFIDD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

対話式データ定義ユーティリティ(IDDU)を使用したデータベース・ファイルの処理(WRKDBFIDD)コマンドによって、データベース・ファイルの処理画面が表示されます。この画面から、物理ファイルを作成、またはファイルへのデータを入力できるオプションを選択することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	名前, <u>*PRV</u> , *CURLIB	オプション

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

***PRV** ファイルは、IDDUで最後に処理したライブラリーに入っています。IDDUの初めての処理の場合には、現行ライブラリーが使用されます。

***CURLIB**

ファイルを位置指定するためにジョブの現行ライブラリーが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

例

WRKDBFIDD DEPT245

このコマンドは、「データベース・ファイルの処理」パネルを表示して、DEPT245ライブラリーのIDDUデータベース・ファイルを処理します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

DDMファイル処理 (WRKDDMF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

分散データ管理ファイル処理(WRKDDMF)コマンドは、DDMファイルのリストを表示します。このリストから次のことを行なうことができます。

- DDMファイルの変更
- DDMファイルの削除
- DDMファイルの明細の表示
- DDMファイルの作成
- DDMファイルのリストの印刷
- DDMファイルの明細の印刷

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	
OUTPUT	出力	*, *PRINT _,	オプション, 定位置 2

トップ

ファイル (FILE)

選択するDDMファイルの名前およびライブラリーを指定します。総称DDMファイル名または*ALLを指定することができます。

指定できるファイルの値は次の通りです。

***ALL** 指定したライブラリー（または、ライブラリー修飾子で識別されるライブラリーのうちユーザーにアクセス権のあるすべてのライブラリー）の中のすべてのファイルがリストされます。

ファイル名

選択するDDMファイルの名前を指定してください。ライブラリー名として*LIBL または*USRLIBL を指定した場合には、指定した名前をもったすべてのDDMファイルがリストされます。

総称*ファイル名

選択するDDMファイルの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に

アスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。このパラメーターに総称名を指定した場合には、総称ファイル名と同じ接頭部をもつ名前のすべてのファイルが選択されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXMX
QGPL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM     QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

* 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

WRKDDMF

このコマンドは、「DDMファイルの処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

装置記述の処理 (WRKDEVD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置記述処理(WRKDEVD)コマンドは、「装置記述処理」パネルを介して装置記述機能を表示および処理するために使用します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEVD	装置記述	総称名, 名前, *ALL, *ASP, *CMN, *DKT, *DSP, *LCLDSP, *RMTDSP, *VRTDSP, *LOC, *MLB, *OPTMLB, *TAPMLB, *OPT, *NWSH, *PRT, *LANPRT, *LCLPRT, *RMTPT, *VRTPRT, *CRP, *TAP, *SNPT	オプション, 位置 1
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	総称名, 名前, *NONE	オプション

[トップ](#)

装置記述 (DEVD)

装置記述の名前を指定します。

- *ALL** すべての装置記述を処理します。
- *ASP** 補助記憶域プール装置を処理します。
- *CMN** 通信装置を処理します。
- *CRP** 暗号装置を処理します。
- *DKT** ディスケット装置駆動機構を処理します。
- *DSP** すべての表示装置を処理します。
- *LCLDSP**
ローカル表示装置を処理します。
- *RMTDSP**
リモート表示装置を処理します。
- *VRTDSP**
仮想 (パススルー) 表示装置を処理します。
- *LOC** 特定のリモート・ロケーションにある装置を処理します。
- *MLB** 光ディスクとテープ媒体ライブラリー装置の両方が表示されます。

***OPTMLB**

光ディスク媒体ライブラリー装置が表示されます。

***TAPMLB**

テープ媒体ライブラリー装置が表示されます。

***OPT** 光ディスク装置が表示されます。

***NWSH**

ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター装置を処理します。

***PRT** すべての印刷装置を処理します。

***LANPRT**

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)に接続された印刷装置が表示されます。

***LCLPRT**

ローカル印刷装置を処理します。

***RMTTPRT**

リモート印刷装置を処理します。

***VRTPRT**

仮想 (パススルー) 印刷装置を処理します。

***TAP** テープ装置駆動機構を処理します。

***SNPT**

SNAパススルー装置を処理します。

総称装置記述名

総称装置記述名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前をついたすべてのオブジェクトが選択されます。

装置記述名

特定の装置記述を処理します。

トップ

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

表示したい装置記述のリモート・ロケーション名を指定します。指定されたロケーション名を持つ装置記述だけが、装置記述の処理画面にリストされます。**装置記述 (DEV D)**パラメーターに*LOCが指定されている場合には、このパラメーターは必須です。DEV Dパラメーターに*LOC以外の値が指定されている場合には、有効なパラメーターではありません。

***NONE**

*NONEを指定する場合には、*NONEのリモート・ロケーション名のすべての装置を処理することができます。

注: DEV Dパラメーターに*LOC以外の値が指定されている場合には、*NONEを指定する必要があります。

リモート・ロケーション名

処理を行ないたい装置のリモート・ロケーション名を指定します。

総称制御装置記述

総称制御装置記述を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

[トップ](#)

例

```
WRKDEV D  DEVD(*LCLPRT)
```

このコマンドは、権限のあるすべてのローカル印刷装置を示す「装置記述処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

装置テーブル処理 (WRKDEVTBL)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

装置テーブル処理(WRKDEVTBL)コマンドによって、金融機関用装置テーブルの表示と処理ができ、装置テーブルが作成されてしまうと、これらのテーブルの装置名の追加または削除ができるようになります。複数の金融機関用装置テーブルを定義することができますが、各テーブルは固有の名前をもつ必要があります。

更新済みの金融機関用装置テーブルは、変更をすべて完了した後で投入されたすべての金融機関ジョブによってアクセスすることができます。

制約事項: QFNCユーザー・プロファイルだけがこのコマンドの使用を認可されています。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEVTBL	装置テーブル	名前, *SELECT, *ALL	オプション、定位置 1
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション

トップ

装置テーブル (DEVTBL)

4704または3624装置名の入っている装置テーブルの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** 現在定義されているすべての装置テーブルを表示します。

***SELECT**

装置テーブル処理画面が表示されます。この画面で、装置テーブルを作成、変更、削除、または表示することができます。

装置テーブル名

処理したい装置テーブルの名前を指定してください。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*BLANK

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

例

例1:すべての金融機関装置テーブルの処理

```
WRKDEVTBL DEVTBL(*SELECT)
```

このコマンドにより、金融機関装置テーブルを処理できます。オプションには、新規テーブルの追加、更新用の既存するテーブルの選択、あるいはテーブルの作成、削除、または表示があります。

例2:1つの金融機関装置テーブルの処理

```
WRKDEVTBL DEVTBL(DEVTBL1)
```

このコマンドにより、装置テーブルDEVTBL1を処理できます。オプションには、新規テーブルの作成、あるいはテーブルの変更、表示、または削除があります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8379

&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF8380

&2のファイル&1のオープン中にエラー。

CPF8381

&2のファイル&1のクローズ中にエラー。

[トップ](#)

ディレクトリー項目の処理 (WRKDIRE)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリー項目処理(WRKDIRE)コマンドにより、配布ディレクトリーの項目を表示、追加、変更、および除去するために一組のパネルを処理することができます。WRKDIREコマンドが入力されると、指定されたパラメーターにより、システムはシステム配布ディレクトリー中の項目の1つまたは全部を表示します。指定されたパラメーターが複数のディレクトリー項目に適用された場合には、システムはディレクトリー項目のリストを表示します。パラメーターが特定のディレクトリー・ユーザーを識別する場合には、システムはそのユーザーに認可されている項目のリストを表示します。

制約事項: ディレクトリー中のすべての項目を更新するためには、機密保護管理者権限(*SECADM)更新が必要です。更新できるデータ項目に関する制約事項は、このコマンドが*SECADM権限なしで実行される時に適用されます。ディレクトリーを表示および印刷する一般アクセスは、DSPDIREコマンドによって提供されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USRID	ユーザー識別コード	単一値: *ALL その他の値: 要素リスト	オプション、位置 1
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
USER	ユーザー・プロファイル	名前, *CURRENT	オプション、位置 2
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL, *DEV その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

トップ

ユーザー識別コード (USRID)

要求が出されるユーザーのユーザーIDおよびアドレスを指定します。USRIDパラメーターを指定した場合には、USERパラメーターを指定することはできません。

***ALL** システム配布ディレクトリーのすべてのディレクトリー項目が表示されます。項目はユーザーIDおよびアドレスのアルファベット順に表示されます。

指定できるユーザーIDの値は次の通りです。

ユーザーID

ディレクトリー項目が表示されるユーザーのユーザーIDを指定してください。

指定できるユーザー・アドレスの値は次の通りです。

ユーザーID

ディレクトリー項目が表示されるユーザーのユーザー・アドレスを指定してください。

[トップ](#)

ユーザー・プロフィール (USER)

表示するディレクトリー項目をユーザー・プロフィール別に指定します。ユーザー・プロフィールに関連ディレクトリー項目がない場合には、エラー・メッセージが送られます。USERパラメーターを指定した場合には、USRIDパラメーターを指定することはできません。

***CURRENT**

現行ジョブを実行しているユーザー・プロフィールが使用されます。

ユーザー・プロフィール名

表示されたディレクトリー項目のユーザー・プロフィールを指定してください。これは、システムにサインオンするために使用される10桁のプロフィールです。

[トップ](#)

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

このコマンドでパラメーター値として指定されるデータの文字ID（図形文字セットおよびコード・ページ）を指定します。この文字ID (CHRID)は、コマンドの指定に使用される表示装置と関係しています。CHRID処理の詳細については、APPLICATION DISPLAY PROGRAMMING (SC41-5715)を参照してください。

***SYSVAL**

システムが、QCHRIDシステム値からのコマンド・パラメーターについて、図形文字セットおよびコード・ページの値を決定します。

***DEVDD**

システムが、コマンドが入力される表示装置記述からのコマンド・パラメーターについて、図形文字セットおよびコード・ページの値を決定します。このオプションは、対話式ジョブから指定された時にだけ有効です。この値が対話式CLプログラムまたはバッチ・ジョブで指定されると、エラー・メッセージが送られます。

指定できる文字セットの値は次の通りです。

図形文字セット

コマンド・パラメーターを作成するために使用される図形文字セットの値を指定してください。有効な値の範囲は1から9999です。

指定できるコード・ページの値は次の通りです。

コード・ページ

コード・ページを指定してください。有効な値の範囲は1から9999です。

例

例1:管理者権限でのWRKDIREの使用

```
WRKDIRE  USRID(HURST NEWYORK)
```

このコマンドを実行中のユーザーには管理者権限があるものとします。ユーザーIDおよびアドレスHURST NEWYORKがディレクトリーに存在しない場合には、HURST NEWYORKの項目のすべてがリストされている「ディレクトリー項目の処理」パネルが表示されます。

例2:機密保護管理者権限でのWRKDIREの使用

```
WRKDIRE  USER(JONES)
```

このコマンドを実行中のユーザーには機密保護管理者権限があるものとします。ユーザー・プロフィールJONESがディレクトリーに存在している場合には、「ディレクトリー項目の処理」パネルにはユーザー・プロフィール名JONESをもつ項目が表示されます。JONESには複数の記述がある場合は、複数の項目が表示されます。

例3:機密保護管理者権限でのWRKDIREの使用

```
WRKDIRE
```

このコマンドを実行中のユーザーには機密保護管理者権限があるものとします。「ディレクトリー項目の処理」パネルには、ディレクトリー内の項目のすべてのリストが表示されます。

例4:機密保護管理者権限でのWRKDIREの使用

```
WRKDIRE
```

このコマンドを実行中のユーザーには機密保護管理者権限がないものとします。このユーザーの「ディレクトリー詳細の変更」パネルが表示されます。このユーザーが許可されているのは自分のディレクトリー項目を変更することだけであることが示されているメッセージが、このパネルのメッセージ行に表示されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9006

ユーザーはシステム配布ディレクトリーに登録されていない。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9838

ユーザー・プロフィールの記憶域限界を超えた。

トップ

ディレクトリー位置の処理 (WRKDIRLOC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリー・ロケーション処理(WRKDIRLOC)コマンドは、管理者がロケーションを追加、変更、除去、表示、印刷、および結合することのできる一連の画面を表示します。WRKDIRLOCコマンドが入力されると、すべてのロケーションを定義してディレクトリーのロケーションの処理画面が表示されます。

制約事項: このコマンドのユーザーには、少なくとも機密保護管理者(*SECADM)権限が必要です。

このコマンドにはパラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

WRKDIRLOC

このコマンドは、「ディレクトリー場所の処理」パネルを表示します。このパネルには、現在定義されている場所のすべてがリストされます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

ディレクトリー・シャドー・システムの処理 (WRKDIRSHD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリー・シャドー・システム処理(WRKDIRSHD)コマンドは、管理者がシャドー・システムの項目を表示、追加、変更、および除去できる一連の画面を表示します。ユーザーは、ローカル・システムに提供し、あるいはローカル・システムから収集するシステムを処理することができます。

制約事項:このコマンドを使用するためには、機密保護管理者(*SECADM)権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	シャドー・システムのタイプ	*SUPPLIER, *COLLECTOR	オプション、位置 1

[トップ](#)

シャドー・システムのタイプ (TYPE)

ユーザーが処理する必要のあるシャドー・システムを指定します。

*SUPPLIER

ユーザーは、ローカル・システムにディレクトリー・データを提供するシステムを処理することができます。ディレクトリーのシャドー提供元の処理画面が表示されます。

*COLLECTOR

ユーザーは、ローカル・システムから収集するシステムを処理することができます。ディレクトリー・シャドー・コレクターの処理画面が表示されます。

[トップ](#)

例

WRKDIRSHD TYPE(*SUPPLIER)

このコマンドは、「ディレクトリー・シャドー提供業者の処理」パネルを表示します。「ディレクトリー・シャドー提供業者の処理」画面によって、提供業者システムを追加、変更、除去、および表示し、提供業者システムからのシャドーイングを保留し、前に保留されていた提供業者システムからのシャドーイングを再開することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF90A8

要求した操作を実行するためには*SECADM特殊権限が必要である。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

文書処理 (WRKDOC)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

THE WORK WITH DOCUMENTS (WRKDOC) COMMAND IS A REQUEST TO SHOW THE WORK WITH DOCUMENTS IN FOLDERS DISPLAY OR THE WORK WITH NON-TEXT DOCUMENT DATA DISPLAY.

FROM THE WORK WITH DOCUMENTS IN FOLDERS DISPLAY, YOU CAN SELECT OPTIONS TO CREATE, REVISE, COPY, DELETE, VIEW, PRINT, RENAME, DESCRIBE, PRINT WITH OPTIONS, SEND, CHECK SPELLING, FILE DOCUMENT REMOTELY, PAGINATE, AND WORK WITH DOCUMENT AUTHORITY.

FROM THE WORK WITH NON-TEXT DOCUMENT DATA DISPLAY, YOU CAN SELECT AN OPTION TO COPY, DELETE, AND RENAME NON-TEXT DATA, SUCH AS GRAPHS AND IMAGES.

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DOC	文書	<u>*ALL</u> , *NONTXTDTA	オプションナル, 位置 1
FLR	フォルダー	文字値, <u>*PRV</u> , *SELECT	オプションナル, 位置 2

トップ

文書 (DOC)

SPECIFIES WHICH DISPLAY TO SHOW.

*ALL THE WORK WITH DOCUMENTS IN FOLDERS DISPLAY IS SHOWN.

*NONTXTDTA

THE WORK WITH NON-TEXT DOCUMENT DATA DISPLAY IS SHOWN. ON THIS DISPLAY, YOU CAN WORK WITH NON-TEXT DATA SUCH AS GRAPHS OR IMAGES.

トップ

フォルダー (FLR)

SPECIFIES THE NAME OF THE FOLDER TO BE USED ON THE WORK WITH DOCUMENTS IN FOLDERS DISPLAY OR WORK WITH NON-TEXT DOCUMENT DATA DISPLAY.

***PRV** THE NAME OF THE FOLDER FROM YOUR LAST SESSION IS USED.

***SELECT**

A LIST OF FOLDERS IS DISPLAYED FROM WHICH YOU CAN SELECT A FOLDER.

FOLDER-NAME

SPECIFY THE NAME OF THE FOLDER YOU WANT TO WORK WITH ON THE SPECIFIED DISPLAY.

トップ

例

WRKDOC DOC(*ALL) FLR(*SELECT)

THIS COMMAND DISPLAYS THE WORK WITH DOCUMENTS PANEL, AND SHOWS A LIST OF FOLDERS FROM WHICH TO SELECT THE WORKING FOLDER.

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF90A8

要求した操作を実行するためには*SECADM特殊権限が必要である。

CPF9024

システムが操作を終了する正しいレコードを獲得することができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

トップ

文書ライブラリー処理 (WRKDOCLIB)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー処理(WRKDOCLIB)コマンドにより、ネットワーク内のリモート・システムで使用可能な文書交換アーキテクチャー(DIA)ライブラリー・サービスを管理することができます。文書ライブラリー・サービス(DLS)待ち行列タイプの各配布待ち行列ごとに、文書ライブラリー名およびサポートされるDIAのレベルを指定することができます。

このコマンドにはパラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

WRKDOCLIB

このコマンドは、「文書ライブラリーの処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF90A8

要求した操作を実行するためには*SECADM特殊権限が必要である。

CPF9024

システムが操作を終了する正しいレコードを獲得することができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

文書印刷待ち行列処理 (WRKDOCPRTQ)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

THE WORK WITH DOCUMENT PRINT QUEUE (WRKDOCPRTQ) COMMAND CALLS OFFICEVISION/400 TO SHOW THE WORK WITH DOCUMENTS TO BE PRINTED DISPLAY. FROM THIS DISPLAY, USERS CAN MANAGE THEIR PRINTED OUTPUT.

THERE ARE NO PARAMETERS FOR THIS COMMAND.

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

WRKDOCPRTQ

THIS COMMAND DISPLAYS THE WORK WITH DOCUMENTS TO BE PRINTED PANEL.

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

DSNX/PC待ち行列の処理 (WRKDPCQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DSNX/PC配布待ち行列処理(WRKDPCQ)コマンドによって、DSNX/PC待ち行列から指定のDSNX/PC待ち行列項目を表示および削除することができます。これらの待ち行列は、パーソナル・コンピューター（ローカル的にシステムに接続され、システム・ディレクトリーにDSNX-PCノードとして構成されている）に限定されている分散システム・ノード管理機能 (DSNX)配布が入っている待ち行列です。DSNX-PCを実行中のパーソナル・コンピューターは、待ち行列に入っている配布をその要求元パーソナル・コンピューターに送るDS-SEND機能を開始します。

制約事項: このコマンドを使用するためには、ユーザーはQPGMRまたはQSYSOPRとしてサインオンするか、あるいは*ALLOBJ権限を持っていなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PCNODE	配布待ち行列	文字値, <u>*ALL</u>	オプション、定位置 1
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT	オプション

[トップ](#)

配布待ち行列 (PCNODE)

待ち行列項目が表示されるPCノードの名前を指定します。

***ALL** 現在、待ち行列項目のあるすべてのPCノードが表示されます。

PCノード名

表示する項目をもっているPCノードの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスプール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

* 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスプール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

WRKDPCQ

このコマンドは、「DSNX/PC配布待ち行列の処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

ディスク状況の処理 (WRKDSKSTS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディスク状況の処理 (WRKDSKSTS)コマンドによって、システム上のディスク装置についてのパフォーマンスおよび状況情報を表示および処理することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	* <u>_,</u> *PRINT	オプション、位置 1
RESET	状況統計リセット	* <u>NO,</u> *YES	オプション

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

状況統計リセット (RESET)

ディスク統計をゼロにリセットするかどうかを指定します。

*NO ディスク統計はリセットされません。前のディスク状況処理コマンドが現行ジョブで開始された場合には、測定時間間隔が延長されます。

*YES ディスク統計はリセットされます。測定時間間隔にはゼロが使用されます。

[トップ](#)

例

WRKDSKSTS OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、システム上のディスク装置に関するパフォーマンスおよび状況情報の報告書を印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1093

ファイル装置タイプの一時的変更が正しくない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時的変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

配布リスト処理 (WRKDSTL)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布リスト処理(WRKDSTL)コマンドによって、配布リストを表示、作成、追加、除去、および削除するために使用できる一連の画面が表示されます。配布リストには、ユーザーのグループに対する配布の送信を単純化するために使用されるディレクトリー項目のリストが入っています。

制約事項: 別のユーザーの配布リストを変更、削除、または名前変更するためには、機密保護管理者(*SECADM)権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LSTID	リスト識別コード	単一値: *ALL その他の値: 要素リスト	オプション、位置 1
	要素 1: リスト識別コード	文字値	
	要素 2: リスト識別コード修飾子	文字値	
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL , *DEV その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

[トップ](#)

リスト識別コード (LSTID)

表示される配布リストを、2つの部分から成るリストIDで指定します。

***ALL** システム配布ディレクトリーの中のすべての配布リストが表示されます。項目はリストID別にアルファベット順に表示されます。

指定できるリストIDの値は次の通りです。

リストID

配布リストのリストID (ID)を指定してください。

指定できるリスト修飾子の値は次の通りです。

リストID修飾子

配布リストのリストID修飾子を指定してください。

注: 配布リストIDはIDと修飾子の2つの部分から成り、両者の間は少なくとも1つのスペースで区切られます。小文字を指定した場合には、システムが大文字に変換します。

2部分から成るリストIDの命名規則はユーザーIDおよびアドレスの規則と同じです。規則の完全な説明については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

トップ

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値として入力するデータの文字ID (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。

注:

- ユーザーIDおよびアドレス、システム名およびグループ、およびX.400 O/Rパラメーターだけが、このパラメーターで指定された図形文字セットID (GCID)に変換されます。指定したその他のパラメーター値はすべて、入力されたままの状態に記憶されます。GCIDの値はこれらと一緒に記憶されます。
- このコマンドを対話式に実行した場合には、表示装置記述から省略時のGCID値が取られます。このコマンドをバッチで実行した場合には、省略時のGCID値はQCHRID システム値から取られます。このパラメーターに特定の文字セットおよびコード・ページを指定することによって、これらの値を一時変更することができます。

単一値

***SYSVAL**

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

***DEV D**

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1から32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1から32767

使用するコード・ページを指定してください。

注:

- ユーザーIDおよびアドレス、システム名およびグループ、およびX.400 O/Rパラメーターだけが、このパラメーターで指定された図形文字セットID (GCID)に変換されます。指定したその他のパラメーター値はすべて、入力されたままの状態に記憶されます。GCIDの値はこれらと一緒に記憶されます。
- このコマンドを対話式に実行した場合には、表示装置記述から省略時のGCID値が取られます。このコマンドをバッチで実行した場合には、省略時のGCID値はQCHRID システム値から取られます。このパラメーターに特定の文字セットおよびコード・ページを指定することによって、これらの値を一時変更することができます。

例

例1:配布リストの表示

```
WRKDSTL  LSTID(WILL DISTLIST)
```

このコマンドは、1つの項目DISTLISTが含まれた「配布リストの処理」パネルを表示します。この例ではWILL DISTLISTが存在手しているものとします。

例2:配布リストのすべての表示

```
WRKDSTL
```

このコマンドは、配布ディレクトリー内の配布リストのすべてのリストが含まれた「配布リストの処理」パネルを表示します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9A83

共通ニックネーム&1が見つからない。

CPF9A85

ニックネーム&1が見つからない。

CPF9024

システムが操作を終了する正しいレコードを獲得することができない。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9052

リストID &1 &2を見つけることができない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

配布待ち行列処理 (WRKDSTQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布待ち行列処理(WRKDSTQ)コマンドは、システム・ネットワーク体系配布サービス(SNADS)の配布待ち行列上の配布要求を表示し制御します。SNADSの詳細は、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)に入っています。

配布待ち行列名は、ジョブのコード化文字セット識別コード(CCSID)を使用して、図形文字セットおよびコード・ページ930 500に変換されます。

制約事項:

- このコマンドは*EXCLUDEの共通認可とともに出荷され、QPGMRおよびQSYSOPR ユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用するための私用認可があります。
- このコマンドを初めて実行する場合には、その前に、このコマンドに使用される内部SNADSオブジェクトを作成するためのQSNADSサブシステムを事前に開始しておかなければなりません。
- 配布待ち行列についてエラーを報告するメッセージは、システムの内部変換のために、その配布待ち行列名用に入力されたものと異なる文字で表示または印刷されることがあります。同様に、(ワークステーションに使用される言語によって) 配布待ち行列名の内部値が、配布待ち行列処理(WRKDSTQ)コマンドの場合に表示される文字と異なることがあります。配布待ち行列プロンプト (DSTQパラメーター) に指定された文字ストリング値が内部配布待ち行列値の規則と一致しない場合、あるいは定義されたどの配布待ち行列の内部値とも一致しない (大/小文字の相違を無視して) 場合には、エラーが報告される場合があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
QUEUE	配布	要素リスト	オプションル、位置 1
	要素 1: 待ち行列	文字値, *ALL	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプションル

トップ

配布 (QUEUE)

表示または印刷する配布待ち行列の名前を指定します。指定する待ち行列は、前に、配布サービス構成 (CFGDSTSRV)コマンドまたは配布待ち行列追加(ADDDSTQ)コマンドを使用して構成されているものでなければなりません。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** すべてのSNADS配布待ち行列が、待ち行列名別にアルファベット順で表示または印刷されます。

配布待ち行列名

特定のSNADS配布待ち行列を指定します。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

例

例1: すべての配布待ち行列の処理

WRKDSTQ

このコマンドによって、すべての配布待ち行列の状況および内容を処理することができます。各配布待ち行列の通常および高優先順位部分が表示または印刷されます。

例2: 情報の印刷

WRKDSTQ OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、すべての配布待ち行列に関する情報を印刷します。配布待ち行列の通常および高優先順位部分の状況が印刷され、続いて各配布待ち行列の通常および高優先順位部分の配布要求のリストが印刷されます。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF8802

配布待ち行列&1が見つからなかった。

CPF8806

システム名またはシステム・グループに値&1が正しくない。

CPF8807

QSNADSジャーナルの使用中にエラーが起こった。

CPF8809

SNADS内部待ち行列でエラーが検出された。

CPF8812

配布待ち行列の処理中にエラーが起こった。

CPF8813

項目が存在していない。

CPF8819

配布待ち行列名の特殊値が許されない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

[トップ](#)

データ域の処理 (WRKDTAARA)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ域処理(WRKDTAARA)コマンドによって、1つまたは複数のライブラリーからデータ域のリストを表示することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 何らかの権限をもっているデータ域だけが、画面に表示されます。
- データ域に対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する*USE権限、およびその操作の実行対象であるデータ域に対する適切な権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DTAARA	データ域	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: データ域	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

トップ

データ域 (DTAARA)

表示するデータ域を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: データ域

***ALL** すべてのデータ域が表示されます。

総称名 表示するデータ域の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのデータ域が表示されます。

名前 表示するデータ域の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXMX
QGPL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX  QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM     QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
WRKDTAARA  DTAARA(LIB01/ABC*)
```

このコマンドによって、ライブラリーLIB01に保管されている文字'ABC'で始まっているデータ域のリストを処理することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

[トップ](#)

データ・ディクショナリー処理 (WRKDTADCT)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

データ・ディクショナリー処理(WRKDTADCT)コマンドにより、データ・ディクショナリーの内容の作成、変更、削除、または印刷を行うオプションを選択できる画面が表示されます。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

WRKDTADCT

このコマンドは、「データ・ディクショナリーの処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

データ定義の処理 (WRKDTADFN)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ定義処理(WRKDTADFN)コマンドによって、データ定義を処理することができます。データ・ディクショナリー内の定義語を作成、変更、コピー、削除、印刷、名前変更、または表示することができます。定義タイプを指定しない場合には、対話式データ定義ユーティリティー(IDDU)の定義タイプ選択画面が表示されます。処理するディクショナリーおよび定義のタイプは、この画面から選択します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DTADCT	データ・ディクショナリー	名前, <u>*PRV</u>	オプション, 位置 1
DFNTYPE	定義タイプ	<u>*ALL</u> , *FILE, *RCDFMT, *FLD	オプション

トップ

データ・ディクショナリー (DTADCT)

使用するデータ・ディクショナリーを指定します。

*PRV IDDUで最後に処理したデータ・ディクショナリーが使用されます。

データ・ディクショナリー名

使用するデータ・ディクショナリー名を指定してください。

トップ

定義タイプ (DFNTYPE)

使用するデータ定義のタイプを指定します。

*ALL すべてのデータ・ディクショナリーおよび定義タイプのリストから、定義タイプおよびデータ・ディクショナリーを選択することができます。

*FILE 指定したデータ・ディクショナリーのファイル定義を処理することができます。

*RCDFMT

指定したデータ・ディクショナリーのレコード様式定義を処理することができます。

*FLD 指定したデータ・ディクショナリーのフィールド定義を処理することができます。

トップ

例

WRKDTADFN DFNTYPE(*FILE)

このコマンドにより、最後に処理したデータ・ディクショナリーのファイル定義を処理できます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

データ待ち行列の処理 (WRKDTAQ)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ待ち行列処理(WRKDTAQ)コマンドによって、1つまたは複数のライブラリーから使用可能なデータ待ち行列のリストを表示することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 何らかの権限をもっているデータ待ち行列だけが、画面に表示されます。
- データ待ち行列に対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する*USE権限、およびその操作の実行対象であるデータ待ち行列に対する適切な権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DTAQ	データ待ち行列名	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: データ待ち行列名	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

[トップ](#)

データ待ち行列名 (DTAQ)

表示するデータ待ち行列のリストを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: データ待ち行列名

***ALL** すべてのデータ待ち行列が表示されます。

総称名 表示するデータ待ち行列の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのデータ待ち行列が表示されます。

名前 表示するデータ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXMX
QGPL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QG3PL38    QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX  QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QM3M3DATA  QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QM3M3PROC  QUSRBRM     QUSR3RDARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

例

```
WRKD3AQ  D3AQ(LIB01/ABC*)
```

このコマンドによって、ライブラリーLIB01に保管されている文字'ABC'で始まっているデータ待ち行列のリストを処理することができます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

[トップ](#)

編集記述の処理 (WRKEDTD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

編集記述処理(WRKEDTD)コマンドによって、編集記述のリストを表示することができます。

制約事項:

- 何らかの権限をもっている編集記述だけが、画面に表示されます。
- 編集記述に対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する使用(*USE)権限、およびその操作の実行対象である編集記述に対する適切な権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
EDTD	編集記述	修飾子リスト	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 編集記述	総称名, 名前, *ALL	

[トップ](#)

編集記述 (EDTD)

表示する編集記述を指定します。

***ALL** すべての編集記述が表示されます。

総称名 表示する編集記述の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべての編集記述が表示されます。

名前 表示する編集記述の名前を指定してください。

[トップ](#)

例

WRKEDTD EDTD(ABC*)

このコマンドによって、文字'ABC'で始まっている編集記述のリストを処理することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

環境変数の処理 (WRKENVVAR)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

環境変数処理(WRKENVVAR)コマンドを使用して、環境変数のリストを環境変数の処理画面に表示することができます。この画面から、環境変数を追加、変更、除去、詳細の表示、または印刷するためのオプションを選択することができます。

制約事項: このコマンドを使用してシステム・レベルの環境変数を追加、変更、または除去するには、*JOBCTL特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LEVEL	レベル	*JOB, *SYS	オプション

[トップ](#)

環境変数のレベル(LEVEL)

環境変数のレベルを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***JOB** ジョブ・レベル環境変数の処理。

***SYS** システム・レベル環境変数の処理。

[トップ](#)

例

例1:ジョブ・レベル環境変数の処理

WRKENVVAR

このコマンドによって、すべてのジョブ・レベル環境変数を表示し処理することができます。

例2:システム・レベル環境変数の処理

WRKENVVAR LEVEL(*SYS)

このコマンドによって、すべてのシステム・レベル環境変数を表示し処理することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

ファイル処理 (WRKF)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ファイル処理(WRKF)コマンドはファイルのリストを表示します。これによって、ユーザーはファイルをコピー、削除、保管、および復元し、ファイル記述を表示することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 何らかの権限をもっているファイルだけが、画面に表示されます。
- ファイルに対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する*USE権限をもち、その操作の実行対象であるファイルに対する適切な権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	
FILEATR	ファイル属性	*ALL, BSCF38, CMNF38, DDMF, DFU, DFUEXC, DFUNOTEXC, DKTF, DSPF, DSPF38, ICFF, LF, LF38, MXDF38, PF, PF38, PRTF, PRTF38, SAVF, TAPF	オプション, 定位置 2

トップ

ファイル (FILE)

「ファイルの処理」画面に表示するファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

***ALL** すべてのファイルが表示されます。

総称名 表示するファイルの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのファイルが表示されます。

名前 表示するファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

***USRLIBL**

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB
#COBLIB #RPGLIB
#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX	QRCLXXXXX	QUSRIJS	QUSRVXRXXM
QGPL	QSRVAGT	QUSRINFSKR	
QGPL38	QSYS2	QUSRNOTES	
QMGTC	QSYS2XXXXX	QUSROND	
QMGTC2	QS36F	QUSRPOSGS	
QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSSA	
QMOMDATA	QUSRADSM	QUSRPYMSVR	
QMOMPROC	QUSRBRM	QUSRDRARS	
QPFRDATA	QUSRDIRCL	QUSRSYS	
QRCL	QUSRDIRDB	QUSRVI	

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ファイル属性 (FILEATR)

属性を表示するファイルのタイプを指定します。

***ALL** すべての属性を持つファイルが表示されます。

BSCF38

システム/38の2進データ同期通信(BSC)通信ファイルのリストが表示されます。

CMNF38

論理装置(LU1)または拡張プログラム間通信機能(APPC)装置からデータを読み取ったり、これらの装置にデータを書き込んだりするために使用されるファイルで、ユーザーはこのファイルを使ってこれらの装置にあるデータの形式を定義することができます。通信(CMNF38)ファイルは、システム/38環境で作成されるか、あるいは通信装置をサポートするためにシステム/38から移行される装置ファイルです。

DDMF 分散データ管理機能(DDM)ファイルのリストが表示されます。

DFU データ・ファイル・ユーティリティ(DFU)ファイルのリストが表示されます。

DFUEXC

システム/38データ・ファイル・ユーティリティ(DFU)を使用して実行することのできるファイルのリストが表示されます。

DFUNOTEXC

システム/38データ・ファイル・ユーティリティ(DFU)を使用して実行できないシステム/38データ・ファイル・ユーティリティ・ファイルのリストが表示されます。

DKTF ディスケット・ファイルのリストが表示されます。

DSPF 表示装置ファイルのリストが表示されます。

DSPF38

システム/38の表示装置ファイルのリストが表示されます。

ICFF 対話式通信機能(ICF)ファイルのリストが表示されます。

LF 論理ファイルのリストが表示されます。

LF38 システム/38の論理ファイルのリストが表示されます。

MXDF38

システム/38の混合装置ファイルのリストが表示されます。

PF 物理ファイルのリストが表示されます。

PF38 システム/38の物理ファイルのリストが表示されます。

PRTF 印刷装置ファイルのリストが表示されます。

PRTF38

システム/38の印刷出力ファイルのリストが表示されます。

SAVF 保管ファイルのリストが表示されます。

TAPF テープ・ファイルのリストが表示されます。

トップ

例

WRKF FILE(X/PAY)

このコマンドは、ライブラリーX内にあるPAYという名前のファイルを処理できるようにします。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

[トップ](#)

機能使用法の処理 (WRKFCNUSG)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

機能使用処理(WRKFCNUSG)コマンドは、機能IDのリストを表示し、指定された機能を変更または表示することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FCNID	機能ID	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション的, 位置 1

[トップ](#)

機能ID (FCNID)

「機能使用の処理」画面にリストされている機能の機能IDを指定します。

*ALL すべての機能IDがリストされます。

総称名 リストする機能IDの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべての機能IDがリストされます。

名前 リストする機能IDの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

WRKFCNUSG FCNID(QIBM_SERVICE*)

このコマンドは、名前がQIBM_SERVICEで始まっている機能のすべてがリストされている「機能使用の処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF3CDA

登録機能リポジトリを使用することができない。

[トップ](#)

フォルダー処理 (WRKFLR)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

THE WORK WITH FOLDERS (WRKFLR) COMMAND ALLOWS YOU TO DISPLAY AND WORK WITH THE WORD PROCESSING FUNCTION OF OFFICEVISION TO SHOW THE WORK WITH FOLDERS DISPLAY. FROM THIS DISPLAY, YOU CAN OPTIONALLY CREATE, DELETE, RENAME, DESCRIBE ENTRIES; PUT SECURITY ON A FOLDER; WORK WITH DOCUMENTS; OR WORK WITH FOLDER AUTHORITY.

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FLR	フォルダー	文字値, <u>*ALL</u>	オプションル, 定位置 1

トップ

フォルダー (FLR)

SPECIFIES THE NAME OF THE FOLDER USED ON THE WORK WITH FOLDERS DISPLAY.

*ALL A LIST THAT CONSISTS OF ALL FIRST LEVEL FOLDERS IS DISPLAYED.

FOLDER-NAME

SPECIFY THE NAME OF THE FOLDER THAT CONTAINS THE FOLDERS TO DISPLAY.

トップ

例

WRKFLR FLR(*ALL)

THIS COMMAND ALLOWS YOU TO UTILIZE THE WORK WITH FOLDERS DISPLAY. A LIST OF ALL FOLDERS YOU ARE AUTHORIZED TO USE IS SHOWN.

トップ

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

フォント資源の処理 (WRKFNTRSC)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フォント資源処理(WRKFNTRSC)コマンドによって、システムまたはユーザー・ライブラリー（あるいはその両方）からのすべてのフォント資源空間オブジェクトを処理することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FNTRSC	フォント資源	修飾オブジェクト名	オプションナル, 位置 1
	修飾子 1: フォント資源	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	
OBJATR	オブジェクトの属性	<u>*ALL</u> , CDEFNT, CDEPAG, FNTCHRSET	オプションナル, 位置 2

[トップ](#)

フォント資源 (FNTRSC)

処理するフォント資源を指定します。特定のフォント資源または総称フォント資源を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: フォント資源

*ALL すべてのフォント資源が処理されます。

総称名 処理するフォント資源の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称フォント資源名と同じ接頭部をもつ名前のすべてのフォント資源が処理されます。

名前 処理するフォント資源の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

フォント資源を処理するために、ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXMX
QGPL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMQRDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMQRPROC   QUSRBRM     QUSRDRDARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 ライブラリー名を指定してください。フォント資源を処理するために、このパラメーターに指定されたライブラリーだけが検索されます。

[トップ](#)

オブジェクトの属性 (OBJATR)

表示される属性のフォント資源のタイプを指定します。

*ALL すべての属性のフォント資源が表示されます。

CDEFNT

コード化されたフォントのリストが表示されます。

CDEPAG

コード・ページのリストが表示されます。

FNTCHRSET

フォント文字セットのリストが表示されます。

[トップ](#)

例

例1:フォント資源の検索

```
WRKFNTRSC  FNTRSC(*ALL/GOTHIC*)  FNTRSCATR(*ALL)
```

このコマンドは、先頭文字が「GOTHIC」であるフォント資源のすべてのライブラリーを検索します。すべてのフォント資源タイプが表示されます。

例2:フォント資源の検索

```
WRKFNTRSC  FNTRSC(MYLIB/GOTHIC*)  FNTRSCATR(FNTCHRSET)
```

このコマンドは、文字「GOTHIC」から始まるすべてのフォント資源のライブラリーMYLIBを検索します。属性FNTCHRSETをもつフォント資源だけが表示されます。

例3:フォント資源の検索

```
WRKFNTRSC  FNTRSC(MYLIB/CODEPG3)  FNTRSCATR(CDEPAG)
```

このコマンドは、名前がCODEPG3で属性がCDEPAGのフォント資源のライブラリーMYLIBを検索します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

[トップ](#)

用紙定義の処理 (WRKFORMDF)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

書式定義処理(WRKFORMDF)コマンドによって、システムまたはユーザー・ライブラリー（あるいはその両方）からのすべての書式定義オブジェクトを処理することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FORMDF	用紙定義	修飾オブジェクト名	オプション、位置 1
	修飾子 1: 用紙定義	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

[トップ](#)

用紙定義 (FORMDF)

処理する書式定義の名前およびライブラリーを指定します。ユーザーが権限をもつ書式定義だけが表示されます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 用紙定義

***ALL** すべての書式定義を処理することを指定します。

総称名 処理する書式定義の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称書式定義名と同じ接頭部の名前をもつすべての書式定義が処理されます。

名前 処理する書式定義の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

***CURLIB**

書式定義を処理するために、ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

***USRLIBL**

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラ

リーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB    #DSULIB    #SEULIB
#COBLIB    #RPGLIB
#DFULIB    #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXXM
QGPL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMユーザー・ライブラリーのVXRXXMは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 ライブラリー名を指定してください。書式定義を処理するために、このパラメーターに指定されたライブラリーだけが検索されます。

[トップ](#)

例

```
WRKFORMDF  FORMDF(*CURLIB/FORMDF1)
```

このコマンドは、書式定義FORMDF1の現行ライブラリーを検索します。FORMDF1が存在しない場合は、WRKFORMDFパネルは指定の名前と一致するオブジェクトが見つからないことを示すメッセージを示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

[トップ](#)

フィルターの処理 (WRKFTR)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フィルターの処理(WRKFTTR)コマンドでは、ユーザーはフィルターのリストを処理および印刷し、指定したフィルターを変更および削除し、指定したフィルターに入っている選択項目および処置項目を処理して、新しいフィルターを作成することができます。

制約事項:

- *READ権限のあるライブラリーだけが検索されます。
- ユーザーに権限のあるフィルターだけが表示されます。
- フィルターに演算を実行するためには、その演算で使用されるコマンドの*USE権限と、演算が行なわれるフィルターに対する適切な権限を持っていなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILTER	フィルター	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: フィルター	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

トップ

フィルター (FILTER)

表示されるフィルターの修飾名を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ライブラリー・リストのユーザー部分にリストされたライブラリーだけ検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB    #DSULIB    #SEULIB
#COBLIB    #RPGLIB
#DFULIB    #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXXM
QGPL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMユーザー・ライブラリーのVXRXXMは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

フィルターが入っているライブラリーの名前を指定してください。

*ALL 指定したライブラリーのすべてのフィルターがリストされます。

フィルター名

表示されるフィルターの名前を指定してください。

総称*フィルター名

フィルターの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（たとえば、ABC*など）です。総称名を指定すると、名前がその総称名で始まり、ユーザーに権限のあるすべてのフィルターが表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なフィルター名と見なします。

トップ

例

```
WRKFTR  FILTER(MYLIB/MY*)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIB内の名前が'MY'で始まっているフィルターのリストを表示します。表示されたフィルターのどれかまたはすべての項目を変更、削除、または処理することができます。また、新規フィルターを作成することもできます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF812F

フィルターに損傷がある。

CPF91E8

内部処理エラーが起こった。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

フィルター処置項目の処理 (WRKFTRACNE)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フィルター処置項目の処理(WRKFTRACNE)コマンドでは、ユーザーはフィルターの処置項目を表示、追加、変更、コピー、印刷、名前変更、または除去することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILTER	フィルター	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: フィルター	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

フィルター (FILTER)

処置項目が入っているフィルターの修飾名を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

フィルターを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

フィルターが入っているライブラリーの名前を指定してください。

フィルター名

フィルターの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
WRKFTRACNE  FILTER(MYLIB/MYFILTER)
```

このコマンドによって、ライブラリーMYLIB内のフィルターMYFILTERの処置項目を処理することができます。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF812F

フィルターに損傷がある。

CPF91E8

内部処理エラーが起こった。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

フィルター選択項目の処理 (WRKFTRSLTE)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フィルター選択項目の処理(WRKFTSLTE)コマンドでは、ユーザーはフィルターの選択項目を表示、追加、変更、コピー、印刷、除去、または移動することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILTER	フィルター	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: フィルター	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

フィルター (FILTER)

選択項目が入っているフィルターの修飾名を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

フィルターを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

フィルターが入っているライブラリーの名前を指定してください。

フィルター名

フィルターの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
WRKFTRSLTE  FILTER(MYLIB/MYFILTER)
```

このコマンドによって、ライブラリーMYLIB内のフィルターMYFILTERの選択項目を処理することができます。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF812F

フィルターに損傷がある。

CPF91E8

内部処理エラーが起こった。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

図形記号セットの処理 (WRKGSS)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

グラフィックス・シンボル・セット処理(WRKGSS)コマンドによって、1つまたは複数のライブラリーから使用可能なグラフィックス・シンボル・セットのリストを表示することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 何らかの権限をもっているグラフィックス・シンボル・セットだけが、画面に表示されます。
- グラフィックス・シンボル・セットに対して操作を実行するためには、その操作で 사용되는コマンドに対する*USE権限、およびその操作の実行対象であるグラフィックス・シンボル・セットに対する適切な権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
GSS	図形記号セット	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 図形記号セット	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

トップ

図形記号セット (GSS)

表示するグラフィックス・シンボル・セットを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 図形記号セット

***ALL** すべてのグラフィックス・シンボル・セットが表示されます。

総称名 表示するグラフィックス・シンボル・セットの総称名を指定します。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのグラフィックス・シンボル・セットが表示されます。

名前 表示するグラフィックス・シンボル・セットの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

***USRLIBL**

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXXM
QGGL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QGGL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMOMDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMOMPROC   QUSRBRM     QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
WRKGSS  GSS(LIB01/ABC*)
```

このコマンドによって、ライブラリーLIB01に保管されている名前がABCで始まるグラフィックス・シンボル・セットのリストを処理することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

[トップ](#)

ハードウェア・プロダクト処理 (WRKHDWPRD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ハードウェア・プロダクト処理(WRKHDWPRD)コマンドは、構成記述ラベル位置を表示または変更することができるメニューを表示します。

このコマンドには、パラメーターはありません。

メニューには次の2つのオプションがあります。

- 記述ラベル位置の表示
- 記述ラベル位置の変更

記述ラベル位置の表示オプションを選択すれば、構成記述ラベル位置に関する情報の現行リストを表示または印刷することができます。

記述ラベル位置の変更オプションを選択すれば、構成記述ラベル位置に関する情報を変更することができます。また、このオプションを使用して、構成記述ラベル変更リスト・ワークシートを印刷することもできます。

エラー・メッセージ: WRKHDWPRD

***ESCAPE** メッセージ

SUU4074

内部オブジェクトが使用できない。

SUU4075

WRKHDWPRDコマンドに内部的な障害が起こった。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

SUU4074

内部オブジェクトが使用できない。

SUU4075

WRKHDWPRDコマンドに内部的な障害が起こった。

[トップ](#)

ハードウェア資源の処理 (WRKHDWRSC)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドによって、ユーザーはシステム上のハードウェアを管理することができます。これにより、ユーザーは次を処理することができます。

- 記憶域
- プロセッサ
- 結合アダプター資源情報
- 通信
- 暗号
- ローカル・ワークステーション
- ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)アダプター

記憶域、プロセッサ、通信、暗号、およびローカル・ワークステーションの場合、状況および関連構成記述を検討し、構成可能な資源を判別し、さらにすでに構成記述を作成済みの装置を判別することができます。

LANネットワーク・アダプター（分散データ・インターフェースおよびトークンリング）の場合には、資源項目をシステムに作成するか、あるいは情報を更新することができます。LANアダプター情報は、アダプター名、アダプター・アドレス、アダプター記述、および回線タイプから構成されます。アダプター項目の作成時にアダプター名が指定されていない場合には、システムがDNNNNNNNNNNの形式の名前を割り当てます。ここで、NNNNNNNNNNは、アダプター・アドレスの最後の9桁です。LANアダプター処理(WRKLANADPT)コマンドによって、指定された回線についてのアダプター報告のためにトークンリング・アダプター情報を更新することができます。

制約事項: TYPE(*LAN)を使用してこのコマンドを実行する前に、LANアダプター処理(WRKLANADPT)コマンドを実行しなければなりません。そうでない場合には、表示する情報はありません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	タイプ	*CMN, *CRP, *CSA, *LAN, *LWS, *PRC, *STG	必須, 定位置 1
LINETYPE	回線タイプ	*ALL, *DDI, *TRN	オプション

[トップ](#)

タイプ (TYPE)

処理したいハードウェア資源のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

- *CMN 通信資源の処理画面が表示されます。
- *CRP 暗号資源の処理画面が表示されます。
- *CSA 結合されたアダプター資源の処理画面が表示されます。
- *LAN LANアダプター情報の処理画面が表示されます。
- *LWS ローカル・ワークステーションの処理画面が表示されます。
- *STG 記憶装置資源の処理画面が表示されます。
- *PRC プロセッサ資源の処理画面が表示されます。

[トップ](#)

回線タイプ (LINETYPE)

処理するローカル・エリア・ネットワーク(LAN)の名前を指定します。

TYPE(*LAN)が指定された場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

- *ALL 分散データ・インターフェースおよびトークンリング・ネットワーク・アダプターの両方の資源情報が表示されます。
- *DDI すべての分散データ・インターフェース・アダプター資源情報が表示されます。
- *TRN すべてのトークンリング・ネットワーク・アダプター資源情報が表示されます。

[トップ](#)

例

WRKHDWRSC TYPE(*CMN)

このコマンドは、通信ハードウェア資源と関連した構成オブジェクトを、追加、変更、コピー、除去、または更新します。通信資源の処理画面には、システムに導入済みのすべての通信入出力プロセッサ(IOP),入出力アダプター(IOA),およびポートが表示されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF0B17

この時点でWRKHDWRSCコマンドを実行することはできない。

[トップ](#)

保留光ディスク・ファイル処理 (WRKHLDOPTF)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

保留光ディスク・ファイル処理(WRKHLDOPTF)コマンドは、保留されている光ディスク・ファイルのリストを表示し、保留中の光ディスク・ファイルについての使用状況情報を保管、解放、および表示するためのオプションを提供します。保留中の光ディスク・ファイルの詳細については、AS/400オプティカル・サポート(SC88-5465)を参照してください。

制約事項:

1. このコマンドを使用するためには、保留中の光ディスク・ファイルに対応するボリュームを保護するために権限リストに対する*USE権限が必要です。
2. 保留中のファイルを保管するためには、ファイルが保管されるボリュームの権限リストに対する*CHANGE権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
VOL	ボリューム識別コード	文字値, <u>*ALL</u>	オプションル, 位置 1

[トップ](#)

ボリューム識別コード (VOL)

光ディスク・ファイルが保留されていない場合にそれらが記憶されるボリュームIDを指定します。これはファイルがオープンされた時に指定されたボリュームIDです。

***ALL** すべての光ディスク・ボリュームについてシステム上のすべての保留中の光ディスク・ファイルがリストされます。

ボリュームID

ファイルがオープンされた時に指定されたボリュームのボリュームIDを指定してください。

総称*ボリュームID

リストするボリュームIDの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (たとえば, ABC*など) です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

[トップ](#)

例

WRKHLDOPTF

このコマンドは、すべての光ディスク・ボリュームのすべての保留光ディスク・ファイルのリストを表示し、保留光ディスク・ファイルに関する使用情報を保管、保留解除、および表示するオプションを提供します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

OPT1234

保留ファイルを保管できない。

OPT1239

保留光ファイルの保管時にエラー。

OPT1342

無効なボリューム識別コードが指定されました。

OPT2301

内部システム・オブジェクトが使用中である。

[トップ](#)

イメージ・カタログの処理 (WRKIMGCLG)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

イメージ・カタログ処理(WRKIMGCLG)コマンドは、システム上に存在するイメージ・カタログを処理するために使用されます。このコマンドによって、特定のカタログ名、総称名、または*ALLを指定することができます。WRKIMGCLGコマンドによって、イメージ・カタログに対し以下の機能を実行できます。

作成 このオプションによって、新規のイメージ・カタログを作成することができます。

変更 このオプションによって、イメージ・カタログの属性を変更することができます。

削除 このオプションによって、イメージ・カタログを削除することができます。また、このイメージ・カタログと関連したイメージ・ファイルもすべて削除されます。

ロード このオプションによって、イメージ・カタログを仮想装置にロードすることができます。

アンロード

このオプションによって、イメージ・カタログを仮想装置からアンロードすることができます。

検査 このオプションによって、ソフトウェア・アップグレードまたはPTFの導入のイメージ・カタログを検査することができます。

項目の処理

このオプションによって、イメージ・カタログ中のイメージ・カタログ項目を処理することができます。

制約事項:

- このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
- IMGCLGおよびTYPEのパラメーターに指定された基準と一致する各イメージ・カタログに関する情報を表示するには、次の権限が必要です。
 - ライブラリーQUSRSYSに対する実行(*EXECUTE)権限。
 - イメージ・カタログに対する*USE権限。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
IMGCLG	イメージ・カタログ	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプションル, 位置 1
TYPE	イメージ・カタログ・タイプ	<u>*ALL</u> , *OPT, *TAP	オプションル, 位置 2

トップ

イメージ・カタログ (IMGCLG)

表示するイメージ・カタログを指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** すべてのイメージ・カタログが表示されます。

総称名 表示するイメージ・カタログの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、その総称名と同じ接頭部の名前を持つすべてのイメージ・カタログが表示されます。

名前 表示するイメージ・カタログの名前を指定してください。

[トップ](#)

イメージ・カタログ・タイプ (TYPE)

処理するイメージ・カタログのタイプを指定します。

***ALL** すべてのタイプのイメージ・カタログをリストするように指定します。

***OPT** 光ディスク・タイプのイメージ・カタログだけをリストするように指定します。

***TAP** テープ・タイプのイメージ・カタログだけをリストするように指定します。

[トップ](#)

例

例1:総称名でイメージ・カタログを処理

```
WRKIMGCLG  IMGCLG(UPGRADE*)
```

このコマンドは、名前が**UPGRADE**で始まるすべてのイメージ・カタログを示す「イメージ・カタログ処理」パネルを表示します。

例2:すべてのイメージ・カタログを処理

```
WRKIMGCLG  IMGCLG(*ALL)
```

このコマンドは、存在するすべてのイメージ・カタログを示す「イメージ・カタログ処理」パネルを表示します。

例3:すべてのテープ・タイプ・イメージ・カタログを処理

```
WRKIMGCLG  IMGCLG(*ALL) TYPE(*TAP)
```

このコマンドは、存在するすべてのテープ・タイプ・イメージ・カタログを示す「イメージ・カタログ処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFBC45

イメージ・カタログ&1が見つからない。

[トップ](#)

カタログ項目の処理 (WRKIMGCLGE)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

イメージ・カタログ項目処理(WRKIMGCLGE)コマンドは、指定されたイメージ・カタログのイメージを処理するために使用します。このWRKIMGCLGEコマンドによって、イメージ・カタログのイメージで次の機能を実行することができます。

追加 このオプションによって、イメージ・カタログにイメージ・カタログ項目を追加することができます。

変更 このオプションによって、イメージ・カタログのイメージ・カタログ項目の属性を変更することができます。

除去 このオプションによって、イメージ・カタログからイメージ・カタログ項目を除去することができます。

マウント

このオプションによって、イメージ・カタログ項目を仮想装置にマウントして、それを活動化することができます。

ロード このオプションによって、イメージ・カタログ項目を仮想装置にロードすることができます。

アンロード

このオプションによって、イメージ・カタログ項目を仮想装置からアンロードすることができます。

初期化 このオプションによって、イメージ・カタログ項目と関連した仮想ボリュームを初期化することができます。

ボリュームの処理

このオプションによって、イメージ・カタログ項目と関連した仮想光ディスク・ボリュームを処理することができます。このオプションが有効となるのは、光ディスク・タイプのイメージ・カタログの場合だけです。

表示 このオプションによって、イメージ・カタログ項目と関連した仮想テープ・ボリュームを表示することができます。

複写 このオプションによって、イメージ・カタログ項目と関連した仮想テープ・ボリュームを複写することができます。

ダンプ このオプションによって、イメージ・カタログ項目と関連した仮想テープ・ボリュームの内容をダンプすることができます。

制約事項:

- このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
- 指定されたイメージ・カタログの項目を表示するには、次の権限が必要です。
 1. ライブラリーQUSRSYSに対する実行(*EXECUTE)権限。
 2. イメージ・カタログに対する*USE権限。

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
IMGCLG	イメージ・カタログ	名前	必須, 定位置 1

トップ

イメージ・カタログ (IMGCLG)

処理するイメージ・カタログを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 イメージ・カタログの名前を指定します。

トップ

例

例1: MYCLGイメージ・カタログ項目の処理

```
WRKIMGCLGE  IMGCLG(MYCLG)
```

このコマンドは、イメージ・カタログ**MYCLG**中のイメージを示す「カタログ項目処理」パネルを表示します。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPFBC45

イメージ・カタログ&1が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

トップ

IPX記述処理 (WRKIPXD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

IPX記述処理(WRKIPXD)コマンドは、IPX記述機能への対話式インターフェースを提供するIPX記述処理画面を表示します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
IPXD	IPX記述	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプションル, 位置 1

トップ

IPX記述 (IPXD)

処理したいIPX記述を指定します。

*ALL すべてのIPX記述がリストされます。

IPX記述名

処理したいIPX記述の名前を指定してください。

総称 *IPX記述名

IPX記述の総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (たとえば, ABC*など) です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

トップ

例

WRKIPXD IPXD(IPXDESC)

このコマンドは、IPX記述IPXDESCの項目がある「IPX記述処理」画面を表示します。IPXDESCが存在しない場合には、項目は何も表示されません。

トップ

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

ジョブ処理 (WRKJOB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ処理 (WRKJOB)コマンドによって、ユーザー・ジョブに関する次の情報を処理または変更することができます。

- ジョブ状況属性
- ジョブ定義属性
- ジョブ実行属性
- スプール・ファイル情報
- ジョブ・ログ情報
- 呼び出しスタック情報
- ジョブ・ロック情報
- ライブラリー・リスト情報
- オープン・ファイル情報
- ファイル一時変更情報
- コミットメント制御状況
- 通信状況
- 活動化グループ情報
- 相互除外情報
- スレッド情報
- 媒体ライブラリー属性情報

ジョブが活動状態の時だけ、次のオプションの情報を表示することができます。ジョブ実行属性、呼び出しスタック情報、ジョブ・ロック情報、ライブラリー・リスト情報、ジョブ・ログ情報、オープンされたファイルの情報、ファイル一時変更情報、コミットメント制御状況、通信状況、活動化グループ、相互除外情報、およびスレッド情報。

ユーザーのジョブがジョブ待ち行列上にあるか、出力待ち行列にあるか、あるいはシステムで活動状態であるかに関係なく、ジョブ状況属性、ジョブ定義属性、およびスプール・ファイル情報というオプションを見ることができます。しかし、ジョブは、すべての入力完全に読み込まれるまで、システムにあるとは見なされないことに注意してください。すべての入力読み込まれて、はじめて項目がジョブ待ち行列に置かれます。

制約事項:

1. コマンド発行側は、処理されるジョブのジョブ・ユーザー識別と同じユーザー・プロファイルのもとで実行しなければなりません。あるいは、コマンド発行側は、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限を持つユーザー・プロファイルのもとで実行しなければなりません。

ジョブ・ユーザー識別はユーザー・プロファイルの名前であり、これによってジョブは他のジョブに認識されます。ジョブ・ユーザー識別の詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「実行管理機能」情報にあります。

- このコマンドの実行時にジョブが保留中である場合には、ジョブに関する活動化グループ情報を表示できません。
- OPTION(*FILOVR)またはOPTION(*ALL)が指定されている場合には、このコマンドは複数のスレッドを使用できるジョブでは失敗します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプションナル, 位置 1
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプションナル, 位置 2
OPTION	オプション	*SELECT, *STSA, *DFNA, *RUNA, *SPLF, *JOBLOG, *PGMSTK, *JOBLOCK, *LIBL, *OPNF, *FILOVR, *CMTCTL, *CMNSTS, *ACTGRP, *MUTEX, *THREAD, *MLBA, *ALL	オプションナル
DUPJOB OPT	重複ジョブ・オプション	*SELECT, *MSG	オプションナル

トップ

ジョブ名 (JOB)

情報が処理されるユーザー・ジョブの名前を指定します。

単一値

* 情報が表示されるジョブは、この表示コマンドが実行されたジョブです。

修飾子1: ジョブ名

名前 表示されるジョブの名前を指定してください。ジョブ修飾子を指定しない場合には、現在システムにあるすべてのジョブから単純ジョブ名が検索されます。指定された名前と重複するものが見つかった場合には、すべての重複を示す修飾ジョブ名の入ったメッセージのリストが表示されます。

修飾子2: ユーザー

名前 ジョブの実行に使用されるユーザー・プロファイルを識別する名前を指定してください。

修飾子3: 番号

000000から999999

システムによって割り当てられたジョブ番号を指定してください。

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

* 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

オプション (OPTION)

処理される情報を指定します。

*SELECT

メニューが表示され、すべてのオプションおよび機能キーを使用することができます。

*STSA ジョブの識別特性および状況が表示されます。

*DFNA

ジョブに関連するジョブ記述中の定義属性が表示されます。

*RUNA

ジョブの実行属性が表示されます。

*SPLF ジョブによって所有されるスパール・ファイルが表示されます。このコマンドを出したスレッドのライブラリー名スペースの出力待ち行列上にあるスパール出力ファイルのみが表示されます。

*JOBLOG

ジョブによって処理されたコマンドおよびそのコマンドの実行から戻されたメッセージが表示されます。

*PGMSTK

呼び出しスタック中のすべてのプログラムのすべての情報が表示されます。

*JOBLOCK

保留ロックおよび待機中のロックを含め、ジョブによって保留されたすべての外部オブジェクト・ロックが表示されます。

*LIBL ジョブ名 (JOB)パラメーターに指定されたジョブが、コマンドの実行されたジョブである場合には、スレッドのライブラリー・リストが表示されます。その他のジョブの場合には、初期スレッドのライブラリー・リストが表示されます。

*OPNF

ジョブでオープン状態のファイル、およびシステム・ファイルとユーザー・ファイルの状況が表示されます。

*FILOVR

ジョブの活動中の呼び出しレベルにおけるファイル一時変更が表示されます。

***CMTCTL**

ジョブのコミットメント制御状況が表示されます。

***CMNSTS**

ジョブの通信状況が表示されます。

***ACTGRP**

ジョブと対応する活動化グループが表示されます。

***MUTEX**

ジョブの初期スレッドと関連した相互除外情報が表示されます。

***THREAD**

ジョブのスレッドについての情報が表示されます。

***MLBA**

ジョブの媒体ライブラリー属性に関する情報が表示されます。

***ALL** すべてのオプションが表示されます。

トップ

重複ジョブ・オプション (DUPJOB OPT)

このコマンドで重複ジョブが見つかった時に取られる処置を指定します。

***SELECT**

対話式セッション中に重複しているジョブが見つかった時には、選択画面が表示されます。そうでない場合には、メッセージが出されます。

***MSG** 重複しているジョブが見つかった時には、メッセージが出されます。

トップ

例

例1:ジョブの情報の印刷

```
WRKJOB JOB(SMITH/PAYROLL) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、SMITHという名前のユーザーによってジョブの出力スプーリング待ち行列に投入されたPAYROLLという名前のジョブに関する情報を印刷します。

例2:現行ジョブのスプール出力の処理

```
WRKJOB OPTION(*SPLF)
```

このコマンドによって、現行ジョブのスプール出力を処理することができます。

例3:すべての現行ジョブの情報の処理

```
WRKJOB OPTION(*ALL)
```

このコマンドによって、現行ジョブのすべての情報を処理することができます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF0941

ジョブ&3/&2/&1はもはやシステムにない。

CPF1069

重複名の終わり。

CPF1070

ジョブ&3/&2/&1が見つからない。

CPF1071

ジョブ&3/&2/&1に対する権限がない。

CPF2443

ジョブが終了したため、ジョブ・ログは表示またはリストされなかった。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3336

ジョブ&5/&4/&3はすでにシステムにはない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

トップ

ジョブ記述処理 (WRKJOB)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ記述の処理(WRKJOB)コマンドは、ジョブ記述のリストを表示し、これによって指定されたジョブ記述を変更、コピー、削除、および表示することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 何らかの権限をもっているジョブ記述だけが、画面に表示されます。
- ジョブ記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR)権限、およびそのジョブ記述があるライブラリーに対する*USE権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ記述	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

トップ

ジョブ記述 (JOB)

「ジョブ記述の処理」画面に表示するジョブ記述を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジョブ記述

***ALL** すべてのジョブ記述が表示されます。

総称名 表示するジョブ記述の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのジョブ記述が表示されます。

名前 表示するジョブ記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXMX
QGPL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX  QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM     QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
WRKJOBDD  JOBD(MYLIB/SPEC*)
```

このコマンドは、名前が'SPEC'で始まっていて、ライブラリーMYLIBに保管されているジョブ記述のすべてのリストを表示します。このパネルから、リストされているジョブ記述を処理するオプションを選択することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

[トップ](#)

ジョブ・ログの処理 (WRKJOBLOG)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・ログの処理 (WRKJOBLOG)コマンドは、指定の選択基準と一致するジョブ・ログのリストを表示します。

使用上の注意:

- 保留ジョブ・ログは、「ジョブ・ログの処理」パネルが表示されている間に、スプール・ジョブ・ログに変更されることがあります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOBLOGSTT	ジョブ・ログの状態	値 (最大 2 回の繰り返し): <u>*PENDING</u> , *SPOOLED	オプションル、位置 1
PERIOD	時間枠	要素リスト	オプションル
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 開始日付	日付, <u>*CURRENT</u> , *BEGIN	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 終了日付	日付, <u>*CURRENT</u> , *END	
JOB	ジョブ名	修飾ジョブ名	オプションル
	修飾子 1: ジョブ名	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	
	修飾子 2: ユーザー	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	
	修飾子 3: 番号	000000-999999, <u>*ALL</u>	

[トップ](#)

ジョブ・ログの状態 (JOBLOGSTT)

表示するジョブ・ログを選択するためにジョブ・ログの状態を指定します。最大2つの値をこのパラメーターに指定できます。

*PENDING

保留中のジョブ・ログがあり、他の選択基準と適合するすべての完了ジョブのジョブ・ログが、リストに組み込まれます。

*SPOOLED

他の選択基準と適合するジョブ・ログ・スプール・ファイルが、リストに組み込まれます。これには、ジョブから切り離されたジョブ・ログが含まれます。

時間枠 (PERIOD)

表示するジョブ・ログを選択するための期限を指定します。ジョブと関連した保留ジョブ・ログおよびスプール・ジョブ・ログの場合は、これはジョブの完了時刻です。ジョブから切り離されたスプール・ジョブ・ログの場合は、これはQPJOBLOGスプール・ジョブの作成日時です。このパラメーターには、それぞれが2つの要素を持つ2つの要素リストが含まれています。後続の要素値が指定される場合には、パラメーター値順序の中でその位置を保つために、最初の要素には値または*Nを指定する必要があります。

要素1:開始時刻および日付

要素1:開始時刻

次のいずれかを使用して、それ以降にジョブが完了したか、またはスプール・ファイルが作成された開始時刻を指定します。指定の日時より前に終了したジョブのジョブ・ログは表示されません。指定の日時より前に作成した切り離されたジョブ・ログは表示されません。

*AVAIL

指定の開始日に使用可能なジョブ・ログが表示されます。

開始時刻

指定した開始日の開始時刻を指定します。この時刻は24時間形式で指定され、時刻区切り記号付きまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4桁または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、HH =時、MM =分、SS =秒です。時、分、および秒はそれぞれ正確に2桁でなければなりません。必要な場合には、先行ゼロを使用してください。HHに有効な値の範囲は00から23です。MMおよびSSに有効な値の範囲は00から59です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ジョブに指定された時刻区切り記号を時、分、および秒の区切りに使用して、5桁か8桁または5文字か8文字のストリングを指定します。このコマンドをコマンド行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素2:開始日付

次のいずれかを使用して、それ以降にジョブが完了したか、またはスプール・ファイルが作成された開始日を指定します。指定の日時より前に終了したジョブのジョブ・ログは表示されません。指定の日時より前に作成した切り離されたジョブ・ログは表示されません。

*CURRENT

現在の日付が開始日として使用されます。

*BEGIN

他の選択基準と適合するジョブ・ログが表示されます。開始日として*BEGINを指定した場合には、*AVAIL以外の開始時刻値は無視されます。

開始日 日付区切り記号ありまたはなしで開始日を指定します。日付は、日付形式ジョブ属性に指

定されたこのジョブが使用する日付形式で入力する必要があります。日付区切り記号を使用する場合は、日付区切り記号ジョブ属性に指定されたこのジョブが使用する日付区切り記号と同じであることが必要です。このコマンドをコマンド行から入力する時に、区切り記号が入っている場合は、開始日ストリングをアポストロフィで囲む必要があります。ジョブに指定された区切り記号以外の日付区切り記号を使用すると、このコマンドは正常に実行されません。

要素2:終了時刻および日付

要素1:終了時刻

次のいずれかを使用して、それ以前にジョブが完了したか、またはスプール・ファイルが作成された終了時刻を指定します。指定の日時より後に終了したジョブのジョブ・ログは表示されません。指定の日時より後に作成した切り離されたジョブ・ログは表示されません。

***AVAIL**

指定の終了日に使用可能なジョブ・ログが表示されます。

終了時刻

指定終了日の終了時刻を指定します。時刻を入力できる形式については、**開始時刻**を参照してください。

要素2:終了日付

次のいずれかを使用して、それ以前にジョブが完了したか、またはスプール・ファイルが作成された終了日を指定します。指定の日時より後に終了したジョブのジョブ・ログは表示されません。指定の日時より後に作成した切り離されたジョブ・ログは表示されません。

***CURRENT**

現在の日付が終了日として使用されます。

END** ジョブが完了したか、またはスプール・ジョブ・ログが作成された最終日が、終了日として使用されます。END**を指定した場合には、終了時刻の***AVAIL**以外の値は無視されません。

終了日 日付区切り記号ありまたはなしで終了日を指定します。日付は、日付形式ジョブ属性に指定されたこのジョブが使用する日付形式で入力する必要があります。日付区切り記号を使用する場合は、日付区切り記号ジョブ属性に指定されたこのジョブが使用する日付区切り記号と同じであることが必要です。このコマンドをコマンド行から入力する時に、区切り記号が入っている場合は、終了日ストリングをアポストロフィで囲む必要があります。ジョブに指定された区切り記号以外の日付区切り記号を使用すると、このコマンドは正常に実行されません。

トップ

ジョブ名 (JOB)

リストに組み込まれるジョブ・ログがあるジョブの修飾ジョブ名を指定します。

修飾子1: ジョブ名

***ALL** 指定のジョブ・ユーザー名およびジョブ番号をもつすべてのジョブ名のジョブ・ログが組み込まれます。

総称名 組み込まれるジョブ・ログがあるジョブの総称名を指定します。総称名は、1つまたは複数の文字とその後続くにアスタリスク(*)からなる文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と接頭部が同じであるジョブ名をもつジョブのすべてのジョブ・ログが組み込まれます。

名前 組み込まれるジョブ・ログがあるジョブの名前を指定します。

修飾子2: ユーザー

***ALL** 指定のジョブ名とジョブ番号をもつすべてのジョブ・ユーザー名のジョブ・ログが組み込まれます。

総称名 組み込まれるジョブ・ログがあるジョブの総称ユーザー名を指定します。総称名は、1つまたは複数の文字とその後続くにアスタリスク(*)からなる文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と接頭部が同じユーザー名をもつジョブのすべてのジョブ・ログが組み込まれます。

名前 組み込まれるジョブ・ログがあるジョブのユーザー名を指定します。

修飾子3: 番号

***ALL** 指定のジョブ名とジョブ・ユーザー名をもつすべてのジョブ番号のジョブ・ログが組み込まれます。

000000から999999

組み込まれるジョブ・ログがあるジョブのジョブ番号を指定します。

[トップ](#)

例

例1: 保留中のすべてのジョブ・ログの表示

```
WRKJOBLOG
```

このコマンドは、今日の日付で終了されるジョブの保留中であるすべてのジョブ・ログのリストを示す「ジョブ・ログの処理」パネルを表示します。

例2: 汎用ジョブがあるすべてのスプール・ジョブ・ログの表示

```
WRKJOBLOG  JOBLGSTT(*SPOOLED) JOB(*ALL/*ALL/QPADEV*)
```

このコマンドは、「QPADEV」から始まる簡単なジョブ名のすべてのジョブに対して今日の日付で作成されたすべてのスプール・ジョブ・ログのリストを示す「ジョブ・ログの処理」パネルを表示します。

例3: 指定された期限のすべての保留ジョブ・ログおよびスプール・ジョブ・ログの表示

```
WRKJOBLOG  JOBLGSTT(*PENDING *SPOOLED)  
           PERIOD((*AVAIL 11212005) (*AVAIL 11252005))
```


このコマンドは、指定された5日の期間中に終了されたジョブのすべての保留中ジョブ・ログと、指定された5日の期間中に作成されたすべてのスプール・ジョブ・ログのリストを示す「ジョブ・ログの処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

ジョブ待ち行列処理 (WRKJOBQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ待ち行列処理(WRKJOBQ)コマンドは、すべてのジョブ待ち行列の全般的な状況または特定のジョブ待ち行列の詳細な状況を示します。また、このコマンドによって、指定された修飾済みの総称名と一致するすべてのジョブ待ち行列の全般的な状況进行处理することもできます。待ち行列の状況は、このコマンドの実行中に変更することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOBQ	ジョブ待ち行列	単一値: <u>*ALL</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、位置 1
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB, *ALL	
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT	オプション、位置 2

[トップ](#)

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

すべてのジョブ待ち行列が表示されることを指定するか、あるいはその状況を表示するジョブ待ち行列を指定します。

注: 総称ジョブ待ち行列名が指定されていてライブラリー名によって修飾されている場合には、総称名と一致するジョブ待ち行列が1つしかない場合であっても、総称名と一致するすべてのジョブ待ち行列の全般的な状況が表示されます。

単一値

***ALL** すべてのジョブ待ち行列の状況が、各ジョブ待ち行列についての情報と一緒に表示されます。
*ALLを指定した場合には、*ALLはシステム上のすべてのライブラリー中のすべてのジョブ待ち行列のリストを提供するので、ライブラリー名に値を指定することはできません。

修飾子1: ジョブ待ち行列

総称名 詳細な状況情報を表示するジョブ待ち行列の総称名を指定してください。そのジョブ待ち行列上のすべてのジョブのリストが、それぞれに関する情報とともに表示されます。

名前 詳細な状況情報が表示されるジョブ待ち行列の名前を指定してください。そのジョブ待ち行列上のすべてのジョブのリストが、それぞれに関する情報とともに表示されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

***ALL** QSYSを含むシステム上のすべてのライブラリーが検索されます。

注: ライブラリーに*ALLが指定されている場合には、ジョブ待ち行列が1つしか見つからない場合であっても、ジョブ待ち行列の全般的な状況が表示されます。

名前 ジョブ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

* 要求がワークステーション・ユーザーによって出された場合には、出力は表示されます。要求がバッチ・ジョブから出された場合には、出力は印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

例

例1:特定のジョブ待ち行列の状況情報の表示

```
WRKJOBQ JOBQ(QGPL/QBATC)
```

このコマンドは、QGPLライブラリー中のQBATCHという名前のジョブ待ち行列に関する詳細な状況情報を表示します。QBATCHジョブ待ち行列上の各ジョブは、ジョブ名、ユーザー名、およびジョブ番号によって識別されます。ジョブの優先順位および状況も表示されます。

例2:総称名を使用したジョブ待ち行列の検索

```
WRKJOBQ JOBQ(QGPL/QBAT*)
```

このコマンドによって、その名前が「QBAT」で始まり、QGPLライブラリー中に存在するジョブ待ち行列全体の状況情報を表示して、処理することができます。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF3302

ファイル&2への印刷ファイル&1の一時変更は正しくない。

CPF3307

ジョブ待ち行列&1が&2に見つからなかった。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF7D41

オーダー援助要求のロギング時にエラーが起こった。

CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

ジョブ・スケジュール項目処理 (WRKJOBSCDE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジュール項目処理 (WRKJOBSCDE)コマンドによって、ジョブ・スケジュール内の項目、複数の項目、または総称項目を処理することができます。各ジョブ・スケジュール項目には、バッチ・ジョブを一度、または定期的なスケジュール間隔で自動的に投入するために必要な情報が入っています。

このコマンドは、ジョブ・スケジュール項目の処理画面を表示します。この画面から、項目を追加、変更、除去、保留、または解放するためのオプションを選択することができます。項目の詳細を表示するか、あるいは項目に最後に投入されたジョブを処理することができます。また、ジョブ・スケジュール項目に入っている情報を使用して、ジョブを即時に投入するためのオプションを選択することもできます。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - ライブラリーQUSRSYS中のオブジェクトQDFTJOBSCD,タイプ*JOBSCDに対する使用(*USE)権限、およびライブラリーQUSRSYSに対する実行(*EXECUTE)権限。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプションル、定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプションル
PRTFMT	印刷形式	<u>*BASIC</u> , *FULL	オプションル
SEQ	順序	<u>*JOB</u> , *DATETIME, *JOBQ	オプションル
SCDBY	スケジュール・ユーザー	名前, <u>*ALL</u>	オプションル
SBMDATE	投入日	日付, <u>*ALL</u> , *CURRENT	オプションル
JOBQ	ジョブ待ち行列	単一値: <u>*ALL</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプションル
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

トップ

ジョブ名 (JOB)

処理したいジョブ・スケジュール項目のジョブ名を指定します。

*ALL このコマンドの他のパラメーター値と一致するすべてのジョブ・スケジュール項目が画面に表示されます。

総称名 ジョブ・スケジュール項目の総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング（たとえば、ABC*）です。総称名を指定した場合には、その総称名で始まるジョブ名のすべての項目（ユーザーに権限がある場合）が表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全なジョブ名と見なします。

名前 表示したいジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

***** 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

印刷形式 (PRTFMT)

印刷出力に使用される形式を指定します。

***BASIC**

項目は簡略リスト形式で印刷されます。

***FULL**

各項目の明細が拡張形式で印刷されます。

[トップ](#)

順序 (SEQ)

選択した項目を表示する順序を指定します。

***JOB** 項目はジョブ名によってアルファベット順に表示されます。ジョブ名の中では、項目は項目番号の低い方からの高い方の順序となります。

***DATETIME**

項目は、そのジョブの投入がスケジュールされた日付および時刻によって、早い方の項目が先に示されます。投入がスケジュールされていないジョブの項目は最後に表示されます。

***JOBQ**

項目は、そのジョブが投入されるジョブ待ち行列の名前によってグループ化されます。ジョブ待ち行列はアルファベット順に表示されます。ジョブ待ち行列内では、項目はアルファベット順に表示されます。

[トップ](#)

スケジュール・ユーザー (SCDBY)

表示された項目を追加したユーザーの名前を指定します。

***ALL** すべてのユーザーによって追加された項目が表示されます。

名前 表示された項目を追加したユーザーの名前を指定します。

[トップ](#)

投入日 (SBMDATE)

表示された項目が実行するジョブを投入する日付を指定します。

***ALL** 項目が実行するジョブを投入する日付にかかわらず、すべてのジョブ・スケジュール項目が表示されます。

***CURRENT**

現行日付でジョブの投入がスケジュールされた項目を表示します。

日付 更新された項目の投入日付を指定します。

[トップ](#)

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

ジョブを投入するジョブ待ち行列の名前を指定します。このパラメーターは、指定されたジョブ待ち行列にジョブを投入するすべての項目を表示するために使用されます。

単一値

***ALL** ジョブ待ち行列にかかわらず、すべての項目が表示されます。

修飾子1: ジョブ待ち行列

名前 ジョブ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 そのジョブ待ち行列があるライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

例

WRKJOBSCDE JOBQ(QGPL/QBATCH)

このコマンドは、ジョブをライブラリーQGPLのジョブ待ち行列QBATCHに投入するすべてのジョブ・スケジュール項目を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1628

ジョブ・スケジュール項目&3,番号&4が見つからなかった。

CPF1629

ジョブ・スケジュール&1に対して認可されていない。

CPF1630

ジョブ・スケジュール項目&3,番号&4に対して認可されていない。

CPF1632

ジョブ・スケジュール項目&3,番号&4に損傷がある。

CPF1637

ライブラリー&2のジョブ・スケジュール&1は使用中。

CPF1638

ジョブ・スケジュール項目&3番号&4は使用中。

CPF1640

ライブラリー&2のジョブ・スケジュール&1は存在していません。

CPF1641

ライブラリー&2のジョブ・スケジュール&1に損傷がある。

[トップ](#)

ジャーナル処理 (WRKJRN)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル処理(WRKJRN)コマンドは、ジャーナル操作に関するオプションを選択できるメニューを表示します。この1次メニューから、オプションを選択することができます。

- ジャーナルの状況を表示する
- 正方向またはバックアウト・オブジェクト回復を実行する
- 損傷したジャーナルおよびジャーナル・レシーバーを回復する
- ジャーナル・レシーバーをジャーナルと関連付ける

これらのオプションのすべてはローカル・ジャーナルの場合にサポートされます。リモート・ジャーナルの場合には、関連しているジャーナル・レシーバー・オプションしかサポートされません。

特定のオプションの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ジャーナル管理」情報を参照してください。

多数のオブジェクトに正方向またはバックアウト回復を実行する必要がある場合には、ジャーナル処理された変更の適用(APYJRNCHG)またはジャーナル処理された変更の除去(RMVJRNCHG)コマンドを使用することを考慮してください。これらのコマンドによって、ライブラリー内のすべてのオブジェクト、複数のライブラリー内のすべてのオブジェクト、ジャーナルにジャーナル処理されたすべてのオブジェクト、またはディレクトリー・サブツリー内のすべてのオブジェクトなどの、オブジェクトのグループを指定することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JRN	ジャーナル	単一値: <u>*PROMPT</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプションル、定位置 1
	修飾子 1: ジャーナル	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *ALL, *CURLIB, <u>*LIBL</u>	

トップ

ジャーナル (JRN)

「ジャーナルの処理」画面に表示するジャーナルを指定します。

単一値

***PROMPT**

「ジャーナルの処理」画面を表示する前に、ジャーナルの選択ができるように「ジャーナル名の指定」画面が表示されます。

修飾子1: ジャーナル

***ALL** 指定されたライブラリー内のすべてのジャーナルが表示されます。

総称名 表示するジャーナルの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前を持つすべてのジャーナルが表示されます。

名前 表示するジャーナルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリー内の、指定されたジャーナル名を持つすべてのジャーナルが表示されます。

***ALL** QSYSを含むシステム上のすべてのライブラリーおよびジョブに関連付けられた独立補助記憶域プール(ASP)のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

例

例1: ジャーナル名指定パネルの表示

WRKJRN

このコマンドは、「ジャーナル名指定」パネルを表示します。ジャーナル名およびライブラリーが指定されると、「ジャーナルの処理」パネルが表示されます。

例2: 総称名と一致するジャーナルの表示

WRKJRN JRN(*LIBL/ABC*)

このコマンドは「ジャーナルの処理」パネルを表示して、名前が'ABC'で始まる、ライブラリー・リスト内のライブラリーに見つかったすべてのジャーナルを組み込みます。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

ジャーナル属性処理 (WRKJRNA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル属性処理(WRKJRNA)コマンドは、現在ジャーナルに接続されているジャーナル・レシーバーの名前を含む、ジャーナルの作成および操作属性を表示または印刷します。基本画面から、オプションまたは機能を選択して、現在ジャーナルにジャーナル処理されているすべてのオブジェクトの名前、現在このジャーナルと関連付けられているすべてのリモート・ジャーナルの名前、およびリモート・ジャーナル、レシーバー・ディレクトリーに関する詳細な情報、またはジャーナル・レシーバーに関する詳細な情報を選択し、あるいはレシーバー・ディレクトリーからレシーバーを削除することができます。

このコマンドは、ジャーナル処理されたオブジェクトをリストする出力ファイルの生成に使用することもできます。

出力がDETAIL(*OUTPUT)を指定してジョブのプール・プリンター出力で印刷される場合には、以下を除く任意選択で表示されるすべての情報が印刷されます。

- ジャーナル・レシーバーに関する明細情報。その情報の場合には、ジャーナル・レシーバー属性表示(DSPJRNRCVA)コマンドを使用してください。
- 任意のリモート・ジャーナルと対応しているリレーショナル・データベース・ディレクトリー項目に関する明細情報。

OUTPUT(*PRINT)を選択した場合には、DETAILパラメーターを使用して印刷された情報をサブセット化することができます。*CURATR, *RCVDIR, *RMTJRN, *JRNFILE, *JRNAP, *JRNDTAQ, *JRNDTAARA, および*JRNIFSの値の1つ以上を指定することができます。

出力が出力ファイルに送られると、ジャーナル処理されたオブジェクトの情報だけが出力ファイルに書き込まれます。OUTPUT(*OUTFILE)を選択した場合には、DETAILパラメーターを使用して出力ファイルに送られた情報をサブセット化することができます。*JRNFILE, *JRNAP, *JRNDTAQ, *JRNDTAARA, *JRNIFS, および*IMPLICITの値の1つ以上を指定することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JRN	ジャーナル	単一値: *INTSYSJRN その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション, 定位置 2

キーワード	記述	選択項目	注
DETAIL	詳細	単一値: <u>*OUTPUT</u> その他の値 (最大 8 回の繰り返し): *CURATR, *RCVDIR, *RMTJRN, *JRNFILE, *JRNAP, *JRNDTAARA, *JRNDTAQ, *JRNIFS, *IMPLICIT	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<u>*REPLACE</u> , *ADD	
JRNID	ジャーナル識別番号	文字値	オプション

トップ

ジャーナル (JRN)

属性が表示されるジャーナル名およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

単一値

*INTSYSJRN

JRNIDパラメーターで指定したジャーナルに関連したシステムの内部ジャーナルが使用されます。システムの内部ジャーナルはライブラリーには保管されません。

注: JRN(*INTSYSJRN)を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

注: *INTSYSJRN値を指定した場合には、OUTPUT(*OUTFILE)を指定することはできず、DETAIL(*OUTPUT)を指定する必要があります。

注: *INTSYSJRN値を指定した場合には、OUTFILEおよびDETAILパラメーターを指定することはできません。

修飾子1: ジャーナル

名前 ジャーナルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力がどこに送られるかを指定します。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブで要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブで要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: ファイルQPDPJNAが印刷出力に使用されます。ファイルQAWRKJRNAはモデル出力ファイルです。形式名はQJOWRKJRNAです。

詳細 (DETAIL)

プリンター・ファイルまたは出力ファイルに送られる情報のタイプを指定します。

単一値

*OUTPUT

プリンター・ファイルまたは出力ファイルに送られる情報は、OUTPUTパラメーターで指定された値によって異なります。*OUTPUTを選択すると、DETAILパラメーターは他の値をとることができません。

OUTPUT(*PRINT)が選択された場合には、DETAIL(*OUTPUT)は、DETAILに*CURATR、*RCVDIR、*RMTJRN、*JRNFILE、*JRNAP、*JRNDAQ、*JRNDAARA,および*JRNIFSのすべてのパラメーター値が選択された場合と同じ意味になります。

OUTPUT(*OUTFILE)が選択された場合には、DETAIL(*OUTPUT)はDETAILに*JRNFILE、*JRNAP、*JRNDAQ、*JRNDAARA,および*JRNIFSのすべてのパラメーター値が選択された場合と同じ意味になります。

その他の値（最大8個指定可能）

*CURATR

プリンター・ファイルに、ジャーナルの作成および操作属性が含まれます。この値はOUTPUT(*OUTFILE)の場合には無効です。

*RCVDIR

プリンター・ファイルに、現在ジャーナルと関連付けられているジャーナル・レシーバーの名前が含まれます。この項目には、ジャーナル・レシーバーについての一部の属性情報も含まれます。この値はOUTPUT(*OUTFILE)の場合には無効です。

*RMTJRN

プリンター・ファイルに、このジャーナルの現行のリモート・ジャーナル関連属性と、現在このジャーナルと関連付けられているリモート・ジャーナルについての情報が含まれます。この値はOUTPUT(*OUTFILE)の場合には無効です。

*JRNFIL

プリンター・ファイルまたは出力ファイルに、ジャーナル処理されるすべてのファイルに対する物理ファイル名およびそれらのファイルのライブラリー名のリストが含まれます。さらにプリンター・ファイルには、このジャーナルにジャーナル処理されたファイルのカウンとメンバーのカウンとが入ります。

*JRNAP

プリンター・ファイルまたは出力ファイルに、ジャーナル処理されるすべてのアクセス・パスに対するファイル名およびそれらのファイルのライブラリー名のリストが含まれます。さらにプリンター・ファイルには、このジャーナルにジャーナル処理されたファイルのカウンととアクセス・パスのカウンとが入ります。

*JRNDTAARA

プリンター・ファイルまたは出力ファイルに、ジャーナル処理されるすべてのデータ域に対するデータ域名およびそれらのデータ域のライブラリー名のリストが含まれます。さらにプリンター・ファイルには、このジャーナルにジャーナル処理されたデータ域のカウンとが入ります。

*JRNDTAQ

プリンター・ファイルまたは出力ファイルに、ジャーナル処理されるすべてのデータ待ち行列に対するデータ待ち行列名およびそれらのデータ待ち行列のライブラリー名のリストが含まれます。さらにプリンター・ファイルには、このジャーナルにジャーナル処理されたデータ待ち行列のカウンとが入ります。

*JRNIFS

プリンター・ファイルまたは出力ファイルに、ジャーナル処理されるすべての統合ファイル・システム・オブジェクトに対する統合ファイル・システム・オブジェクトのリストが含まれます。さらにプリンター・ファイルには、このジャーナルにジャーナル処理された統合ファイル・システム・オブジェクトのカウンとが入ります。

*IMPLICIT

出力ファイルに、ジャーナルに暗黙にジャーナル処理されたすべてのオブジェクトのリストが含まれます。これには、ジャーナル・レシーバー、コミット定義、およびシステム回復目的に必要なオブジェクトなどの、オブジェクトが入ります。この値はOUTPUT(*PRINT)の場合には無効です。

注: この情報を取得するには、DETAILパラメーターでこの値を指定する必要があります。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: 新規ファイルが作成される場合には、システムはモデルとしてQSYS内のQAWRKJRNAを形式名QJOWRKJRNAで使用します。

[トップ](#)

出力を受け取るメンバー (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

*FIRST

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。そのメンバーがすでに存在している場合には、既存のメンバーの終わりに新しいレコードを追加するか、あるいはそのメンバーを消去して新しいメンバーを追加するオプションがあります。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

*REPLACE

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

[トップ](#)

ジャーナル識別番号 (JRNID)

表示される内部システム・ジャーナル(*INTSYSJRN)の5桁のジャーナルID (ID)を指定します。ジャーナルIDはシステムによって割り当てられます。最初の2桁はジャーナルのタイプを表し、最後の3桁は補助記憶域プール(ASP) IDです。

注: JRNIDパラメーターを指定できるのは、JRN(*INTSYSJRN)を指定した場合だけです。

以下はジャーナル・タイプのリストです。

ジャーナル・タイプ

- 10 システム管理のアクセス・パス保護(SMAPP)
- 20 ディレクトリー
- 30 スプール

トップ

例

例1:簡単なコマンドの例

```
WRKJRNA JRN(MYLIB/JRNLA)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBのJRNLAの現行ジャーナル属性を処理できるようにします。

例2: *PRINTのより複雑なコマンド

```
WRKJRNA JRN(YOURLIB2/JRNLB) OUTPUT(*PRINT)
        DETAIL(*OUTPUT)
WRKJRNA JRN(YOURLIB2/JRNLB) OUTPUT(*PRINT)
        DETAIL(*CURATR *RCVDIR *JRNFIL *JRNAP
              *JRNDTAQ *JRNDTAARA *JRNIFS *RMTJRN)
```

これらの2つのコマンドは、ライブラリーYOURLIB2のジャーナルJRNLBに関連した情報を印刷します。具体的には、これらはジャーナル属性情報、ジャーナルに関連付けられたレシーバーに関する情報、リモート・ジャーナルの情報、ジャーナル処理されるファイルのリスト、ジャーナル処理されるアクセス・パスのリスト、ジャーナル処理されるデータ待ち行列のリスト、ジャーナル処理されるデータ域のリスト、およびジャーナル処理される統合ファイル・システム・オブジェクトのリストを印刷します。

例3: *OUTFILEのより複雑なコマンド

```
WRKJRNA JRN(YOURLIB3/JRNLC) OUTPUT(*OUTFILE)
        OUTFILE(YOURLIB3/MYOUTFILE)
        DETAIL(*OUTPUT)
WRKJRNA JRN(YOURLIB3/JRNLC) OUTPUT(*OUTFILE)
        OUTFILE(YOURLIB3/MYOUTFILE)
        DETAIL(*JRNFIL *JRNAP *JRNDTAQ
              *JRNDTAARA *JRNIFS)
```

これらの2つのコマンドは、ライブラリーYOURLIB3に、ライブラリーYOURLIB3のジャーナルJRNLCに関連した情報が入っているMYOUTFILEという名前の出力ファイルを作成します。特に、この出力ファイルに書き込まれる情報には、ジャーナル処理されるファイルのリスト、ジャーナル処理されるアクセス・パスのリスト、ジャーナル処理されるデータ待ち行列のリスト、ジャーナル処理されるデータ域のリスト、およびジャーナル処理される統合ファイル・システム・オブジェクトのリストが含まれます。

例4: 印刷する特定の情報の選択

```
WRKJRNA JRN(YOURLIB4/JRNLD) OUTPUT(*PRINT)
        DETAIL(*CURATR *JRNFIL)
```

このコマンドは、ライブラリーYOURLIB4のジャーナルJRNLDに関連した情報を印刷します。この情報は、ジャーナルに関する情報のサブセットになります。具体的には、この情報はジャーナル属性およびジャーナル処理されるファイルのリストになります。

例5: ファイルに出力する特定の情報の選択

```
WRKJRNA  JRN(YOURLIB5/JRNLE) OUTPUT(*OUTFILE)
          OUTFILE(YOURLIB5/MYOUTFILE)
          DETAIL(*JRNFILE *JRNDTAARA *IMPLICIT)
```

このコマンドは、ライブラリーYOURLIB5に、ライブラリーYOURLIB5のジャーナルJRNLEに関連した情報が入っているMYOUTFILEという名前の出力ファイルを作成します。この情報は、ジャーナルに関する情報のサブセットになります。具体的には、ジャーナル処理されたファイル、ジャーナル処理されたデータ域およびこのジャーナルに暗黙にジャーナル処理されるオブジェクトに関する情報です。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF69A7

指定されたDETAIL値はOUTPUT値と一緒に使用できません。

CPF69A9

内部エラーが検出されました。エラー・コードは&2です。

CPF70FF

内部システム・ジャーナル機能が正常に実行されなかった。

CPF701B

中断された操作のジャーナルの回復が行われなかった。

CPF702C

接続されたレシーバーが前に壊されている。

CPF706B

JRN(*INTSYSJRN)の指定は認可されていない。

CPF706C

JRNIDパラメーターの値&1が正しくない。

CPF708D

ジャーナル・レシーバーが論理的に損傷していることが判明した。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

CPF9875

ASP &1で資源を超えています。

[トップ](#)

ジャーナル・レシーバーの処理 (WRKJRNRCV)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル・レシーバー処理(WRKJRNRCV)コマンドによって、1つまたは複数のライブラリーからジャーナル・レシーバーのリストを表示することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 何らかの権限をもっているジャーナル・レシーバーだけが、画面に表示されます。
- ジャーナル・レシーバーに対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する *USE権限、およびその操作の実行対象であるジャーナル・レシーバーに対する適切な権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JRNRCV	ジャーナル・レシーバー	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジャーナル・レシーバー	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

トップ

ジャーナル・レシーバー (JRNRCV)

表示するジャーナル・レシーバーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジャーナル・レシーバー

***ALL** すべてのジャーナル・レシーバーが表示されます。

総称名 表示するジャーナル・レシーバーの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのジャーナル・レシーバーが表示されます。

名前 表示するジャーナル・レシーバーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

***USRLIBL**

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB
#COBLIB #RPGLIB
#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX	QRCLXXXXX	QUSRIJS	QUSRVXRXXM
QGPL	QSRVAGT	QUSRINFSKR	
QGPL38	QSYS2	QUSRNOTES	
QMGTC	QSYS2XXXXX	QUSROND	
QMGTC2	QS36F	QUSRPOSGS	
QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSSA	
QMOMDATA	QUSRADSM	QUSRPYMSVR	
QMOMPROC	QUSRBRM	QUSRDRARS	
QPFRDATA	QUSRDIRCL	QUSRSYS	
QRCL	QUSRDIRDB	QUSRVI	

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

例

WRKJRNRCV JRNRCV(LIB01/ABC*)

このコマンドによって、名前が文字'ABC'で始まっていて、ライブラリーLIB01に保管されているジャーナル・レシーバーのリストを処理することができます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

[トップ](#)

LANアダプターの処理 (WRKLANADPT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ローカル・エリア・ネットワーク・アダプター処理(WRKLANADPT)コマンドは、活動状態にあるローカル・エリア・ネットワーク(LAN)アダプターのリストを表示します。

注:

1. ネットワーク・アダプターが活動状態にあるか非活動状態にあるかを調べるために、LAN管理機能はネットワーク・アダプター・ファイルに登録されているすべてのアダプターについて照会します。照会に応答したアダプターはネットワーク上で活動状態にあると識別され、応答しなかったものはネットワーク上で非活動状態にあると識別されます。
2. ネットワーク・アダプター・ファイルに現在登録されていないアダプターは自動的に追加され、省略時のアダプター名が割り当てられます。省略時のアダプター名は、文字Dと、その後続くアダプター・アドレスの最後の9桁とから構成されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LINE	回線記述	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT -,	オプション

[トップ](#)

回線記述 (LINE)

表示するアダプターに接続されている回線の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

例

WRKLANADPT LINE(DETBRANCH)

このコマンドは、DETBRANCH回線に接続されているアダプターのリストを表示します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8B68

回線記述&23が見つからない。

CPF8B69

要求した処置には回線記述&23は正しくない。

CPF8B72

変更が正常に実行されなかった。ネットワーク・アダプター・ファイルにアダプター&29が見つかりません。

CPF8B74

活動アダプターの表示要求が正常に実行されなかった。

CPF8B75

ネットワーク・アダプター・ファイルにアダプター項目がない。

CPF8B76

アダプターの機能アドレスがない。

トップ

ライブラリー処理 (WRKLIB)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライブラリーの処理(WRKLIB)コマンドは、ライブラリーのリストを表示し、これによって指定されたライブラリーをコピー、削除、表示、印刷、保管、復元、変更、および消去することができます。

制約事項:

- 何らかの権限をもっているライブラリーだけが、画面に表示されます。
- ライブラリーに対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する使用(*USE)権限、およびその操作の実行対象であるライブラリーに対する適切な権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	修飾子リスト	オプション、位置 1
	修飾子 1: ライブラリー	総称名, 名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	
ASP	ASP番号	1-32, *ALL	オプション
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプション

トップ

ライブラリー (LIB)

「ライブラリーの処理」画面に表示されるライブラリーの名前を指定します。

***LIBL** スレッドのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが表示されます。

注: ライブラリーがライブラリー・リストのシステム部分またはユーザー部分に入っていて、スレッドの製品ライブラリー・リストまたは現行ライブラリーの1つにも入っている場合は、そのライブラリーは「ライブラリーの処理」画面に表示されたライブラリーのリスト中に複数回現れる可能性があります。

*USRLIBL

現行ライブラリーが現行スレッドのライブラリー・リスト中に存在している場合は、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分のライブラリーが表示されます。現行ライブラリー項目がない場合は、ライブラリー・リストのユーザー部分のライブラリーだけが表示されます。

注: ライブラリーがライブラリー・リストのユーザー部分に入っていて、スレッドの現行ライブラリーでもある場合は、そのライブラリーは「ライブラリーの処理」画面に表示されたライブラリーのリスト中に複数回現れる可能性があります。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが表示されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが表示されます。

***ALL ASP番号 (ASP)**パラメーターまたは**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターで指定された補助記憶域プール(ASP)内のすべてのライブラリーが表示されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次の場合を除いて、英字Qで始まっていない名前をもつすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、これらには一般的によく変更されるユーザー・データが収められます。したがって、これらのライブラリーはユーザー・ライブラリーとみなされて、表示もされます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS    QUSRVXRXMX
QGPL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQRDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQRPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。
QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

総称名 表示するライブラリーの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのライブラリーが表示されます。

名前 表示するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ASP番号 (ASP)

「ライブラリーの処理」画面に表示されるライブラリーの補助記憶域プール(ASP)を指定します。このパラメーターは、ライブラリー・パラメーターで値*LIBL、*CURLIB、または*USRLIBLが入力されると無視されます。数値をこのパラメーターに指定する場合は、**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーター値は*でなければなりません。

***ALL ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターに対する値によって定義されたすべてのASPが検索されます。

1から32

検索するシステムASPまたは基本ユーザーASPの番号を指定してください。ASP 1は、常時構成されているシステムASPです。基本ユーザーASPは2から32であり、システムで構成されているASPを指定しなければなりません。ASPの構成については、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)を参照してください。

ASP装置 (ASPDEV)

表示しようとしているライブラリーの記憶域が割り振られている補助記憶域プール(ASP)装置名を指定します。このライブラリーがスレッドのライブラリー名スペースの一部でないASPにある場合には、必ず正しいライブラリーが表示されるようにするために、このパラメーターを指定しなければなりません。数値を**ASP番号 (ASP)**パラメーターに指定する場合は、ASPDEVパラメーターは*でなければなりません。

* 現在、スレッドのライブラリー名スペースの一部であるASPが、ライブラリーを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP 1),すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が含まれ、スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループの中の1次および2次ASPが含まれます。

*SYSBAS

システムASP (ASP 1)とすべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が、ライブラリーを見つけるために検索されます。スレッドにASPグループがあっても、1次または2次ASPは検索されません。

*CURASGRP

スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループ中の1次および2次ASPがライブラリーを見つけるために検索されます。システムASP (ASP 1)および定義済みの基本ユーザーASP (ASP 2から32)は検索されません。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

名前 検索する1次ASPまたは2次ASPの装置名を指定してください。この1次または2次ASPは活動化されていて(ASP装置をオンに変更することによって)、「使用可能」の状況になっていなければなりません。システムASP (ASP 1)および構成済みの基本ユーザーASP (ASP 2から32)は検索されません。

例

```
WRKLIB LIB(QJ*) ASP(2)
```

このコマンドによって、文字'QJ'で始まっている補助補助記憶域プール(ASP) 2内のライブラリーのリストを処理することができます。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF218C

&1は1次または2次ASPではない。

CPF2302

装置&1がASPグループ&2に見つからない。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

CPF8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

[トップ](#)

ライセンス情報の処理 (WRKLICINF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライセンス情報処理(WRKLICINF)コマンドによって、ライセンス情報が入っているシステム上にある指定したプロダクトまたは機能を表示または印刷することができます。パラメーターが指定されていない場合には、ライセンス情報をもっているすべてのプロダクトのリストが表示されます。このリストによって、ユーザーはライセンス情報を変更、表示、または印刷するか、ピーク時使用情報をリセットするか、あるいはプロダクトまたは機能のライセンス・ユーザーを処理することができます。

制約事項: このコマンドは、共通*EXCLUDE認可で出荷されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PRDID	プロダクト識別コード	文字値, <u>*ALL</u>	オプション、位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション、位置 2

トップ

プロダクト識別コード (PRDID)

そのライセンス情報が表示されるプロダクトのID (ID)を指定します。

***ALL** ライセンス情報が入っているシステムにあるすべてのプロダクトが表示されます。

プロダクトID

そのライセンス情報が表示されるプロダクトの7桁のIDを指定してください。

総称プロダクトID*

表示するプロダクトの総称IDを指定してください。総称プロダクトIDは、総称名と同じように指定されます。

総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (たとえば、ABC*など) です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

* 要求された出力は表示装置に表示されます。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

例1:プロダクトのライセンス情報の表示

```
WRKLICINF PRDID(1MYPROD)
```

このコマンドは、プロダクトID 1MYPRODのプロダクトのプロダクト・ライセンス情報を表示装置に表示します。

例2:すべてのライセンス情報の印刷

```
WRKLICINF OUTPUT(*PRINT) PRDID(*ALL)
```

このコマンドは、システム上でライセンス情報があるすべてのプロダクトのリストをジョブのスパール出力で印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9E11

ライセンス情報が検索されなかった。

CPF9E12

ライセンス情報が使用できない。

CPF9E24

ライセンス・ユーザー&4は解放されなかった。

CPF9E26

&4ライセンス・ユーザーが解放されなかった。

[トップ](#)

回線記述の処理 (WRKLIND)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

回線記述の処理(WRKLIND)コマンドにより、回線記述処理画面を通じて、回線記述機能への対話式インターフェイスが提供されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIND	回線記述	総称名, 名前, *ALL, *ASYNC, *BSC, *DDI, *ELAN, *FAX, *FR, *IDLC, *NET, *PPP, *SDLC, *TDLC, *TRLAN, *WLS, *X25	オプション的, 位置 1

トップ

回線記述 (LIND)

処理する回線記述を指定します。

***ALL** すべての回線記述を処理します。

***ASYNC**

非同期通信用に構成されたすべての回線を処理することができます。

***BSC** 2進データ同期通信用に構成されたすべての回線を処理することができます。

***DDI** ユーザーは分散データ・インターフェース用に構成されたすべての回線を処理することができます。

***ELAN**

ETHERNETローカル・エリア・ネットワーク用に構成されたすべての回線を処理することができます。

***FAX** ユーザーは、ファクシミリ通信用に構成されたすべての回線を処理することができます。

***FR** ユーザーはフレーム・リレー直接通信用に構成されたすべての回線を処理することができます。

***IDLC** すべてのISDNデータ・リンク制御(IDLC)回線を処理することができます。

***NET** ユーザーは、ネットワーク通信用に構成されたすべての回線を処理することができます。

***PPP** ユーザーはPOINT-TO-POINTプロトコル(PPP)通信用に構成されたすべての回線を処理することができます。

***SDLC**

同期データ・リンク制御通信用に構成されたすべての回線を処理することができます。

***TDLC**

平衡型データ・リンク通信用に構成されたすべての回線を処理することができます。

***TRLAN**

トークンリング・ローカル・エリア・ネットワーク用に構成されたすべての回線を処理することができます。

***WLS** ユーザーは無線ローカル・エリア・ネットワークに構成されたすべての回線を処理することができます。

***X25** すべてのX.25回線を処理することができます。

総称名 総称回線記述名を指定します。

名前 回線記述の名前を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

トップ

例

```
WRKLIND LIND(LINE01)
```

このコマンドは、回線LINE01の項目を示す「回線記述処理」パネルを表示します。LINE01が存在しない場合には、項目は何も表示されません。

トップ

エラー・メッセージ

なし

トップ

オブジェクト・リンクの処理 (WRKLNK)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト・リンクの処理 (WRKLNK)コマンドは、ディレクトリー内の指定されたオブジェクトの名前およびオブジェクトを処理するオプションのリストを表示します。

制約事項:

1. オブジェクトに操作を実行するには、その操作で使用するコマンドの使用(*USE)権限と、操作が実行されるオブジェクトに対する適切な権限が必要です。

注: このコマンドの権限要件は、ファイル・システム、オブジェクト・タイプ、要求される操作などを考えると複雑です。したがって、このコマンドに要求される権限については、ISERIES機密保護解説書 (SD88-5027)を参照してください。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	パス名, _	オプション, 位置 1
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	<u>*ALL</u> , *ALLDIR, *ALRTBL, *AUTL, *BLKSF, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CHRSF, *CLD, *CLS, *CMD, *CNL, *COSD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DDIR, *DEVD, *DIR, *DOC, *DSTMF, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FIFO, *FILE, *FLR, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *IPXD, *JOBQ, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *MBR, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODD, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *M36, *M36CFG, *NODGRP, *NODL, *NTBD, *NWID, *NWS, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDLOD, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQR, *QRYDFN, *RCT, *SBSD, *SCHIDX, *SOCKET, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *STMF, *SVRSTG, *SYMLNK, *S36, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	オプション
DETAIL	詳細	<u>*PRV</u> , *NAME, *BASIC, *EXTENDED	オプション
DSPOPT	表示オプション	<u>*PRV</u> , *USER, *ALL	オプション

オブジェクト (OBJ)

表示するオブジェクトを指定します。

* 現行ディレクトリーのすべてのオブジェクトが表示されます。

オブジェクト・パス名

オブジェクトの名前または表示するオブジェクトの名前を突き合わせるパターンを指定してください。オブジェクト・パス名は、単純名、またはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

表示するオブジェクトのタイプを指定します。

***ALL** 名前が**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されているパターンと一致するすべてのオブジェクトが表示されます。

*ALLDIR

すべてのディレクトリー・タイプ(DIR, LIB, FLR, データベースFILE)が表示されます。

オブジェクト・タイプ

名前のパターンと一致した場合に表示されるオブジェクトのタイプを指定してください。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4 (プロンプト)を押します。オブジェクト・タイプの記述については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

トップ

詳細 (DETAIL)

オブジェクト・リンクの処理 (WRKLNK)リストにどれだけの情報を表示するかを指定します。

***PRV** 前にこのコマンドを実行したときに表示されたのと同じ情報が表示されます。このコマンドまたはオブジェクト・リンクの表示 (DSPLNK)コマンドを使用していない場合には、値*BASICが使用されます。

***NAME**

名前だけが表示されます。

***BASIC**

名前と一緒にタイプ、タイプの属性、およびテキストが表示されます。

***EXTENDED**

上記の基本情報に加えて、タイプ・フィールドが拡張され、シンボリック・リンクおよびハードまたはシンボリック・リンクを表示するために使用可能な追加オプションに関する情報の続きが表示されます。

トップ

表示オプション (DSPOPT)

PCシステムおよび隠しオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

PRV** このパラメーターには、前にこのコマンドを実行したときと同じ値が使用されます。このコマンドが前に使用されていない場合には、USER**が使用されます。

***USER**

PCシステムおよび隠しオブジェクトは表示されません。指定されたパターンがピリオド(.)で始まっていない限り、ピリオド(.)で始まるオブジェクトは表示されません。

***ALL** PCシステムおよび隠しオブジェクトを含めて、すべてのオブジェクトが表示されます。ピリオド(.)で始まるオブジェクトが表示されます (パターンにはアスタリスク(*)を指定)。これにはディレクトリー(.)および親ディレクトリー(..)の項目が含まれます。

トップ

例

例1: オブジェクト・リンクの処理

```
WRKLNK OBJ('X/PAY')
```

このコマンドは、「オブジェクト・リンクの処理」パネルを表示します。このパネルには、ディレクトリー内のオブジェクトの名前のリストが表示され、それらのオブジェクトに操作を実行するためのオプションが提供されます。この例では、オブジェクトの名前はPAYで、現行ディレクトリー内のディレクトリーXに入っています。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

[トップ](#)

MLB資源待ち行列の処理 (WRKMLBRSCQ)

実行可能場所:

- 対話式ジョブ (*INTERACT)
- 対話式プログラム (*IPGM)
- 対話式 ILE CL モジュール (*IMOD)
- 対話式 REXX プロシージャ (*IREXX)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

MLB資源待ち行列の処理(WRKMLBRSCQ)コマンドによって、指定された媒体ライブラリー装置の資源割り振り要求を処理することができます。

制約事項:

- 変更されているジョブがコマンドを出したユーザーと同じユーザー・プロファイルを使用しているか、あるいは投入者がジョブ制御特殊権限(*JOBCTL)を持っていないければなりません。
- 資源割り振り優先順位を変更することができるのは、ジョブ制御特殊権限(*JOBCTL) があるユーザーだけです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MLB	ライブラリー装置	名前	必須, 定位置 1

トップ

ライブラリー装置 (MLB)

処理する媒体ライブラリー装置を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

トップ

例

WRKMLBRSCQ MLB(TAPMLB01)

このコマンドは、テープ媒体ライブラリーTAPMLB01の資源を使用する要求のリストを表示します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF6708

エラーのためにコマンドが終了した。

CPF6745

装置&1は媒体ライブラリー装置でない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

[トップ](#)

媒体ライブラリー処理状況 (WRKMLBSTS)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

媒体ライブラリー状況の処理(WRKMLBSTS)コマンドは、媒体ライブラリー状況機能を表示および処理するために使用します。このコマンドを実行すると、媒体ライブラリー状況処理画面が表示されます。この画面には、ライブラリー構成記述の状況情報が表示されます。選択したそれぞれのライブラリー装置記述に対して関連付けられたすべてのドライブ資源が表示されます。

媒体ライブラリーの状況処理画面で使用できるオプションは、状況を変更し装置記述を処理するためのものです。テープ媒体ライブラリー装置の場合には、オプションは装置内のドライブ資源の割り振りおよびリセットにも使用することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MLB	ライブラリー装置	総称名, 名前, *ALL, *OPTMLB, *TAPMLB, *RSRCNAME	オプションル, 位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *NONE	オプションル, 位置 2

[トップ](#)

ライブラリー (MLB)

媒体ライブラリーの状況処理画面に表示される記述を指定します。

***ALL** すべての媒体ライブラリー記述が表示されます。

***OPTMLB**

すべての光ディスク媒体ライブラリー記述が表示されます。

***TAPMLB**

すべてのテープ媒体ライブラリー記述が表示されます。

***RSRCNAME**

資源名(RSRCNAME)が指定されているすべての媒体ライブラリー記述が表示されます。

総称*記述名

記述の総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (たとえば, ABC*など) です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

記述名 表示する媒体ライブラリー装置記述を指定してください。

[トップ](#)

資源名 (RSRCNAME)

記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。

*NONE

この時点では資源名は指定されません。

資源名 システムの媒体ライブラリー装置ハードウェアを識別する名前を指定してください。

[トップ](#)

例

WRKMLBSTS MLB(*ALL)

このコマンドは、すべての媒体ライブラリー装置の状況を示す「媒体ライブラリー状況処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

メニュー処理 (WRKMNU)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メニュー処理(WRKMNU)コマンドはメニューのリストを表示し、これによって、指定されたメニューの属性を削除、変更、進行、または表示することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 何らかの権限をもっているメニューだけが、画面に表示されます。
- メニューに対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する*USE権限、およびその操作の実行対象であるメニューに対する適切な権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MENU	メニュー	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: メニュー	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

トップ

メニュー (MENU)

「メニューの処理」画面に表示するメニューを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: メニュー

***ALL** すべてのメニューがリストされます。

総称名 表示するメニューの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのメニューが表示されます。

名前 表示するメニューの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXMX
QGPL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX  QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM     QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
WRKMNU  PERSLIB/OE*
```

このコマンドは、名前が文字'OE'で始まっているライブラリーPERSLIB内のすべてのメニューのリストが表示される「メニューの処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

[トップ](#)

モジュールの処理 (WRKMOD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

モジュールの処理(WRKMOD)コマンドによって、1つまたは複数のライブラリーからモジュールのリストを表示して処理することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 読み取り(*READ)権限があるモジュールだけが画面に表示されます。
- モジュールで操作を行うためには、その操作で使用するコマンドに対して*USE 権限と、操作を行いたいモジュールに対して適切な権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MODULE	モジュール	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: モジュール	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	
MODATR	モジュール属性	*ALL, CBLLE, CLE, CLLE, CPPLE, RPGLE	オプション, 定位置 2

トップ

モジュール (MODULE)

リストに入りたいモジュールの検索方法を指定します。指定されたパラメーター値と一致する名前のモジュールで、ユーザーに権限があるすべてのモジュールが表示されます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: モジュール

***ALL** ライブラリー修飾子で識別されるライブラリーのすべてのモジュールが表示されます（ユーザーに権限がないライブラリーを除く）。

総称名 モジュールの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（たとえば、ABC*など）です。総称名が指定された場合には、その総称名で始まる名前のモジュールで、それに対してユーザーが権限をもっているすべてのモジュールが表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはこれを完全なモジュール名と見なします。

名前 表示されるモジュールの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

***ALL** QSYSも含めて、ジョブのライブラリー・リストのシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXMX
QGPL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM     QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

モジュール属性 (MODATR)

選択された属性をもつモジュールのリストが表示されることを指定します。

***ALL** そのモジュールと関連した属性には関係なく、モジュールが表示されます。

CBLLE

CBL属性をもつモジュール(ILE COBOLモジュール)が表示されます。

CLE C属性をもつモジュール(ILE Cモジュール)が表示されます。

CLLE CL属性をもつモジュール(ILE Cモジュール) が表示されます。

CPPLE

CPPLE属性をもつモジュール(ILE C++モジュール) が表示されます。

RPGLE

RPG属性をもつモジュール(ILE RPGモジュール) が表示されます。

[トップ](#)

例

```
WRKMOD MODULE(MYLIB/*ALL)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIB内に保管されている、ユーザーが権限をもっているモジュールのすべてをリストします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

[トップ](#)

モード記述処理 (WRKMODD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

モード記述処理(WRKMODD)コマンドによって、モード記述処理画面を通して、モード記述機能进行处理することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MODD	モード記述	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション, 位置 1

[トップ](#)

モード記述 (MODD)

処理するモード記述を指定します。

*ALL すべてのモード記述进行处理します。

総称モード記述名

総称モード記述名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

モード記述名

特定のモード記述の名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
WRKMODD MODD(*ALL)
```

このコマンドは、既存のすべてのモード記述の項目を示す「モード記述処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

メッセージの処理 (WRKMSG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

表示装置ユーザーがメッセージ処理(WRKMSG)コマンドを使用して、指定されたメッセージ待ち行列で受け取られたメッセージを処理します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *WRKUSR, *SYSOPR, *USRPRF, *WRKSTN その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、位置 1
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション
MSGTYPE	メッセージ・タイプ	*ALL, *INFO, *INQ, *COPY	オプション
SEV	重大度コード・フィルター	0-99, 0, *MSGQ	オプション
ASTLVL	援助レベル	*PRV, *USRPRF, *BASIC, *INTERMED	オプション

[トップ](#)

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

表示されるメッセージが入っているメッセージ待ち行列を指定します。

注: このパラメーターに特殊値*WRKSTN, *WRKUSR, *USRPRF, および*SYSOPRを指定する必要があるのは、対話式ジョブを行っている時だけです。

単一値

*WRKUSR

ワークステーションのメッセージ待ち行列および現行ユーザーのユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列からのメッセージが表示されます。

*SYSOPR

システム操作員メッセージ待ち行列(QSYSOPR)からのメッセージが表示されます。

*WRKSTN

ワークステーションのメッセージ待ち行列からのメッセージが表示されます。

*USRPRF

現行のユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列からのメッセージが表示されます。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 表示されるメッセージが入っているメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示される（対話式ジョブによって要求された場合）か、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。即時メッセージおよび事前定義メッセージ印刷される時は105桁に切り捨てられます。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

出力が印刷される時には、各メッセージごとに2行が印刷されます。2番目の行には、次の情報が含まれません。

- メッセージを送ったジョブの修飾ジョブ名。これは次の3つのフィールドから構成されます。
 - ジョブ名
 - ユーザー名
 - ジョブ番号
- メッセージを送ったプログラムの名前。
- メッセージを送ったプログラム内の命令番号。非プログラム・メッセージ待ち行列の場合には、これは常にゼロです。
- メッセージが送られた日付および時刻。
- メッセージが送られた時にスレッドが実行されていたユーザー・プロファイルの名前。

トップ

メッセージ・タイプ (MSGTYPE)

表示されるメッセージ待ち行列中のメッセージのタイプを指定します。

***ALL** メッセージ待ち行列中のすべてのメッセージが表示されます。

***INFO** 通知メッセージ（応答を必要としないもの）だけが示されます。

*INQ 照会メッセージ（応答を必要とするもの）だけが示されます。

***COPY**

別のメッセージ待ち行列に送られ、応答を必要とする各送信元のメッセージのコピーが表示されます。

トップ

重大度コード・フィルター (SEV)

メッセージが持つことができ、表示される最低の重大度コードの値を指定します。メッセージの重大度コードがここで指定された値より低い場合には、メッセージは表示されません。

0 指定されたメッセージ待ち行列中のすべてのメッセージが表示されます。

***MSGQ**

メッセージ待ち行列に指定された重大度コードより大きいか等しい重大度コードを持つすべてのメッセージが表示されます。

重大度コード

メッセージが持つことができ、まだ表示される最低の重大度コードの値を指定します。有効な値の範囲は00から99です。

トップ

援助レベル (ASTLVL)

表示するユーザー・インターフェースを指定します。

*PRV 使用された前のユーザー・インターフェースが表示されます。

***USRPRF**

現行ユーザー・プロファイルに記憶されているユーザー・インターフェースが使用されます。

***BASIC**

メッセージの処理画面を表示します。このユーザー・インターフェースはメッセージを2つのカテゴリーに分けます。すなわち、1)応答が必要なメッセージ、および2)応答が不要なメッセージ。新しいメッセージは各メッセージ・リストの先頭に示されます。

***INTERMED**

メッセージ表示画面を表示します。

トップ

例

WRKMSG

このコマンドは、要求元のワークステーション・メッセージ待ち行列およびユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列からすべてのメッセージを表示します。応答を必要とするメッセージが最初に表示され、続いて応答を必要としないメッセージが表示されます。メッセージは、最も新しいものから古いものへ順に表示されます。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2203

ユーザー・プロファイル&1が正しくない。

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

CPF2225

内部システム・オブジェクトを割り振ることができない。

CPF2401

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2403

&2にメッセージ待ち行列&1が見つからない。

CPF2408

メッセージ待ち行列&1は認可されていない。

CPF2433

システム・ログ・メッセージ待ち行列&1にこの機能を使用することはできない。

CPF2450

ワークステーション・メッセージ待ち行列&1がジョブに割り振られていない。

CPF2451

メッセージ待ち行列&1は別のジョブに割り振られている。

CPF2477

メッセージ待ち行列&1は現在使用中である。

CPF2513

メッセージ待ち行列&1を表示することができない。

CPF2537

&3のファイル&2に書き込まれたレコード数が多すぎる。

CPF8127

&9のメッセージ待ち行列&4に&8の損傷がある。VLICログは&7です。

CPF8176

装置記述&4のメッセージ待ち行列に損傷がある。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

メッセージ記述処理 (WRKMSGD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ記述処理(WRKMSGD)コマンドは、メッセージ・ファイルに入っているメッセージに関する詳細情報を表示します。このコマンドを使用して、メッセージ記述処理画面を通して、メッセージ記述を追加、変更、除去、および印刷することができます。この画面を使ってメッセージ記述が変更されると、メッセージの現在の値がコマンド・プロンプトに表示されます。ただし、第2レベル・メッセージ・テキストには512桁という制限があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSGID	メッセージ識別コード	名前, <u>*FIRST</u>	オプション、位置 1
MSGF	メッセージ・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション、位置 2
	修飾子 1: メッセージ・ファイル	名前, <u>QCPFMSG</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

トップ

メッセージ識別コード (MSGID)

メッセージ・ファイル (MSGF)パラメーターに指定されたメッセージ・ファイルの中のメッセージ記述のリストの表示を開始するメッセージIDを指定します。

*FIRST

メッセージ・ファイルの中の最初のメッセージ記述を使用して、リスト画面を開始します。

メッセージID

記述が表示の対象となる1つまたは複数のメッセージのメッセージIDを指定してください。メッセージIDは、それぞれが7文字の長さで、次の形式でなければなりません。PPPNNNN

最初の3桁は、2桁の英数字（英字または数字）が続く英字から成るコードでなければなりません。最後の4桁は、0から9の範囲の10進数および文字AからFで構成することができます。

トップ

メッセージ・ファイル (MSGF)

メッセージ記述が取り出されるメッセージ・ファイルを指定します。

修飾子1: メッセージ・ファイル

QCPFMSG

メッセージ記述は、システム・メッセージ・ファイルQCPFMSGから取り出されます。

名前 メッセージ記述を取り出すメッセージ・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

メッセージ・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 メッセージ・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

例

WRKMSGD MSGF(QSYS/QCPFMSG)

このコマンドは、ライブラリーQSYSのメッセージ・ファイルQCPFMSGで見つかったすべてのメッセージ記述を示す「メッセージ記述の処理」パネルを表示します。そのパネルから、メッセージ記述を追加、変更、削除、表示、または印刷することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2401

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2407

&2にメッセージ・ファイル&1が見つからない。

CPF2411

&2のメッセージ・ファイル&1は認可されていない。

CPF2483

メッセージ・ファイルは現在使用中である。

CPF2499

メッセージ識別コード&1を使用することはできない。

CPF2510

&2のメッセージ・ファイル&1に論理的な損傷がある。

CPF2516

&2の表示装置または印刷装置ファイル&1をオープンすることができない。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

メッセージ・ファイルの処理 (WRKMSGF)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ・ファイルの処理(WRKMSGF)コマンドによって、1つまたは複数のライブラリーからメッセージ・ファイルのリストを表示することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 何らかの権限をもっているメッセージ・ファイルだけが、画面に表示されます。
- メッセージ・ファイルに対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する*USE権限、およびその操作の実行対象であるメッセージ・ファイルに対する適切な権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSGF	メッセージ・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: メッセージ・ファイル	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

トップ

メッセージ・ファイル (MSGF)

表示するメッセージ・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: メッセージ・ファイル

***ALL** すべてのメッセージ・ファイルが表示されます。

総称名 表示するメッセージ・ファイルの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのメッセージ・ファイルが表示されます。

名前 表示するメッセージ・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

***USRLIBL**

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXXM
QGGL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QGGL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMOMDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMOMPROC   QUSRBRM     QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
WRKMSGF MSGF(ACCNTLIB/*ALL)
```

このコマンドは、ACCNTLIBライブラリー内のメッセージ・ファイルがすべて表示されている「メッセージ・ファイルの処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列処理 (WRKMSGQ)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ待ち行列処理(WRKMSGQ)コマンドは、メッセージ待ち行列のリストを表示し、これによって、指定されたメッセージ待ち行列を表示、変更、削除、および消去することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 何らかの権限をもっているメッセージ待ち行列だけが、画面に表示されます。
- メッセージ待ち行列に対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する*USE権限、およびその操作の実行対象であるメッセージ待ち行列に対する適切な権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSGQ	メッセージ待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

トップ

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

「メッセージ待ち行列の処理」画面に表示するメッセージ待ち行列を指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** すべてのメッセージ待ち行列が表示されます。

総称名 表示するメッセージ待ち行列の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのメッセージ待ち行列が表示されます。

名前 リストしたいメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXMX
QGPL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QG3PL38    QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QM3M3DATA  QUSRADSM    QUSR3PYMSVR
QM3M3PROC  QUSRBRM     QUSR3RDARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSR3SYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSR3VI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

例

```
WRKMSGQ  MSGQ(PERSLIB/MQ*)
```

このコマンドは、ライブラリーPERSLIB内に存在している、名前が文字'MQ'で始まっているメッセージ待ち行列がすべてリストされている「メッセージ待ち行列の処理」パネルを表示します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

[トップ](#)

通称の処理 (WRKNCK)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ニックネーム処理(WRKNCK)コマンドは、ユーザーが処理できるニックネームのリストを表示するために使用されます。このコマンドによって、システム配布ディレクトリー中のニックネームを追加、変更、除去、表示、印刷、および名前変更することができます。

ニックネームは、ディレクトリー項目または配布リスト名を短く縮めたものです。ニックネームの詳細については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

制約事項:

1. 所有していない共用ニックネームを変更、除去、または名前変更するためには、機密保護管理者 (*SECADM)権限が必要です。所有している共用ニックネームを表示または処理するには特殊権限は不要です。
2. 私用ニックネームを変更、除去、名前変更、および表示できるのは所有者だけです。特殊権限は不要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ACCESS	アクセス	*PRV, *ALL, *PRIVATE, *PUBLIC	オプションル、定位置 1

トップ

アクセス (ACCESS)

表示されるニックネームのアクセスを指定します。

***PRV** ニックネームを表示、選択、または処理するために現行ユーザーによって指定された最後のアクセスが使用されます。

***ALL** ユーザーがアクセスできるすべてのニックネームが表示されます。これには、ユーザーが所有する私用ニックネームおよびシステム配布ディレクトリー中のすべての共用ニックネームが含まれます。

***PRIVATE**

ユーザーが所有する私用ニックネームが表示されます。

***PUBLIC**

システム配布ディレクトリー中のすべての共用ニックネームが表示されます。

例

WRKNCK ACCESS(*PRIVATE)

このコマンドは、そこから専用ニックネームを追加、変更、除去、表示、印刷、および名前変更できる、「専用ニックネームの処理」パネルを表示します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8360

コミットメント制御操作を実行するための記憶域が不十分である。

CPF9006

ユーザーはシステム配布ディレクトリーに登録されていない。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEV D), DOCCHRID(*DEV D)を使用することはできない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

トップ

ネットワーク・ファイルの処理 (WRKNETF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・ファイル処理(WRKNETF)コマンドは、ユーザーに届いたファイルのリストを表示または印刷、あるいはそのファイルのリストを入れる出力ファイルを作成します。リストが表示されたら、次の処理を行うことができます。

- ファイルをユーザー・ファイルに受け取る。
- ファイルを削除する。
- ファイルを走査検索する（保管ファイルでは行なえません）。
- ファイルを投入する（入力ストリームを投入する）。（これも、保管ファイルでは行なえません）。

このコマンドは、ファイルの内容に関していかなるCCSID変換も実行しません。ただし、受信側と発信元の両方のユーザーIDおよびアドレスを、各国間共通文字セット697/500から現行ジョブCCSIDに変換します。

制約事項:

1. 機密保護担当者権限をもつユーザーは、どのユーザー宛のネットワーク・ファイルでも表示することができます。機密保護担当者権限以外の権限をもつユーザーは、それらのユーザーまたはそれらのユーザーのグループ・プロファイルに送信されたファイルしか表示できません。
2. この画面からオプションのどれかを実行するためには、そのオプションに対応するコマンドが認可されていなければなりません。たとえば、走査検索機能の場合には物理ファイル・メンバー表示(DSPPFM)コマンド、ジョブ投入機能の場合にはデータベース・ジョブ投入(SBMDBJOB)コマンドが認可されていなければなりません。
3. WRKNETFをデバッグ・モードで実行するためには、STRDBGコマンドにUPDPDPROD(*YES)を指定して、実動ファイルの更新を許可しなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USER	ユーザー	名前, *CURRENT, *ALL	オプション、位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション、位置 2
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE , *ADD	

トップ

ユーザー (USER)

どのユーザーのファイルを表示するのかを指定します。

***CURRENT**

現行ユーザーのネットワーク・ファイルが表示されます。

***ALL** すべてのユーザーのネットワーク・ファイルが表示されます。

ユーザー名

特定のユーザーのファイルを表示する場合にそのユーザーの名前を指定してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***** 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

***OUTFILE**

出力は、出力を受け取るファイル (**OUTFILE**)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。このファイルが存在しない場合には、このコマンドが指定したライブラリーにデータベース・ファイルを作成します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルのあるライブラリーを指定します。

[トップ](#)

出力を受け取るメンバー (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

指定できる名前の値は次の通りです。

***FIRST**

ファイル内の最初のメンバーが出力を受け取ります。メンバーが存在していない場合には、システムは、**出力を受け取るファイルプロンプト**(OUTFILEパラメーター) で指定されたファイルの名前でメンバーを作成します。

メンバー名

出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

情報の記憶方法に対して指定できる値は次の通りです。

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

[トップ](#)

例

例1:ユーザーのネットワーク・ファイルの処理

WRKNETF

このコマンドによって、このコマンドを実行中のユーザーのネットワーク・ファイルのすべてを処理することができます。このコマンドが対話式ジョブとして出されると、ファイルのリストが要求側ワークステーションに表示されます。このコマンドがバッチ・ジョブとして出されると、ファイルのリストはジョブのスーパー出力とともに印刷されます。

例2:出力の印刷

WRKNETF USER(USR1) OUTPUT(*PRINT)

このコマンドによって、USR1のネットワーク・ファイルを処理することができ、出力はジョブのスパール出力とともに印刷されます。このコマンドを出すことができるのは、USR1、USR1グループのメンバー、または機密保護担当者権限をもつユーザーだけです。

例3:すべてのユーザーのネットワーク・ファイルの処理

```
WRKNETF  USER(*ALL)  OUTPUT(*OUTFILE)  OUTFILE(NETFILES)
```

このコマンドによって、すべてのユーザーのネットワーク・ファイルを処理することができ、NETFILESという名前のデータベースの先頭メンバーに書き込まれます。このファイルがライブラリー・リストのライブラリー内に存在している場合は、既存ファイルが使用されます。そうでない場合は、ファイルはQGPLライブラリー内に作成されます。ファイルが存在していないか、メンバーが入っていなかった場合は、ファイルと同じ名前をもつメンバーがファイルに追加されます。そうでない場合は、ファイルの先頭メンバーが作成されて使用されます。このコマンドを出すことができるのは、機密保護担当者権限をもつユーザーだけです。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF8070

ユーザー&1にはファイルの処理は許可されていない。

CPF9005

この要求を完了するのに必要なシステム資源を使用することができない。

CPF9006

ユーザーはシステム配布ディレクトリーに登録されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ネットワーク・ジョブ項目処理 (WRKNETJOBE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・ジョブ項目処理(WRKNETJOBE)コマンドは、ネットワーク・ジョブ項目を表示します。このシステムにジョブを投入することのできる各ユーザーまたは配布グループごとに1つの項目があります。

この項目は、入力ストリームを自動的に投入するか、ユーザーのネットワーク・ファイルの待ち行列に入れるか、あるいは拒否するかを決めるために使用します。また、この項目は、バッチ・ジョブによって参照されるジョブ記述に対する権限のチェックに使用されるユーザー・プロファイルを指定します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT -	オプション、位置 1

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

* 出力は表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合)、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

例1:出力の印刷

```
WRKNETJOBE OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドによって、ジョブのスパール出力とともに印刷されるネットワーク・ジョブ項目を処理することができます。

例2:ネットワーク・ジョブ項目の処理

WRKNETJOBE OUTPUT(*)

対話式ジョブで出されると、このコマンドによって、要求側ワークステーションでネットワーク・ジョブ項目を処理することができます。このコマンドがバッチ・ジョブで出されると、ネットワーク・ジョブ項目はジョブのスプール出力とともに印刷されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF1844

ネットワーク属性&1をアクセスすることができない。

CPF8050

ネットワーク・ジョブ・テーブルをアクセスすることができなかった。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ネットワーク・テーブル項目の処理 (WRKNETTBLE)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

ネットワーク・テーブル項目処理(WRKNETTBLE)コマンドを使用して、項目を追加、除去、表示、または印刷できるネットワーク・テーブル項目のリストを表示します。リストの印刷を選択することもできます。

ユーザーのネットワークおよび関連するIPアドレスのリストを管理するために、ネットワーク・テーブルが使用されます。

制約事項:

- このコマンドを使用して追加または除去するためには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NETWORK	ネットワーク	文字値, <u>*ALL</u>	オプション、位置 1
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT	オプション、位置 2

トップ

ネットワーク (NETWORK)

処理したいネットワーク項目を指定します。

*ALL テーブル中のすべてのネットワークが表示または印刷されます。

名前 ネットワークの名前を指定してください。一致するすべての項目が表示または印刷されます。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

* 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

WRKNETTBLE

このコマンドは、ネットワーク・テーブル項目のすべてのリストを表示します。ネットワーク・テーブル項目はこのリストからの追加、除去、表示、または印刷を選択することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

ノード・リストの処理 (WRKNODL)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ノード・リスト処理(WRKNODL)コマンドによって、ノード・リスト・オブジェクトのリストを処理し、新しいノード・リストを作成し、既存のノード・リストを削除し、ノード・リスト項目を処理することができます。

制約事項:

1. *USE権限があるライブラリーだけが検索されます。
2. ユーザーが特定の権限をもつノード・リストだけが画面に表示されます。
3. ノード・リストで操作を実行するためには、ユーザーは、その操作で使用されるコマンドに対して*USE権限をもち、かつその操作が実行されるノード・リストに対して適切な権限をもっていなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NODL	ノード・リスト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ノード・リスト	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

トップ

ノード・リスト (NODL)

表示されるノード・リストの修飾名を指定します。

ノード・リスト名は、次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

***ALL** QSYSも含めて、ジョブのライブラリー・リストのシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB    #DSULIB    #SEULIB
#COBLIB    #RPGLIB
#DFULIB    #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXXM
QGGL       QSRVAGT    QUSRINFSCR
QGGL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMユーザー・ライブラリーのVXRXXMは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** ライブラリーに指定されたすべてのノード・リストがリストされます。

ノード・リスト名

表示しているノード・リストの名前を指定してください。

総称*ノード・リスト名

表示しているノード・リストの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング(たとえば、ABC*など)です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名は、名前が総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのオブジェクトを指定します。総称(接頭部)名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。完全なオブジェクト名が指定されて、複数のライブラリーが検索された場合には、名前に*ALLまたは*ALLUSRライブラリー値が指定された場合にかぎり、複数のオブジェクトを戻すことができます。

トップ

例

```
WRKNODL    NODL(MYLIB/MY*)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBで名前が「MY」の文字で始まるすべてのノード・リストのリストを表示します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

ノード・リスト項目の処理 (WRKNODLE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ノード・リスト項目処理(WRKNODLE)コマンドによって、ユーザーはノード・リスト項目を表示、印刷、追加、または除去することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NODL	ノード・リスト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ノード・リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ADRTYPE	アドレス・タイプ	*ALL, *SNA, *IP	オプション

[トップ](#)

ノード・リスト (NODL)

項目を表示するノード・リスト・オブジェクトの修飾名を指定します。

ノード・リスト名は、次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

ノード・リスト名

使用するノード・リストの名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

アドレス・タイプ(ADRTYPE)

処理するノード・リスト項目をアドレス・タイプで指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** すべてのノード・リスト項目が表示されます。

***IP** アドレス・タイプがインターネット・プロトコル(IP)のノードだけが表示されます。

***SNA** アドレス・タイプがシステムネットワーク体系(SNA)のノードだけが表示されます。

トップ

例

例1:すべてのノード・リスト項目の表示

```
WRKNODLE NODL(MYLIB/NODL02)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBにあるノード・リストNODL02中のすべての項目のリストを表示します。

例2:すべてのIPノード・リスト項目の表示

```
WRKNODLE NODL(MYLIB/NODL02) ADRTYPE(*IP)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBにあるノード・リストNODL02中のすべてのIP項目のリストを表示します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF7D41

オーダー援助要求のロギング時にエラーが起こった。

CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

CPF813E

&9のノード・リスト&4に損傷がある。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

NETBIOS記述の処理 (WRKNTBD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NETBIOS記述処理(WRKNTBD)コマンドは、NETBIOS記述機能への対話式インターフェースを提供するNETBIOS記述処理メニューを表示します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NTBD	NETBIOS記述	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション, 位置 1

トップ

NETBIOS記述 (NTBD)

処理するNETBIOS記述を指定します。

***ALL** ユーザーはすべてのNETBIOS記述を処理することができます。

総称*NETBIOS記述名

NETBIOS記述の総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（たとえば、ABC*など）です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

NETBIOS記述名

処理するNETBIOS記述の名前を指定してください。

トップ

例

WRKNTBD NTBD(MYNETBIOS)

このコマンドは、NETBIOS記述MYNETBIOSの項目を示す「NETBIOS記述処理」パネルを表示します。MYNETBIOSが存在しない場合には、項目は何も表示されません。

トップ

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとしします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department 49XA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

(C) (御社名) (年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 (C) Copyright IBM Corp. 1998, 2006. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

Advanced Function Printing

AFP

AS/400

CICS

COBOL/400

C/400

DataPropagator

DB2

IBM

Infoprint

InfoWindow

iSeries
LPDA
OfficeVision
i5/OS
Print Services Facility
RPG/400
SystemView
System/36
TCS
WebSphere

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。



Printed in Japan